

第四十九條 第九條第一項及第四十八條但書ノ場合ニ於テ特許ヲ請フ者ハ定規ノ手数料ヲ納ムヘシ但手数料ハ大藏大臣之ヲ定ム

第五十條 此ノ規則ニ於テ船主ト稱スルハ其船ノ所有主若ハ現ニ其船ノ使用權ヲ有スル者ヲ云ヒ船長ト稱スルハ現ニ其船ヲ管理シ若ハ指揮スル者ヲ云ヒ貨主ト稱スルハ貨物ノ所有主若ハ其受託人ヲ云フ

第五十一條 此規則ニ於テ輸出ト稱スルハ貨物ヲ外國へ輸出スルヲ云ヒ輸入ト稱スルハ貨物ヲ外國ヨリ輸入スルヲ云ヒ貨物ト稱スルハ旅具及船用品ヲ除クノ外一切ノ物件ヲ云フ

第五十二條 此ノ規則ニ於テ入港ノ時ト稱スルハ船舶ノ投錨若ハ繫留セキトキヲ云ヒ出港ノ時ト稱スルハ拔錨若ハ解纜ノトキヲ云フ

第五十三條 密輸出入ヲ税關ニ申告スル者ニハ其沒收セシ貨物代價ノ半額ヲ給ス

第五十四條 露西亞國樺太島貿易ニ從事スル船舶ニ限リ當分ノ内出入港手数料及該船ニ搭載スル貨物ノ輸出入税ヲ免除ス但船舶ノ出入港手数料ニ限リ第三十一條第三十二條ヲ適用ス

附則 第二款 證券印税ニ係ル諸件

○第三百六十五 證券印税規則 明治十七年五月一日 布告第十一號

明治七年<sup>七</sup>第八拾壹號布告證券印税規則別冊ノ通改正シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス

但明治八年<sup>七</sup>第百貳拾號布告ハ同日ヨリ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊) 證券印税規則

第一條 凡ソ財産ノ授受及ヒ契約ノ證明ニ用ル證書帳簿ハ此規則ニ循ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

第二條 證書帳簿ヲ分テ二類ト爲シ其税率ハ左ノ如シ

第一類

左ニ掲クル所ノ證書帳簿ハ金高ノ有無多寡ニ拘ハラズ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ但當座預リ金引出小切手ハ大藏省ニ税印ノ押捺ヲ請フコトヲ得

- 一 當座預リ金引出小切手 印税五 厘 一委任狀 同 五 厘
- 一 金高記載ナキ約定證文 同 壹 錢 一遺物證文 同 壹 錢
- 一 跡式讓證文 同 壹 錢 一讓與證文 同 壹 錢
- 一 期限ヲ定メサル預リ金證文 同 壹 錢 一耕地小作證文 同 壹 錢
- 一 雇人請合狀 同 壹 錢 一金高記載ナキ諸物品預リ證文 同 壹 錢
- 一 金高記載ナキ諸物品借用證文 同 壹 錢 一地主所預リ證文 同 壹 錢

一 諸物品切手	同 壹 錢	一 借地 證文	同 壹 錢
一 賣買仕切書	同 壹 錢	一 保險 證文	同 壹 錢
一 諸會社株券	同 壹 錢	一 送金 手形	同 壹 錢
一 金 錢 通帳	一年以内 一冊二付 同 壹 錢	一 金 錢 列取帳	同 貳拾 錢
一 結社約定書	同 壹 錢		
但結社約定書ニ金圓授受貸借ニ係ル條項アリテ之カ効力ヲ確定スル證書帳簿ハ金高 記載ナシト雖モ第三類金高記載アル諸般ノ契約證書ニ準シ印紙ヲ貼用スヘシ			
左ニ掲グル所ノ證書ハ金高五圓以上ノモノニ限リ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ			
一 營業ニ關スル送狀 印稅壹 錢 一 營業ニ關スル請取書 同 壹 錢			
右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ都テ一年以内一冊ニ付壹錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ			
第二類			
左ニ掲グル所ノ證書ハ金高ノ多寡ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用スヘシ但 爲替手形約束手形ハ手形用紙ヲ用フヘシ			
一 金 錢 借用 證文		一 地所 賣買 證文	
一 金高記載アル諸物品預リ證文		一 金高記載アル諸物品借用證文	
一 諸物品賣買證文		一 金 錢 定期 預リ 證文	
一 金高記載アル諸般ノ契約證書			

金高壹圓以上貳拾圓未満	印稅壹 錢	金高貳拾圓以上五拾圓未満	同 貳 錢
金高五拾圓以上百圓未満	同 四 錢	金高百圓以上百五拾圓未満	同 六 錢
金高百五十圓以上二百圓未満	同 八 錢	金高貳百圓以上三百圓未満	同 拾 壹 錢
金高三百圓以上四百圓未満	同 拾 四 錢	金高四百圓以上六百圓未満	同 貳 拾 錢
金高六百圓以上八百圓未満	同 貳 拾 六 錢	金高八百圓以上千圓未満	同 三 拾 貳 錢
金高千圓以上千四百圓未満	同 三 拾 八 錢	金高千四百圓以上千七百圓未満	同 四 拾 四 錢
金高千七百圓以上二千圓未満	同 五 拾 錢	金高二千圓以上二千五百圓未満	同 六 拾 錢
金高二千五百圓以上三千圓未満	同 七 拾 錢	金高三千圓以上三千五百圓未満	同 八 拾 錢
金高三千五百圓以上四千圓未満	同 九 拾 錢	金高四千圓以上	同 壹 圓
右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ			
一 金 錢 當座 預リ 證文	印稅四 錢	一 質物 預リ 證文	同 貳 錢
一 金高壹圓以上貳拾圓未満	印稅壹 錢	一 質物 小札	同 貳 錢
右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ			
金高百圓未満	印稅貳 錢	金高百圓以上	同 四 錢
一 爲替手形	印稅貳 錢	一 約束手形	同 貳 錢
金高五拾圓未満	印稅壹 錢	金高五拾圓以上百圓未満	同 貳 錢

金高百圓以上貳百圓未滿 同 四 錢 金高貳百圓以上五百圓未滿 同 八 錢  
 金高五百圓以上千圓未滿 同 拾 五 錢 金高千圓以上貳千圓未滿 同 貳拾 五 錢  
 金高貳千圓以上 同 五 拾 錢

第三條 前條ニ掲クル所ノ證書帳簿ト効用ヲ同フスルモノハ其名稱ニ拘ハラヌ稅率ニ照シ  
 相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第四條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニシテ第五條ノ手續ニ循ヒ印紙ヲ貼用セサルモノハ民  
 事裁判所之ヲ受理セス但處罰ヲ受クル後印紙ヲ貼用シタルモノハ此限ニ在ラス

第五條 印紙ハ證書ノ差出人又ハ帳簿主ニ於テ證書ハ授受ノ前帳簿ハ使用ノ前ニ貼用シ證  
 書帳簿記名ノ下ニ押捺スル印ヲ以テ證書帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ消印スヘシ

第六條 印紙及ヒ手形用紙ノ種類定價ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 印紙及ヒ手形用紙ハ官ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ非サレハ之ヲ賣捌クコトヲ得ス

第八條 印紙ヲ貼用スヘキ帳簿仕切書送リ狀ハ主任官之ヲ檢査スルコトアルヘシ

第九條 左ニ掲クル所ノ證書帳簿ハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス  
 一官廳ヨリ差出ス證書帳簿  
 一官吏準官吏若クハ布告布達又ハ達ヲ以テ定メタル議員若クハ公立學校病院ニ從事スル  
 モノ各其職務ニ依テ用ヅル證書  
 一國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ差出ス預貯金ニ對スル抵當證書

一國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ對シタル諸上納金ノ預貯證書帳簿  
 一金員記載アル官廳ヨリノ命令書ニ對シ國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ差出ス請書

一諸上納金ニ付國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ納入ニ差出ス請取證書  
 一罹災救助金獻金寄附金ニ關シ人民ヨリ官廳ニ差出ス證書帳簿

一切手、手形類ノ裏面ニ記載シタル受取書（昭和二十三年四月法律第三十號）ニ關シ  
 第十條 第二類ノ帳簿ハ初丁へ附込見積金高及ヒ使用期限紙數ヲ記載スヘシ但物品ノ授受  
 ニ關スルモノハ其代價ヲ記載スヘシ

第十一條 證書帳簿ニ稅率ノ異ナルモノヲ雜記スルトキハ各相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十二條 印紙貼用濟第二類ノ帳簿見積金高ハ使用期限ノ滿チタルトキハ其旨該帳簿ニ記  
 載シ置キ主任官檢査ノ節之レニ檢印ヲ受クヘシ

第十三條 前條ノ帳簿餘白アリテ尙之ヲ使用セントスルトキハ第十條ノ手續ヲ以テ更ニ相  
 當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十四條 第二類ノ帳簿見積金高未タ滿タサルカ又ハ使用期限未タ盡キサルニ紙數盡キタ  
 ルトキハ更ニ増加スルコトヲ得此場合ニ於テハ其帳簿初丁見積金高又ハ期限ノ例ニ其事  
 由及ヒ増加シタル紙數ヲ記載スヘシ

第十五條 證書帳簿ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ內國ノ貨幣ニ改算シタル金高  
 ヲ附記シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十六條 取換七證書ハ雙方トモ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十七條 證書ニ副證書ヲ附シ又ハ裏書等ヲ爲シ本證書ト効用ヲ異旨スルモノ若クハ金高ニ増減ヲ生スルモノハ其副書又ハ其裏書ニ就キ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十八條 此規則ヲ犯シ脱税ニ係ルモノハ處罰ヲ受ケル後證書帳簿ヲ受取ルニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用スルコトヲ得

第十九條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニ之ヲ貼用セス若クハ貼用不足スルモノ及ヒ手形用紙ヲ用ヒス若クハ不足税ノ手形用紙ヲ用ヒタルモノハ脱税高三十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ

第二十條 第十八條ノ場合ヲ除ク外第五條ノ手續ニ據テ消印ヲ爲サズ又ハ他ノ印ヲ以テ消印シタルモノハ印税高十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ

第二十一條 此規則ヲ犯シタル證書帳簿ニ請人證人トシテ加印シタルモノハ各正犯ニ係ル科料罰金ノ半額ニ相當スル科料又ハ罰金ニ處ス

第二十二條 第八條ノ證書帳簿ヲ検査ヲ拒ミタルモノハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第十條及ヒ第十三條ヲ犯シタルモノハ二十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 第十二條及ヒ第十四條ヲ犯シタルモノハ二十圓以上五十圓以下ノ科料ニ處ス

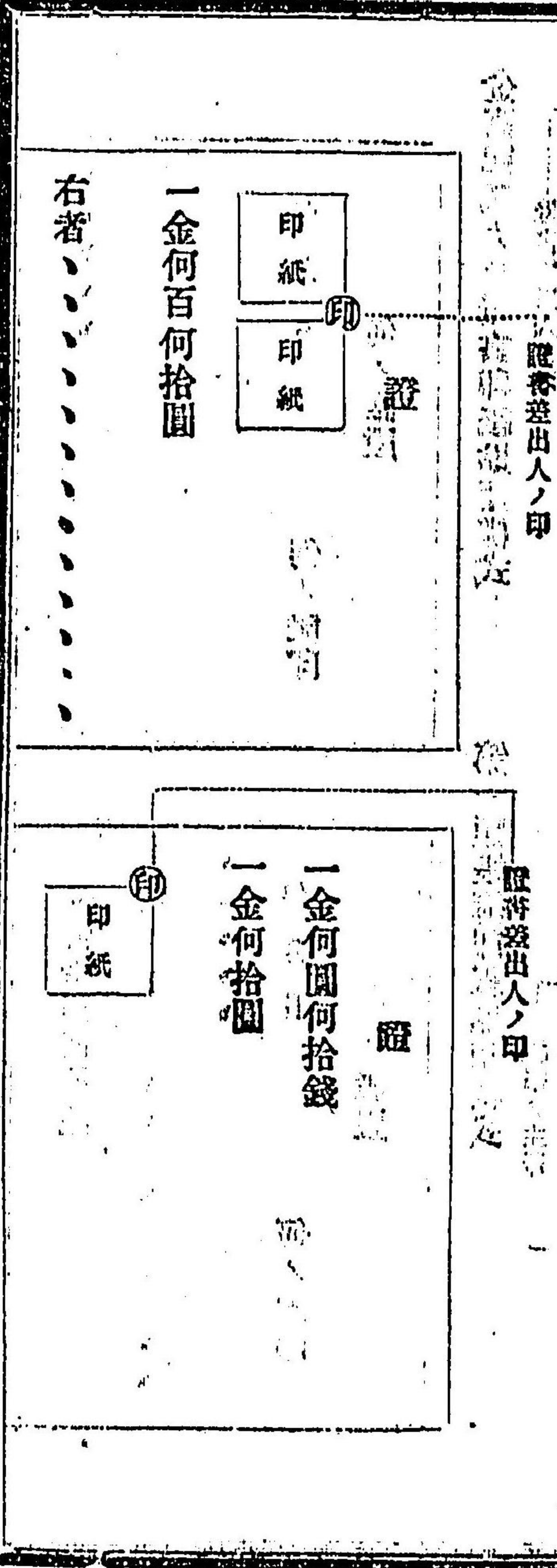
第二十五條 第七條ヲ犯シタルモノハ所持ノ印紙及ヒ賣得金ヲ沒收シ五十圓以上五十圓以下

ノ罰金ニ處ス

第二十六條 前數條ノ罪ヲ犯シタルモノハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

○第三百六十六 證書帳簿へ印紙貼用ノ様式

本年五月第拾壹號布告證券印稅規則改正相成候ニ付證書帳簿へ印紙貼用ノ様式左之通相定候條此旨告示候事



金高記載ナキ證書印紙貼用様式

證書発出人ノ印

年月日

何ノ誰印

何證文ノ事

印紙

第一類帳簿印紙貼用様式

帳簿ノ主印

年月日

何ノ誰印

此帳簿附込見積金何千圓

附込期限 何年何月何日 何年何月何日

印紙

印紙

印紙

印紙

合金何拾圓何拾錢

右者

年月日

何ノ誰印

此帳簿附込期限 何年何月何日 何年何月何日

印紙

印紙

印紙

印紙

第二類帳簿印紙貼用様式

帳簿主ノ印

年月日

何ノ誰印

紙數何百何拾何葉

年月日

何ノ誰印

此帳簿附込見積金何千圓

附込期限 何年何月何日 何年何月何日

印紙

印紙

印紙

印紙

第一類第二類帳簿附込印紙貼用様式

帳簿主ノ印

年月日

何ノ誰印

此帳簿附込期限 何年何月何日 何年何月何日

印紙

印紙

印紙

印紙

紙數何百何拾何葉

年月日 何ノ誰印

此帳簿附込見積金何千圓

附込期限 何年何月何日 何年

紙數何百何拾何葉

年月日 何ノ誰印

(附言) 十七年告示第八十八號ヲ以テ第一第二様式中(附込期限)ノ下(本年限)トアリシ  
ヲ本文ノ如ク改ム

伺指令

●町村吏員管掌ノ事務ニ關シ財産ノ授受及契約ヲナストキ印紙貼否ノ件明治二十二年七月二日  
町村吏員ノ擔任管掌スル事務ニ關シ財産ノ授受及ヒ契約ヲ爲ストキ用フル凡テノ證書帳簿  
ハ町村役場ノ名義ヲ以テスルモノト否トハ問ハス證券印稅規則第九條ニ依リ印紙ヲ貼用ス  
ルコトヲ要セサルヤ町村制施行ニ付舊町村吏員トハ大ニ其趣ヲ異ニシ聊カ疑義ニ涉リ決意  
候條何分ノ御指揮相成度

大藏省指令 明治二十二年七月八日

伺ノ件ハ渾テ證券印紙稅規則ニ依リ相當印紙ヲ貼用セシムヘシ

●市町村吏員及特例ニ依ル三府ニ置役所ノ事務ニ關シ證券印紙稅規則第九條適用方ノ件明  
治二十二年七月二十三日

京師府令(内務大臣兩省宛)

市町村ニ於テ管掌スル金錢ノ授受ハ獨リ市町村費ニ限ラズ國稅地方稅ヨリ各種ノ寄託金ニ  
至ル迄其取扱フ處從前ノ區役所戶長役場ニ於テスルモ敢テ異ナル處ナキモ制度改正後ハ之  
ヲ官廳視スルヲ得サルニヨリ隨テ金錢ノ授受及契約ノ證明等ニ用フル證書帳簿ノ類ハ總テ  
明治十七年五月第十一號布告證券印紙稅規則ニ依ルベキ者如シト雖モ畢竟スルニ現時ノ市  
町村役場ハ其組織コソ異ナレ其職務ニ於テハ從來ノ區役所戶長役場ト大差ナキモノニ付實  
際上右等ノ取扱ハ無論該規則第九條ヲ適用スルニ筋ニ候哉  
●追テ本文ノ件若シ規則第九條ヲ適用セサルモノトスルモ府下京都市ノ如キハ特別ノ制ニ  
ヨルモノニ付該區役所ノ事務ハ獨リ市ニ屬スル事務ニ限ラス廣ク國及ヒ府ノ事務ヲ取扱  
ルハシムルヲ以テ是等ハ特ニ本文見解ノ如ク相心得可然哉

大藏省指令 明治二十二年八月七日

本年七月二十三日附ヲ以テ證券印紙稅規則ノ儀ニ付伺ノ件ハ渾テ同規則ニ依リ相當印  
紙ヲ貼用スヘシ但本省主管ニ付本省限リ指令ス

第二款 公債ニ關スル條例規則中市町村長ノ取扱ニ關スル件

●第二百六十七 整理公債條例 明治十九年十月十六日(同日公布)  
朕整理公債條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

整理公債條例

第一條 整理公債ハ従前發行ノ六分以上利付ノ内國債ヲ償還整理スルカ爲メニ募集スルモノトス

第二條 整理公債ハ壹億七千五百萬圓ヲ限リ大藏大臣財政ノ便宜ヲ計リ漸次之ヲ募集スルモノトス

第三條 整理公債利子ノ割合ハ一箇年百分ノ五トス

第四條 整理公債ニ對シ發行スル證書ハ無記名札附ニシテ五千圓五百圓百圓五拾圓ノ五種トス但應募者又ハ所有者ノ望ニ由リ記名トスルコトヲ得

第五條 整理公債證書ノ株式ハ大藏大臣之ヲ定メ豫メ告示スヘシ

第六條 整理公債ヲ募集スルトキハ其總價格應募申込日限應募金拂込度數等ハ大藏大臣之ヲ定メ豫メ告示スヘシ

大藏大臣ハ前項ノ手續ニ據ラス市場ノ時價ニ準シ整理公債證書ノ價格ヲ定メ臨時之ヲ發行シテ日本銀行ニ交付スルコトヲ得但發行シタル證書ノ金額及價格ハ大藏大臣其發行ノ翌日之ヲ告示スヘシ二十一年六月十六日勅令第四

第七條 整理公債應募高每期需用ノ額ニ超過スルトキハ大藏大臣ハ應募價格ノ高キモノヨリ順次證書ヲ交付シ需要額ニ滿ルニ至テ止ム其價格同シキモノハ申込ノ高ヲ割合減少スルモノトス但時宜ニ依リ貳百圓以下ノ應募者ニハ之ヲ減少セサルコトアルヘシ同上勅令ヲ以テ本條ニ

但書ヲ追加ス

第八條 整理公債應募金ノ拂込ヲ數回ニ分ツ場合ニ於テ拂込期ノ末日マテニ拂込未済ノモノアルトキハ其翌日ヨリ現拂込ノ日マテ一箇年百分ノ七ノ割合ヲ以テ利子ヲ徵收スヘシ前項拂込期日後三箇月ヲ過キ猶ホ拂込ヲ爲サルトキハ公債證書ヲ交付セス且既ニ拂込ノ金額ハ還付セサルモノトス

第九條 整理公債元金ハ募集ノ年ヨリ五箇年據置其翌年ヨリ向五十箇年間ニ抽籤法ヲ以テ償還スルモノトス但償還金額ハ其時々々大藏大臣之ヲ定メ豫メ告示スヘシ

第十條 整理公債元金償還ノ爲メ抽籤ヲ爲ストキハ日本銀行本店ニ於テ大藏省官吏三名以上會計検査院官吏二名以上日本銀行役員二名以上立會ノ上之ヲ執行ス但整理公債證書額面三拾萬圓以上ヲ有スルモノハ抽籤ニ臨席スルコトヲ得

抽籤ノ後ハ日本銀行ヲシテ常籤證書ノ記號番號種類及ヒ金額等ヲ廣告セシムルモノトス

第十一條 整理公債利子ハ毎年六月十二月ニ於テ支拂フモノトス  
第十二條 整理公債ノ利子ハ其元金拂込時月ノ十五日以前ニ在ルモノハ下半年分ヨリ支拂ヒ月ノ十六日以後ニ在ルモノハ翌月分ヨリ支拂ヒ元金償還ノ年ニ於テハ其償還ノ月マテ月割ヲ以テ支拂フモノトス

第十三條 整理公債證書ノ利札ハ利子請取ノ時其所有者各自之ヲ裁斷シテ日本銀行本支店又ハ代理店ニ持參スヘシ

第十四條 整理公債元利ノ支拂ヲ請求セサルモノアルトキハ元金ハ償還ノ月ヨリ滿十五箇  
 年利子ハ支拂ノ期月後滿五箇年ヲ過シタル之ヲ支拂ハサルヘシ但證書ノ紛失汚染及ヒ毀  
 損等ニ由リ元利ノ支拂ヲ見合セ及ヒ訴訟事件ニ由リ請求ヲ爲シ難キ場合アルトキハ其間  
 ノ日數ヲ算セス

第十五條 無記名證書ヲ記名ニ變換セシトスルモノハ其請求書ニ戶長ノ與書ヲ受ケ證書ヲ  
 添ヘ日本銀行支店又ハ代理店ヲ經由シテ大藏省ニ申出ヘシ

第十六條 記名證書ヲ賣買譲渡ヲ爲シタルモノハ雙方地署ノ請求書ヲ添ヘ日本銀行本支店  
 又ハ代理店ニ差出シ名前書換ヲ請フヘシ

第十七條 記名證書ノ所有者死去シタルトキ其相續人ハ請求書ニ正當ノ相續人タルコトヲ  
 證スル戶長ノ與書ヲ受ケ前條名前書換ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條 記名證書ノ所有者ノ遺言ニ依リ相續人ニ非スニテ證書ヲ讓リ受ケタルモノアル  
 トキハ右相續人ヲ以テ保證人ト爲シ前條名前書換ノ手續ヲ爲スヘシ但相續人ナキ場合ニ  
 於テハ前所有者ノ親戚二名以上ヲ以テ保證人ト爲スヘシ

第十九條 記名證書ノ所有者身代限ノ處分ヲ受ケ證書ノ所有權他ヘ移轉シタルトキ其引受  
 人ハ裁判所ノ證明書ヲ承ケ之ヲ證書ニ添ヘ前條名前書換ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十條 整理公債證書若クハ其利札水火災等ニ由リ消滅シタルトキハ二名以上ノ保證人  
 ヲ立テ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經由シテ大藏省ニ届出代證書若クハ代利札ノ交付又

ハ利子ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ大藏省ハ其消滅ノ證據明確ナリト認ムル  
 トキハ直ニ代證書若クハ代利札ヲ交付シ又ハ利子ヲ支拂フヘシ

第二十一條 整理公債證書又ハ利札ヲ紛失シタルモノハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ届出  
 ヘシ其發見ノ時亦同シ

前項ノ届出アルトキハ銀行ハ直ニ其次第ヲ廣告スヘシ但廣告料ハ届出人ヨリ納メシムル  
 モノトス

第二十二條 公債證書又ハ利札紛失ノ届出アルトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ハ之カ支  
 拂ヲ見合スヘシ

第二十三條 紛失届出ノ證書又ハ利札ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ持參スルモノアルト  
 キハ銀行ハ之ヲ預リ置キ其旨ヲ届出人ニ報知シ持參人ト届出人ト相當ノ手續ヲ經テ所有  
 權ヲ證明スルヲ待テ其取扱ヲ爲スヘシ

第二十四條 記名證書紛失届出後一回ノ利拂了リタル上ハ二名以上ノ保證人ヲ立テ日本銀  
 行本支店又ハ代理店ヲ經由シテ大藏省ニ申出代證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第二十五條 紛失無記名證書其届出ヨリ滿六箇年ヲ過キ紛失利札其支拂期限ヨリ滿四箇年  
 ヲ過キ尙ホ發見セサルトキハ届出人ニ代證書ヲ交付シ又ハ利子ヲ支拂フヘシ但本文期限  
 ヲ過キテ紛失證書又ハ利札ヲ持參スルモノアルモ届出人ニ對シテ之ヲ起訴ノ權アルモノ  
 トス



第二十六條 紛失證書ノ常紙ハ無効ノモノトス

第二十七條 整理公債證書ヲ汚染又ハ毀損シタルトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經由シテ其證書ヲ大藏省ニ差出シ代證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得大藏省ニ於テ其真正ヲ證明シ得ヘキモノニハ代證書ヲ交付シ鑒別シ難キモノニハ其取扱總テ紛失證書ノ例ニ準セシム

第二十八條 第十五條ノ證書交換ヲ受クルトキ第十六條第十七條第十八條第十九條ノ名前書換ノトキ第三十條第二十四條第二十五條第二十七條ノ代證書ヲ受クルトキ及ヒ記名證書ノ取扱店ヲ變更スルトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ハ相當ノ手数料ヲ本人ヨリ納メシムルコトヲ得

第二十九條 第二十四條第二十四條ノ保證人ハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ満足スルモノニ限ルヘシ

第三十條 従前發行ノ六分以上利附ノ公債證書ヲ所有スルモノハ元金償還ノ時本人ノ請求ニ由リ大藏省ノ都合ヲ以テ整理公債證書ヲ交付スルコトアルヘシ

第三十一條 整理公債證書ノ製造費發行費及ヒ募集初年ノ利子ハ募集金ヲ以テ支出スルコトヲ得

第三十二條 整理公債ノ募集償還利子ノ拂渡證書ノ書換等ニ關スル取扱手續ハ大藏大臣之ヲ定メ日本銀行ヲシテ其事務ヲ取扱ハシム

○第三百六十八 整理公債取扱順序中記名證書所有者印鑑ニ關シ市町村長與齋等ノ整理公債取扱順序ノ内  
件明治十九年十月十九日  
大藏省令第三十號

第三十條 記名證書所有者ハ戶長ノ保證ヲ經テ其印鑑ヲ取扱店ヘ差出スヘシ但改印改姓名ヲナシタルトキモ亦本條ノ手續ヲナスモノトス

第三十一條 整理公債條例第二十八條ニ掲ケル手数料ノ高ハ日本銀行ニ於テ之ヲ定メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

○第三百六十九 海軍公債證書條例明治十九年六月十二日(六月十五日公布)  
勅令第四十七號  
朕海軍公債證書條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍公債證書條例  
第一條 海軍公債證書ハ海軍軍備ノ費途ニ充ツル爲メ壹千七百萬圓ヲ限リ三箇年間ニ漸次之ヲ發行スルモノトス

第二條 此公債ノ利子ハ一箇年百分ノ五トス

第三條 此公債ノ元金ハ證書發行ノ年ヨリ五箇年据置其翌年ヨリ向三十箇年間ニ抽籤ヲ以テ之ヲ償還ス

第四條 此公債證書發行ノ價格ハ大藏大臣之ヲ定ム

第五條 此公債證書ハ無記名利札附ニシテ千圓五百圓百圓ノ三種トシ其様式ハ大藏大臣之

ヲ定ム但應募者又ハ所有者ノ望ニ由リ記名トスルコトヲ得二十年二月廿八日勅令第  
二號ヲ以テ本條ヲ改正ス  
第六條 此公債證書引受申込高毎期需用ノ高ニ超過スルトキハ其申込價格ノ高キモノヨリ  
順次證書ヲ交付シ需用額ニ滿ツルニ至テ之ヲ止ム

第七條 此公債ノ利子ハ毎年五月十一月ニ拂渡スモノトス  
第八條 此公債證書抽籤ノ時ハ大藏省官吏三名以上會計検査院官吏二名以上及ヒ日本銀行  
役員二名以上立會ソ上之ヲ執行ス但此公債證書額面拾萬圓以上ヲ有スルモノハ抽籤ノ席  
ニ臨ムコトヲ得

(當籤證書ノ記號番號種類高等ハ大藏大臣之ヲ告示ス)明治二十三年八月勅令第百七  
十八號ヲ以テ本項ヲ刪除ス  
第九條 此條例外ノ事項ハ總テ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ニ據ル同上勅令ヲ  
以テ本條ヲ  
改正ス

○第二百七十 鐵道費補充公債條例明治二十二年一月二十八日(二月二十九日)公布  
朕鐵道費補充公債條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第二條 鐵道費補充公債條例ニ依リて神奈川縣下戸塚橫須賀間滋賀縣下天津長濱間ノ鐵道布股資金ヲ  
補充スルルガ爲メニ證書額面貳百萬圓ヲ限リ募集スルモノトス  
第二條 此公債募集ノ方法元金ノ償還年限利子歩合利子支拂期月及ヒ其他ノ事項ハ總テ明  
治十九年勅令第六十六號整理公債條例ニ依ル

● 伺指令

● 整理公債證書無記名ヲ記名ニ變換其他取扱方ノ件明治二十一年十月三十一日  
日本銀行伺  
整理公債證書條例第十五條ニ無記名證書ヲ記名ニ變換セントスルモノハ其請求書ニ戶長ノ  
與印ヲ受ケ云々ト有之候處其與書ノ文詞タル該請求書ノ全部ヲ保證スルアリ或ハ單ニ所有  
者ノ在籍ト印鑑トヲ保證スルニ止マル等甚區々ニシテ取扱上疑義ニ相涉リ候間何レヲ允當  
トシ取扱可然哉  
爰ニ七分利付金祿公債證書所有者アリシニ該所有者右公債證書ヲ殘シ置逃亡セシニ因リ之  
カ管財人印鑑ヘ區戶長ノ保證ヲ經テ届出アルニ因リ每期利子ハ該印鑑ニ照シ拂渡來候處今  
般右公債證書ハ當籤ニ係リ元金代リ整理公債記名證書ヲ右管財人ヨリ請求セリ就テハ該新  
證書記名方ノ儀ハ前陳逃亡等ニ不拘本人記名タルヘキ哉又ハ其管理人記名ヲ以交付シ可然  
哉

大藏省指令 明治二十一年十一月二日

- 第一項 戶長與書ノ要ハ本人ノ在籍及印鑑ヲ證明セシムルニ在リ
- 第二項 逃亡者所有ニ係ル證書ハ何某財產管理人何某ト記名スヘシ

第十類 兵事

第一章 徵發及徵兵

第一款 徵發令及徵發事務條例ニ付郡市町村長取扱ノ件

○第三百七十一

徵發令明治十五年八月十二日  
布告第四十三號

徵發令別冊ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

徵發令

第一條 徵發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部又ハ一部ヲ動カスニ方リ其所  
要ノ軍需ヲ地方ノ人民ニ賦課シテ徵發スルノ法トス

但平時ト雖モ演習及ヒ行軍ノ際ハ本條ニ准ス

第二條 徵發ハ陸軍若クハ海軍官憲ノ徵發書ヲ以テ之ヲ行フ

第三條 左ニ記列スル官憲ハ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

- 一 陸軍卿海軍卿鎮臺司令官及ヒ鎮守府長官
- 二 陸軍ニ於テハ特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長若クハ演習及ヒ行軍ノ軍隊長
- 三 海軍ニ於テハ特命司令官艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦長若クハ操練及ヒ航海ノ艦隊司令官又ハ艦長

第四條 徵發ス可キモノノ種類ニ依リ徵發區ニ准メテ之ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 第十二條第一項ハ 府縣

二 第十二條第二項及第三項ハ 郡區

三 第十二條第四項以下各項及第十三條各項ハ 町村

四 船舶會社所有ノ船舶及鐵道會社所有ノ汽車ハ 會社

第五條 徵發ス可キモノハ徵發區内ニ現在スルモノニ限ル

第六條 徵發書ハ徵發區ニ從ヒ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付  
不可

第七條 徵發書ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ時期ヲ  
誤ルコトナク其供給ヲ完全セシムルノ責アルモノトス

第八條 各徵發區ニ於テハ臨時徵發ニ應ス可キ便宜ノ方法ヲ豫定ス可キモノトス

第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ違フコトナク之ヲ供給スルノ義務アルモノトス  
若シ其時期ニ違フトキハ府知事縣令郡區長戶長他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ生シタル費  
用ハ本人ヲシテ之ヲ辨償セシム但會社ニ係ルモノハ陸海軍官憲直ニ其處分ヲ爲ス可シ

第十條 徵發ヲ課セラレタルモノ商用其他ノ事故ヲ以テ供給ヲ拒ミ又ハ供給ス可キモノヲ  
藏匿シタルトキハ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第十一條 供給ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ其受領證書ヲ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場

長船舶會社ノ店長ニ交付スヘシ

第十二條 徵發ス可キモノ左ノ如シ

一 米穀秣藁鹽味增醬油漬物梅干及ヒ薪炭

二 乘馬馱馬駕馬車輛其他運搬ニ供スル獸類及ヒ器具

三 入夫

四 宿舍厩圍及ヒ倉庫

五 飲水石炭

六 船舶

七 鐵道汽車

八 演習ニ要スル場所

九 演習ニ要スル材料器具

第十三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ掲グルモノノ外徵發ス可キモノ左  
ノ如シ但平時ノ演習及ヒ行軍ニハ徵發スルコトヲ得ス

一 造船所工作所及ヒ軍事ノ工作ニ要スル材料器具

二 職工破夫洗濯人ノ類

三 被服裝具草鞋兵器彈藥船具寢具藥劑治療器械及細帶具

四 水車搗春ノ類

- 五 病院
- 第十四條 第十二條第二項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ
  - 一 皇族所用ノ車馬
  - 二 外國公使館并ニ領事館ニ屬スル車馬
  - 三 乘馬本分タル職務ニ要スル馬匹
  - 四 郵便用ノ車馬
  - 五 公認セラレタル種牛種馬
- 第十五條 第十二條第四項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ
  - 一 公務ニ屬スル廨署
  - 二 皇族ノ邸宅
  - 三 外國公使館領事館及ヒ其所屬館
  - 四 鐵道電信郵便用ノ建造物
  - 五 陸海軍將校并ニ同等官現住ノ家屋
  - 六 博物館書籍館
  - 七 病院育嬰院棄兒院
  - 八 學校但臨戰合圍地境內ニ在リテハ此限ニ在ラス
  - 九 製造場内機械室

- 第十六條 第十二條第二項ニ掲クルモノ、使用ハ其原用ヲ轉シテ他用ニ供スルヲ許サス但戰時若クハ事變ニ際シテハ此限ニ在ラス
- 第十七條 第十三條第二項ニ掲クルモノハ其差出場所ヨリ六里未滿ノ地ニ於テ使用スルヲ例トシ一日ノ使用ハ六里ニ越ユルコトヲ得ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ六里以外ノ地ニ使用スルコトヲ得
- 第十八條 第十二條第四項ニ掲クルモノハ合圍地境內ヲ除クノ外居住者ノ起臥及ヒ營業ニ必要ナル場所ヲ徵用スルコトヲ得ス但營業ニ必要ナルモ旅店等ハ此限ニ在ラス
- 第十九條 宿舍ノ廣狹ハ其地家屋ノ數ト隊伍ノ編制トニ從ヒ一定シ難シ故ニ臨時適宜ニ之ヲ定ム
- 第二十條 第十二條第四項ニ掲クルモノハ陸軍若クハ海軍ノ都合ニ依リ特ニ其場所ヲ指定スルコトアル可シ
- 第二十一條 宿舍ヲ定メタルノ後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許サス厩園倉庫亦同シ
- 第二十二條 宿舍厩園ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ併セテ人馬ノ食飼ヲ供給ス可シ但駐軍三日以上ニ至ルトキハ第四日ヨリ食飼ハ陸軍若クハ海軍ノ自辨トス
- 第二十三條 第十二條第六項ノ徵發ニ係リ其乘載人馬ノ食飼ヲ要スルモノハ併セテ供給セシム

第二十四條 第十二條第六項及第七項ニ掲クルモノハ戰時若クハ事變ニ際シ借切トシテ之ヲ徵用スルコトアル可キ

第二十五條 第十二條第二項第六項及第七項ニ掲クルモノハ其操業者ヲ併セテ徵用スルヲ例トス但時宜ニ依リ各個ニ分別シテ徵用スルコトヲ得

第二十六條 第十二條第六項ニ掲クルモノヲ操業者ト各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ニ際ニ限ル但船橋及ヒ舢舨ニ充ツルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條 第十二條第七項ニ屬スル汽車其屬具鐵道建築所用ノ材料器具及ヒ操業者ヲ各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ニ際ニ限ル

第二十八條 第十三條第五項ニ掲クルモノハ陸海軍病院ノ補助トシテ徵用スルヲ例トス但合圍地境内ニ在リテハ全ク明渡サシムルコトヲ得

第二十九條 徵發ニ係ルモノハ第三十一條乃至第五十條ニ定ムル所ノ方法ニ從ヒ賠償ス

第三十條 徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシ其輸送費ヲ支辨セス

第三十一條 賠償ハ平時ト戰時トヲ論セス其時々之ヲ支辨スルモノトス但戰時若クハ事變ニ際シ紛擾ノ爲メ延滞シテ三ヶ月ヲ越ユルトキハ年六分ノ割ヲ以テ其利子ヲ付ス

第三十二條 賠償ハ徵發區毎ニ一括シテ府知事縣令郡區長戸長停車場長船會社ノ店長ヨリ之ヲ請求ス可シ

第三十三條 徵發物件ノ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟

議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

其毀損ハ持主若クハ操業者ヨリ速ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若クハ戸長ニ届出可シ其届出ハ徵用濟引渡ノ後左ノ期限ヲ越ユ可カラス若シ其期限ヲ越ヘ又ハ期限中持主若クハ操業者ニ於テ使用セシトキハ無効トス

一 西洋形船舶

七日間

二 地所

評價委員ノ告示スル時日間

三 其他ノ物件

一日間

第三十四條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ前三ケ年間ノ平均價ヲ取リ之ヲ定ム其平均價ノ取リ難キモノハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十五條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ賃價トス但物件ト操業者トヲ各個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ雇賃及ヒ借賃ニ准シテ賠償ス

第三十六條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ルモノヲ宿泊セシメ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキハ第三十二條ノ例ニ拘ハラズ賃價ノ半額ヲ前給シ宿泊食飼ヲ官給ス但此場合ニ於テハ賃價ノ四分ノ一ヲ減ス

第三十七條 第十三條第二項及ヒ第六項ニ掲クルモノヲ買上クルトキハ勿論其他使用ノ都合ニ依リ價格ノ豫定ヲ要スルトキハ其金額ヲ定メ置ク可シ其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セザルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十八條 第十二條第三項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第三十九條 第十二條第四項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム

第四十條 第十二條第五項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地平常ノ代價トス

第四十一條 第十二條第六項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外左ノ區別ニ從フ

一 出船ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定賃

二 定路ヲ航スルモ特ニ出船時日ヲ命シタルトキハ其乘載量五分ノ三ニ滿テタル以上ハ前項ノ例ニ准ス若シ之ニ滿テサルモ五分ノ三ニ値ル平常ノ定賃

三 出船及ヒ航路ノ定メナクシテ定賃ナキモノ又ハ運送ヲ以テ營業トセサルモノ等其賠償金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價員ノ評定額

第四十二條 第二十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者平常ノ給料航船實費及ヒ船舶ノ損料トス其損料ハ一ヶ月ニ各船舶買入代價六十四分ノ一トス

第四十三條 第二十六條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料船舶ニハ第四十二條ノ損料トス但船舶及ヒ解船ニ充テタルモノ、賠償金額ハ第四十一條第三項ニ准ス

第四十四條 第十二條第七項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外平常ノ定賃トス

第四十五條 第二十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料物件ニハ其他平常ノ代價若クハ損料トス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十六條 第十二條第八項ノ徵發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加ヘ又ハ地形ヲ變更シタルトキニ限り賠償ス其金額ハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十七條 第十二條第九項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ相當ノ損料ヲ賠償ス

第四十八條 第十三條第一項第三項及ヒ第四項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ損料ヲ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十九條 第十三條第二項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第五十條 第十三條第五項ノ徵發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從フテ賠償ス全ク明渡サシムルトキハ第三十九條ノ例ニ准ス

第五十一條 徵發ヲ拒ミ或ハ規避シ或ハ漫リニ使役ヲ離レタルモノ及ヒ之ヲ教唆誘導シタルモノハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十二條 徵發ノ命令ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戸長停車場長船舶會社ノ店長其處置ヲ爲サハルモノハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其懈怠ニ出ルモノハ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條 徵發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲ニ徵發書ヲ出シ又ハ其權ヲ有セサル官憲徵發書ヲ出シタルトキハ一年以上四年以下ノ輕錮禁ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス

○第三百七十二 徵發事務條例明治十五年十二月十八日  
太政官布達第二十六號

徵發事務條例別冊ノ通之ヲ定ム  
右布達候事

(別冊)

徵發事務條例

第一條 徵發事務條例ハ徵發令ニ基キ實際取扱ノ規準ヲ定ムルモノトス

第二條 陸軍若クハ海軍官憲ハ徵發區ノ大小遠近及ヒ供給力ヲ酌量シ供給ヲ受ク可キ日時ヲ豫定シテ徵發書ヲ出ス可シ

第三條 徵發書ノ書式ハ附錄第一號ノ例ニ準ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ電信ヲ以テ徵發スルコトヲ得

第四條 徵發令第三條第二項及ヒ第三項中ニ掲クル特命司令官軍團長師團長艦隊司令長官ハ時機ニ依リ其部下ノ各團長若クハ各艦隊司令官ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ分任スルコトヲ得

第五條 徵發令第三條第二項中ニ掲クル特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長第三項中

ニ掲クル特命司令官艦隊司令官分遣艦隊長ハ其獨立中ニ限り徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス故ニ師團長艦隊司令官ト雖トモ軍團若クハ二艦隊以上ニ編制セラレタルトキハ徵發書ヲ出スノ權ナシ其軍團長若クハ艦隊司令官ノミ之ヲ有ス

第六條 徵發令第三條第二項中ニ掲クル演習及ヒ行軍ノ軍隊長トハ諸團隊ヲ統フル長トシテ先任艦長又ハ獨立艦長ヲ言フモノニシテ其長ノミ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス但陸軍演習若クハ海軍操練ノ時一ノ總指揮官ヲ置クト雖トモ其部下ノ團隊若クハ各艦往返發著ノ地ヲ異ニスルトキハ往返中ニ限り其團隊長若クハ艦長各自ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

徵發令第三條第二項中ニ掲クル師團長ニハ近衛都督、旅團長ニハ屯田兵司令官ヲ包含ス二十三年九月勅令第九十六號ヲ以テ本項ヲ追加ス

第七條 徵發ニ應シタル人員ハ砲丸ノ連セサル場所ニ於テ之ヲ使用ス可シ

第八條 徵發物件其徵發ヲ課セラレタル地ニ現在スルモ其所有者又ハ其支配人不在ナルトキハ戶長及ヒ證人三人某町村内ニ住スル親屬又ハ預リ主又ハ同物品營業者ノ内ヨリ戶長ノ撰定スルモノ立會ノ上其物件ヲ調査シ供給セシム可シ

第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ徵發令第十二條第六項第七項第八項第十三條第二項中造船所工作所第四項第五項ノ物件及ヒ第二十條ノ場合ヲ除クノ外其現在ノ所有品ヲ供給セサルモ便宜ニ從ヒ他ノ同品種ノモノヲ以テ換給スルコトヲ得其徵發ニ應ス可キ人員亦



同シ

第十條 徵發書ハ徵發令第六條ニ依リ府知事縣令郡區長、戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シト雖モ臨戰若クハ合圍ノ地ニ在テ時機切迫シタル場合ニ於テハ府縣ニ付ス可キモノヲ郡區又ハ町村ニ付シ郡區ニ付ス可キモノヲ町村ニ付シ店長ニ付ス可キモノヲ船長ニ付スルコトアル可シ

右ノ手續ヲモ爲ス能ハサル場合ニ於テハ徵發書ヲ出スノ權アル官憲ヨリ直ニ人民ニ賦課シテ徵發スルコトアル可シ但此場合ニ於テハ徵發書ヲ用ヒス本人ニ受領證票ヲ交付スルニ止ル

本條ノ場合ニ於テハ徵發ヲ行ヒタル官憲定例ノ順序ニ從ヒ府縣知事縣令郡區長、戶長若クハ店長ニ其旨ヲ通知ス可シ

徵發令第十二條第二項ノ物件ニ限り場合ニ依リ徵發書ヲ北海道廳長官府縣知事ニ付スルコトヲ得同上勅令ヲ以テ本項ヲ追加ス

第十一條 徵發ノ命令ヲ受ケタルモノハ晝夜ヲ別タス速ニ其處置ヲ爲ス可シ

第十二條 徵發書ヲ受ケタル徵發區ニ於テ賦課ノ數ニ不足スルトキハ速ニ供給ヲ受ク可キ官憲ニ報告ス可シ

町村ニシテ郡區長ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケ郡區ニシテ府知事縣令ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケタルトキ其賦課ノ數ニ滿ル能ハサルニ於テハ戶長ハ郡區長ニ郡區長ハ府知事縣令ニ速ニ其

旨ヲ報告ス可シ但此場合ニ於テハ海陸軍官憲若クハ府縣廳郡區役所ヨリ吏員ヲ派出シ檢査セシムルコトアル可シ

郡區長府知事縣令其報告ヲ受ケタルトキハ郡區長ハ他ノ町村ニ府知事縣令ハ他ノ郡區ニ賦課シテ供給ヲ完全セシム可シ

第十三條 府知事縣令徵發令第十二條第一項ニ係ル徵發書ヲ受ケタルトキハ速ニ其賦課シタル郡區ノ名及ヒ數量ヲ海陸軍官憲ニ報告ス可シ

第十四條 府知事縣令郡區長及ヒ戶長ハ徵發令第八條ニ從ヒ徵發ニ應スル便宜ノ方法ヲ豫定ス可シ

第十五條 徵發ヲ課セラレタルモノ供給ノ時期ニ違ヒタルトキハ徵發令第九條ニ照シ處分ス可シト雖モ正當ノ事由ヲ證明シタルトキハ辨償セシムルノ限ニアラス

第十六條 徵發令第十一條ニ掲ケル受領證票ハ附錄第二號雛形ニ依リ調製ス可シ

第十七條 受領證票ハ徵發令第十二條第一項第五項ノ物件及ヒ總テ買上ケニ屬スル物件ニ係ルトキハ領收ノ際直ニ之ヲ交付シ其他ハ徵用濟ノ後之ヲ交付ス可シ但徵用濟ノ後交付スル場合ニ於テハ同令第十二條第四項第七項第八項第十三條第一項中造船所工作所第四

項及ヒ第五項ニ掲ケルモノヲ除クノ外當初領收ノ際假受領證ヲ交付ス可シ

第十八條 徵發令第十二條第二項第三項及ヒ第十三條第二項ニ掲ケルモノヲ宿泊セシメテ連日使用シ若クハ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキ并ニ同令第十二條第六項ニ掲ケルモ

ノ解船及七船ヲ借切トシテ徵用スルトキハ特ニ本人若クハ操業者ニ受領證票ヲ交付スルニトアル可シ

第十九條 徵用十五日以上ニ及ビモノハ一箇月ハ一回若クハ二回期ヲ定メテ受領證票ヲ交付ス可シ

第二十條 徵發令第十三條第一項ニ掲クルモノ、徵發ヲ賦課スルハ其物品ノ營業者ヲ先トシテ尙ホ完全トナルトキニ限リ他ノ人民ニ賦課ス可シ其賦課ニ就テハ其地方及ヒ所有者ヲシテ困乏ニ陥ヒラサラシムル爲メニ相當ノ分限ヲ各所有者ノ許ニ殘シ置ク可シ其分量ハ其地運送ノ便否及ヒ生計ノ現況ヲ酌量シテ之ヲ定ム可シト雖モ此ニ其最下限ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 營業者所有ノ物品ハ徵發書ノ日付ヨリ前十日間ニ其府縣内ニ賣拂ヒタル量但所有者ノ帳簿ニ基キ算定ス可シ
- 二 他ノ人民所有ノ物品ハ其一家ニ要スル十日間ノ量
- 三 秣糶ハ其家畜ニ要スル七日間ノ量

第三十一條 郡區長ハ附錄第三號一ノ雛形ニ依リ徵發物件表ヲ府縣廳ニ差出スヘシ十九年五月閣令第一號ヲ改正ス 鐵道局長及鐵道會社社長ハ陸軍省ヨリ送付スル所ノ雛形ニ依リ毎年十二月三十一日調ヲ以テ鐵道表ヲ製シ翌年三月三十一日限リ同省ヘ送付スヘシ又新ニ鐵道ヲ布設シ若クハ改

築シタルトキハ其時々鐵道表ヲ製シ陸軍省ヘ送付スヘシ二十三年九月勅令第九十九號ヲ以テ本項ヲ追加ス

第二十二條 (郡區長ハ徵發物件表ノ副本ヲ其役所ニ備ヘ戶長ハ町村ニ係ル書類ヲ其役場ニ備ヘ徵キ物産ヲ除ク外増減ヲ記シ供給ノ便宜ヲ供ス可シ)十九年五月閣令第一號ヲ以テ本條ヲ删除ス

第二十三條 (徵發物件表ハ左ノ諸項ニ照シ調製ス可シ)(同上)

- (一) 馬匹車輛ハ其郡區内ニ於テ登時實用ヲ爲スモノ
- (二) 二人夫ハ其郡區内ニ於テ賃搬ニ係ル業體ヲ爲スモノ
- (三) 厩園倉庫ハ貸厩貸庫ニ限ル
- (四) 職工ハ總數ヲ表中ニ掲ケ備者中ニ就キ其業體ヲ分テ記ス可シ
- (五) 官廩社寺學校屠場水車場ノ坪數ハ調査ニ及ハス
- (六) 物産中米麥等ノ如キハ其高ヲ記ス可シ
- (七) 郵便局アル町村ニハ其爲替局ハ◎電信分局ハ◎其線路ハニ鐵道ハ一ノ符號ヲ附ス可シ

第二十四條 北海道廳長官府縣知事ハ三箇年毎ニ附錄第三號三ノ雛形ニ依リ徵發物件表ヲ製シ郡區市長ヨリ差出シタル表トシテ翌年三月三十一日限リ陸軍省ヘ送付スヘシ二十三年勅令第九十六號ヲ以テ本條ヲ改正ス

第二十五條 北海道廳長官府縣知事ハ附錄第四號一ニ三ノ雛形ニ依リ西洋形船舶器械製造

修履場表日本式西洋式鑄造場表旋盤三臺以上裝置鐵工場表ヲ製シ毎年三月三十一日限リ海軍省へ送付スヘシ

北海道廳長官府縣知事ハ附錄第五號ニ依リ汽船表ヲ製シ毎年三月三十一日限リ海軍省ニ送付シ管内ニ於テ新造シ若クハ買入レタル登簿噸數百噸以上ノ汽船アリタルトキハ第五號三ノ雛形ニ依リ汽船表ヲ製シ其時々海軍省ニ送付スヘシ但海軍大臣ハ便宜ニ依リ船舶會社ヲシテ直チニ送付セシムルコトヲ得同上勅令ヲ以テ本條ヲ改正ス

第二十六條 徵發令第十二條第二項第六項第七項ニ掲クルモノハ總テ使用ノ爲メニ必用ナル屬具ヲ併セテ供給ス可キモノトス故ニ其屬具ニ對スル賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十七條 徵發令第十二條第六項ニ掲クル船舶中郵便船ニ限リ其通信ノ用ニ供スル間ハ之ヲ借切ルコトヲ得ス又出船ノ定期若クハ航路ヲ變シテ徵用スルコトヲ得ス

第二十八條 徵發令第十八條中居住者ノ起臥ニ必要ナル場所トハ寢所及ヒ庖厨ヲ指シ營業ニ必要ナル場所トハ商估ノ店舗農工ノ仕事場ヲ言フ又旅店等トハ料理店貸坐敷貸廐等ヲ包含ス

第二十九條 宿舍ノ廣狹ハ徵發令第十九條ニ從ヒ臨時ニ定ムルモノナリト雖トモ戶長ニ於テ賦課ノ際標準ト爲ス可キモノヲ概定スルコト左ノ如シ

- 一 廩署 陸海軍官憲ヨリ指示スル所ノ室若クハ家屋
- 二 將官其參謀部ト共ニ 一家屋

三 上長官又ハ同等軍屬一名 一室

四 士官又ハ同等軍屬二名 一室

五 下士又ハ同等軍屬一名 一疊半乃至二疊

六 卒又ハ同等軍屬一名 一疊乃至一疊半

七 徵發ニ應ジタル人員三名 二疊

第三十條 戶長ハ陸海軍ノ宿割主任官ニ商議シテ適宜ニ宿舍ノ配當ヲ定ム可シ

第三十一條 徵發令第二十一條ニ從ヒ町村ノ便宜ヲ以テ他ヘ轉移セシムルコトヲ許サスト雖モ若シ該家ニ病者死者等アルトキハ戶長他ニ相當ノ宿舍ヲ設ケテ轉移ヲ請求スルコトヲ得但之カ爲メ徵發令第二十二條ニ掲クル日限ヲ更新スルモノニアラス

第三十二條 徵發令第二十二條ニ從ヒ人馬ニ供給ス可キ食飼ノ定量大率ヲ左ノ如シト雖モ陸海軍給與ノ規則ニ由リ定置以內ヲ以テ臨時ニ變換或ハ減少ルコトアル可シ

一人 精米每食二合 朝夕飯一汁一菜漬物 午飯一菜漬物

二馬 駐軍中 朝大麥二升秣藪五百目 喰藪百五十目 糞秣藪五百目 喰藪百五十目 夕大麥二升秣藪五百目 喰藪二百目

演習及ヒ行軍中 朝大麥二升秣藪五百目 晝大麥一升 夕大麥二升秣藪一貫目 喰藪五百目

小麥ヲ大麥ニ喰藪ヲ秣藪ニ代用スルトキ 朝小麥一升 喰藪一貫目 晝小麥五合

夕小麥一升五合喰菓三貫目

搗麥又ハ裸麥ヲ大麥ニ喰菓ヲ秣藜ニ代用スルトキ 朝搗麥又ハ裸麥一升喰菓一貫

目 晝搗麥又ハ裸麥二升 夕搗麥又ハ裸麥二升喰菓一貫目

寢頭ハ軍馬一頭ニ付一日一貫目ヲ要スルモノトス

第三十三條 宿舍ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ室内所要ノ燈火並ニ其地ノ慣用ニ從ヒ地爐

若クハ火鉢共ニ毎室ニ一個ヲ給テ不可シ其賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含ス

第三十四條 寢具ノ徵發ニ係ル賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含セズ徵發令第四十八條ニ從

ヒ賠償ス

第三十五條 宿舍ノ徵發ヲ課セラレタルモノ公有家屋社 寺亦同シ食飼ニ供ス可キ物品又ハ手傳人不足

シ供給ヲ爲シ能ハサルノ證アルトキハ戶長ニ於テ賄ノ受領ヲ立ツル歟若クハ物品及ヒ手

傳人ヲ其本人ニ供スル等ノ取扱ヲ爲シ其方法ハ本條例第十四條ニ准ス可シ

第三十六條 町村ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ニ要スル食飼品一足品一足スルト

キハ戶長ニ於テ其物品ヲ供ス可シ但航海先ニ於テハ本條例第三十七條ニ准シテ處分ス可

第三十七條 會社ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ノ食飼ヲ供給スルコト能ハサル

ヲ證明スルトキハ現品ヲ官給シ其費用ハ賠償金ヲ以テ差引ヲ立ツ可シ

第二十八條 食飼ノ定價ハ其船舶ヲ徵用シ船主船長ヲシテ其食飼ヲ供給セシムルトキハ陸

海軍官憲ニ於テ其時々賠償金額ヲ定ム可シ其借切トシテ徵用シタルトキ亦同シ

第三十九條 徵發物件ノ差出場所ハ各徵發區内ニ設クルヲ定例トス但時宜ニ依リ徵發區外

ニ設ケルコトヲ得

差出場所ハ陸海軍官憲之ヲ指定ス同上勅令ヲ以テ 本條ヲ改正ス

第四十條 徵發區ハ徵發令第三十條ニ從ヒ徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルノ義務アルヲ以

テ之カ爲メニ生シタル費用ハ其區ノ負擔トス可キニテ但差出場所ニ於テ徵發區外ノ地ニ設

ケタルトキ其區外ニ係ル輸送費ハ當該官憲ヨリ賠償スルニシテ同上改正

第四十一條 郡區長ハ徵發人馬ノ供給ヲ便宜ニセシムルカ爲メ豫テ郡區長ト商議シ近傍町村

ヲ適宜ニ割合ヒ組合町村ヲ定ムルヲ得

第四十二條 賠償金請求ノ月日及ヒ場所ハ供給ヲ受ケン陸海軍官憲ヨリ之ヲ其府知事縣令

郡區長戶長若クハ停車場長船會社ノ店長ニ指示ス可シ

第四十三條 府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船會社ノ店長ハ附錄第六號ノ例ニ准

シ賠償金計算書ヲ調製シ陸海軍官憲ヨリ交付ノ受領證票ヲ添ヘ其請求ヲ爲ス可シ但徵發

令第二十六條及ヒ第三十八條ニ掲ケタルモノアルトキハ其計算書ニ別項ヲ設ケテ差引ヲ立

ツ可シ又評價ニ屬スル件目ノ賠償ハ別途ニ支給セラルヲ以テ該件目ニ就テハ評價ノ二字ヲ

記載ス可シ

第四十四條 徵發令第三十一條ニ定ムル三個月ノ期限ハ受領證票ヲ交付シタル月ヨリ起算

ス但陸海軍官憲ヨリ指示セシ請求ノ月日若シハ場所ヲ其請求者ニ於テ誤リタル爲メ又ハ賠償金計算書ノ違算若クハ不公式ニ依リ推問往復ノ爲メニ消費シタル時日ハ算入セス  
第四十五條 徵發令第十二條第二項及ヒ第三項ノ徵發ニ係ルモノヲ終日若クハ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ使用スルトキハ日割ヲ以テ賠償シ其他ノ場合ニ於テハ里程ニ應シテ賠償ス

若シ差出場所ニ集合シタルモノ官ノ都合ニテ不用トナリタルトキハ日割ヲ以テ賠償ス可キモノハ半日分ヲ給シ里程ニ應シテ賠償ス可キモノハ其半額ヲ給ス

第四十六條 徵發物件ノ毀損シタルトキハ徵發令第三十三條ニ從ヒ其使用ヲ主管スル陸海軍官憲ニ届出可シ若シ引渡ヲ受ケタル後毀損ヲ發見セシトキハ其引渡ヲ爲セシ陸海軍官憲ニ届出可シ其官憲既ニ出發セシトキハ戶長ニ届出可キモノトス

第四十七條 毀損ノ届出ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ直ニ之ヲ調査シ其毀損果シテ使用ヨリ生シタルモノト檢定シタルトキハ其賠償金額ニ就キ供給者ト商議ス可シ若シ調和セサルトキハ評價委員ニ付ス可シ

戶長若シ毀損ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ檢査シ其調査書ヲ作り供給者ノ請求金額ヲ其關係ノ陸海軍官憲ニ差出ス可シ但調査書ニハ毀損ノ事由實況并ニ請求金額ニ係ル自己ノ意見ヲ記ス可シ

第四十八條 徵發令第三十三條ニ掲グル期日ヲ超ニタル届出ニ之ヲ受理ス可カラズ但被災

厄難ニ罹リタルノ確證アルモノハ其被災厄難ヲ免レタル時ヨリ期日ヲ算ス可シ

第四十九條 徵發令第二十四條ニ從ヒ府知事縣令ハ其管下市場三ヶ所以上ノ前三年間ノ平均價表ヲ第七號離形ニ依リ調製シ毎年三月三十一日限リ陸軍省ニ差出ス

第五十條 徵發令第三十五條中平常ノ賃價トアルハ戰時若クハ事變ニ際シテハ勿論演習又ハ行軍ノ際ニ於テモ之ヲ爲メ臨時ニ騰貴セサル以前ノ賃價ヲ言フ

第五十一條 徵發令第二十五條及ヒ第三十八條ニ掲グル平常ノ賃價雇賃借賃ハ郡區長確認ノ上供給ヲ受クル所ノ陸海軍官憲ニ申出可シ

其他徵發令中ニ掲グル平常ノ賃價損料及ヒ代價ハ戶長ヨリ陸海軍官憲ニ申出可シ

第五十二條 徵發令第三十九條ニ從ヒ陸海軍省ニ於テ定ム可キ所ノ賠償金ハ兩省同額タル可シト雖モ本條例第三十二條ニ從ヒ臨時ニ食飼ノ定量ヲ變換若クハ減少スルニ於テハ其現量ニ從ヒ賠償ス可シ

第五十三條 徵發令第四十二條中航泊費下ハ石炭油脂其他日用消耗品ノ航泊中現ニ消耗シタルモノ、代價ニシテ其物品ヲ船舶ニ積入レタルトキノ現價ニ依リ計算ス可キモノトス

第五十四條 徵發物件ノ毀損其使用ヲ爲メニ非サルモノ及ヒ操業者ノ過失ニ出ルモノハ賠償セズ但船舶ヲ借切トシテ徵用シタルトキ並ニ物件ヲ操業者ト分別シテ徵用シタルトキ

ノ毀損ハ總テ之ヲ賠償ス

第五十五條 評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名徵發區ニ從ヒ府縣郡區吏員若クハ戶長一名及ヒ其町村評價ノ爲ノ住民ニシテ其事件ニ熱達シタルモノ若シ熱達シタルモノナキトキハ他二町村ノ住民ヲ用ユルモ妨ケナシ名若クハ四名ヲ以テ編制シ其評價ハ多數ニ依テ決ス

鐵道會社船舶會社ニ屬スルモノ及ヒ大演習ノ爲メニ生シタル地所ノ損害ニ係ル評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名府縣吏員一名及ヒ其事件ニ熱達シタル人民二名若クハ四名ヲ以テ編制ス

第五十六條 評價委員ニ選用ス可キ人民ハ其事件ニ關係ナキモノニシテ地方吏員若クハ戶長ニ於テ選舉ス可キモノトス

其選舉セラレタルモノハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルヲ得ス

第五十七條 其選舉セラレタルモノニハ陸軍若クハ海軍ヨリ該府縣會議員ト同一ノ旅費日當ヲ給ス可シ

第五十八條 評價ノ爲メ府縣郡區吏員若クハ戶長ハ派出ヲ要スルトキハ其事件ニ關係ノ陸軍官憲ヨリ之ヲ府知事縣令郡區長若クハ戶長ニ通達ス可シ

第五十九條 評價ノ方法ハ評價ス可キモノノ種類ニ從ヒ精密ニ調査シ其價格ヲ評定スルヲ要トス左ニ地所損害ニ關スル評價ノ一例ヲ掲ク

演習ノ爲メ地所ノ損害ヲ届出タルトキハ評價委員ニ於テ實況ヲ查察シ其請求スル所ノ

賠償金額ノ當否ヲ審ニシ相當ナルトキハ直ニ之ヲ認可シ若シ其請求ノ金額定マラス或ハ過當ナリト認ムルトキハ實測スヘシ

評價委員ハ評價畢ルノ後左ニ掲クル要目ニ准シ所有主毎ニ評價明細書ヲ製ス可シ

一 評價ノ事項及ヒ事由

二 委員ノ氏名

三 地面ノ廣袤ハ何ヲ以テ定メタルヤ何圖面何審類ニ依リテ金額ノ算出ハ如何ナル方法ニ依リタルヤ其平均收穫量ニ依リテ其分ニ係ル賠償金額ヲ全部收穫ノ前何年平均額ヨリ算出シタルカ植物生熟ノ度ニ從ヒ其平均收穫量ニ依リテ賠償スヘキ金額中ヨリ幾分ノ手間賃及ヒ肥料ヲ扣除シタル歟又永存ノ草木ニシテ毎年收穫アルモノノ損害ヲ受ケタルトキハ其損害ノ收買ニ止マルト枝幹ニ係ルモノトニ從ヒ一年若クハ幾年分ノ收穫ヲ見込ミ賠償金額ヲ定メタル歟ノ類

第六十條 評價委員ハ評價明細書ヲ製シ府知事縣令郡區長若クハ戶長ニ交付ス可シ府知事

縣令郡區長若クハ戶長ハ其明細書ニ依リ賠償金計算書ヲ作り陸海軍官憲ノ指示スル場所

ニ就テ賠償金額ヲ請求スヘシ

附錄第一號

徵發書

一 宿舍將官幾人 上長官幾人 士官幾人 下士幾人 兵卒 幾人

右ハ某月某日ヨリ某月某日迄徵用

一 廣園

幾四分

一倉庫

右

一解船

右

一何々

右

前書ノ通徴用候條其町ニ於テ遲滯ナク供給可致事

年月日

何々長

官姓名印

幾坪

幾艘

某縣某郡

某町戸長役場宛

備考 徴發書ノ料紙ハ美濃紙紙タル可シ

附錄 第一號ノ二

徴發書

二人夫

右内

幾人

幾人ハ某月某日時某地ニ差出シ某地迄徴用

幾人ハ某月某日時某所ニ差出シ幾日間徴用

一駄馬

右内

幾匹

幾匹

一何々

右内

何々

一何々

右内

何々

前書ノ通徴用候條其區ニ於テ遲滯ナク供給可致事

年月日

何々長

官姓名印

某縣

某郡役所宛

(第一號ノ三甲四五等ス)

附錄 第一號ノ六

徵發書

一某府某郡某町近傍

右某月某日演習ノ爲メ徵用候事

年月日

何々長

官姓名印

某町戸長役場宛

附錄 第二號ノ一

受領證書

一宿舍 將官幾人 上長官幾人  
士官幾人 下士幾人 兵卒幾人

右ハ某月某日ヨリ某月某日迄徵用

一鹿園

幾匹分

右、

一倉庫

幾坪

右、

一解船

幾艘

右、

一何々

右、

前書ノ通徵用候也

年月日

何々長

官姓名印

某府某郡

某町戸長役場宛

御考 受領證書ハ總テ存留證書ノ式タルヘシ

附錄 第二號ノ二

受領證書

一人夫

幾人

右内

幾人ハ某月某日時某地ニ差出シ某地迄徵用

幾人ハ某月某日時某所ニ差出シ幾日間徵用

一駄馬

幾匹馬共

右内

幾匹、





職工	醫師及 職工	合	計	合
一 表中甲部ハ東京京都大阪三市ノ例トス乙部ハ東京京都大阪ノ三市ヲ除キ其他ノ市部郡部ニ在テハ一市一郡毎ニ設クヘシ	一 本表ハ一郡一市各別ニ一表ニ製スヘシ			
一 醫師及職工ノ區畫ハ三府ノ市部ハ一區毎ニ其他ノ市部郡部ニ在テハ一市一郡毎ニ設クヘシ	一 乙部上欄第一(何市)第二(何町)第三(何村)ノ三行中第一行ハ全市第二第三行ハ町村制實施ノ際他町村ト合併セサリシモノ又ハ合併シタルモ無區域内ノ人家連接セルモノヲ記載スヘシ			
一 同第四行ハ町村制實施ノ際數町村ヲ合併シテ成立シタル新町村ニシテ其區域内ノ人家各部落ニ設ケタルモノノ記載方ヲ示ス即チ上段ニ新町村名ヲ記入シ下段ニ大字(舊町村名)ヲ記載スヘシ	一 同第五行組合町村中第一行ハ乙部第二第三行ノ例ノ如ク家屋連接戶數人口最多數ノ部落ヲ記載シ第二行ハ第四行下段第一第二行ノ例ニ倣ヒ記載スルモノトス			
一 幅員ハ市區町村又ハ一部落地ノ兩端末ニ在ル家屋ノ隔離ヲ概テ東西、南北ノ方位ニ從テ記スヘシ	一 家屋畫内戸數ハ現在軒數ヲ掲ケ宿舎用坪數ハ各家族起臥營業ニ必用ノ部分ヲ除キ計算スヘシ			
一 人口ハ現ニ居住ノ人員ノミヲ掲クヘシ	一 一人ハ年齡凡ソ十七歳以上農夫漁夫傭夫日雇人足等總テ力役ニ從事スルモノヲ記載スヘシ			
一 倉庫及厩ハ食糧食糧ニ保ラス總テ現在敷キ掲クヘシ	一 厩畫内繫留馬數トハ該厩内ニ繫留シ得ヘキ馬數ヲ記載スヘシ			
一 寺院畫内宿舎用坪數ハ内陣及其家族ノ起臥ニ必用ノ部分ヲ除キ計算スヘシ				

一 學校病院ハ官公私立ノ別ナク總テ掲クヘシ又病院畫内患者數ハ其病室ニ容レ得ヘキ患者人員ヲ記載スヘシ

一 製造用坪數ハ器械室ヲ除ク

一 水車揚ハ精米ニ使用スルモノヲ掲クヘシ若シ蒸氣器械ノ精米所アレヘチ分記シテ府ニ送リ符號ヲ付スヘシ

一 表中△ハ町村役場○ハ郵便局◎ハ郵便爲替局④ハ電信局⑤ハ電信爲替局⑥ハ鐵道驛站⑦ハ中央金庫本金庫支金庫⑧ハ國道⑨ハ縣道⑩ハ里道所在地ヲ示ス符號トス

一 市町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ一區一郡各別ニ一表ニ調製スヘシ其區部ハ本表市部ノ例ニ準シ郡部ハ每町村名ヲ掲クヘシ但町村長役場所在地ハ△ノ符號ヲ付シ聯合町村ハ他ノ町村ト混合セサル機線ヲ大ニシテ區別ヲ明ニスヘシ

(第三號二三及第四號第五號表式界ス)

附錄 第六號

賠償金計算書

- 一 宿泊代第何號證票 何拾何圓
- 一 厩園代同上 何拾圓
- 一 駄馬何匹同上 何圓
- 一 一人夫何人第何號證票ノ内 何圓
- 一 六里外人夫何人同上 三日何圓
- 一 荷積大七車何輛第何號證票 何圓
- 一 同大八車何輛同上 何圓

一同中車何輛同小車何輛何號證票ノ内 評 價  
右七廉合計金何百何拾何圓貳拾金トシテ御渡相成度候也

年月日

府知事(縣令)郡區長(局長)  
警車隊長(船務會社社長)

姓名印

何地何會計官

御中

(第七號表式署ス)

(附言) 前二令中戰時ノ件ニ付テハ十五年布告第三十七號ヲ以テ凡ソ法律規則中戰時ト  
アルハ外患内亂ニ際シ布告ヲ以テ定ムヘキコトヲ發令セリ

○第二百七十三 徵發事務條例第三號ノ一表中船舶記載方ノ件 明治二十三年十月二十日  
陸軍省訓令甲第十六號遵照

勅令第九十六號ヲ以テ改正相成候徵發事務條例附錄第三號ノ一表中船舶ハ日本形ノミ  
記載ノ例ニ候處徵發物件取調上汽船ニ非ラサル西洋形船舶モ入用候條西洋形船舶 汽船ヲ二  
十噸以上ハ日本形船舶五十石以上ノ區畫ニ二十噸未満ハ舢板小廻ノ區畫ニ朱書記入差出候  
様取計ヲヘシ

○第二百七十四 徵發令ニ依リ負擔スヘキ費用怠納者處分方及其處分ニ不服ノ者出訴  
ノ件 明治十六年八月八日  
ノ件 布告第三十一號

徵發令ニ依リ負擔ス可キ費用ノ怠納者ハ明治十年月一第七十九號布告ニ依リ處分ス可シ  
但財産公賣ノ際買受望人ナキトキハ徵發區ニ没入シ不足金アルトキハ其區ノ損失ニ歸ス  
右費用ニ關スル處分ニ就キ不服アル者ハ明治十五年五月第貳拾貳號布告ニ依ル可シ  
右奉 勅旨布告候事

(附言) 十年布告第七十九號ハ租稅怠納者處分規則ニシテ本規則ハ二十二年法律第三十  
二號(符號第三百五十七)ヲ以テ廢止セラレ ●十五年布告第二十二號ハ租稅ノ賦課及滯  
納等ノ處分ニ付不服アル者出訴ヲ爲スノ件ニシテ該件ハ二十三年法律第四十八號(符  
號第六百十六)ニ依リ行政裁判所ノ處分ニ屬シタルモ徵發令ニ依リ負擔スル費用ノ賦  
課ニ關シ行政裁判所ニ出訴ヲ許スヘキ法律ノ明文ナキト該布告ヲ廢止スルノ明文ナキ  
トニ依リ茲ニ左ノ令ヲ附記ス

●課稅ニ關スル處分ニ付不服アル者出訴ノ件 明治十五年五月十日  
右布告第二十二號  
課稅ニ關スル處分ニ就キ不服アリテ出訴セントスル者ハ先ツ其旨ヲ申立課額ヲ上納シ領  
收證書ヲ添ヘ其翌日ヨリ六十日内ニ訴出ツヘシ  
但納稅期限前ニ訴出テ訴訟申ト雖モ其期限ニ至レハ課額ヲ上納スヘシ  
右奉 勅旨布告候事

● 伺指令

● 條例第八條割註ノ親族ナキ者及存留證式ノ件 明治十六年四月十一日  
山口縣伺

第一條 徵發事務條例第八條中割註ニ其町村内ニ住スル親族云々ト有之候處其町村内ニ同營業者及親族等無之場合ニ於テハ如何取計可然哉

第二條 同條例附錄第二號ノ一表備考中存留證票式未タ相見ヘス右ハ如何相心得可然哉又假受領證ヲ交付相成場合ニ於テモ總テ此式ニ據ルヘキ旨ヲ示サレタル儀ニ有之候哉右相伺候也

陸軍省指令 明治十六年七月三日

第一條 戶長ニ於テ他ノ相當ト認ムル者ヲ撰定シ證人トナス可シ

第二條 存留證票ハ一葉ノ證票ニ受領スヘキ物件ヲ復記シ其中央ニ契印シテ之ヲ折半シ其一ヲ官ニ留メ其一ヲ交付スルモノニシテ假受領證モ亦此式ニ依ル

●徵發令第十四條第三項ノ馬匹及第四條第二項第三項ノ徵發區ノ件明治十六年六月二十七日陸軍省指令

第一條 本令第十四條免除ヲ受クヘキモノ、中第三項ニ乘馬本分タル職務ニ要スル馬匹ト有之候處警察官乘用之馬匹モ合著スル儀ニ候哉

第二條 本令第四條第二項第三項ノ徵發區ハ行政區畫(數郡ニ一郡長ヲ置キ數町村ニ一戶長ヲ置クノ類)ヲ指シタルモノニ非スシテ郡區毎町村ノ負擔ニ候哉

陸軍省指令 明治十六年七月七日

第一條 伺之通

第二條 數郡ヲ合シテ一郡長ヲ置キ數町村ニ一戶長ヲ置キタルモノハ一郡一町村ト見

做シ取扱フヘシ

●徵發令中賠償金評價委員徵發物件表同第二號一表同第四十一條第四十八條ノ件明治十六年二月二十八日

群馬縣令

同令第三十一條賠償金延滞ノ利子ハ日割ナル乎又三ヶ月ヲ超ユルトハ滿三ヶ月ナル哉(第二項)

同令第三十三條第二項評價委員ノ告示スル時日トハ其都度評價委員ニテ時日ヲ定メ持主若クハ操業者ヘ告示スル儀ニ候哉(第三條)

徵發物件表中各戸坪數ハ宿舍ノ徵發ニ應用スヘキ居室ノ坪數ノミ可取調哉或ハ各戸全体ノ坪數即チ寢所庖厨店舖及ヒ仕事場等ニ係ハラヌ惣坪數ヲ記載候儀ト心得可然哉(第七條)

同例附錄第二號一表備考ニ存留證票トアルハ如何ナル書式ニ候哉(第八條)

同例第四十一條中近傍町村ヲ適宜ニ割合云々ト有之然ルトキハ其便宜ニ據リ他郡又ハ隣縣ニ跨ルモ差支ナキ儀ニ候哉(第九條)

同例第四十八條ニ據リ假令ハ七日期限内三日間ヲ經タル後變災厄難ニ罹リタル者アルトキハ前ノ三日間ハ除却シ其災厄ヲ免レタル日ヨリ更ニ起算シテ可然儀ニ候哉(第十條)

右條々目下取調ニ際シ疑團ヲ生シ候條何分之御指揮相成度候也

陸軍省指令 明治十七年七月四日

第二條 利子ハ日割ヲ以テ算シ三ヶ月八月ヲ以テ算ス

第三條 伺之通

第七條 後段伺之通

但備考ニ起臥營業ニ必用ナル分ヲ除キ宿舍ノ徵發ニ應スヘキ坪數ヲ掲載スヘシ  
第八條 存留證票ハ一葉ノ證票ニ受領スヘキ物件ヲ復記シ其中央ニ契印シテ之ヲ折半  
シ其一ヲ官ニ留メ其一ヲ交付スルモノヲ云フ

第九條 一縣内ニ限ル

第十條 伺之通

●徵發令中徵發區内現在者、供給拒絶者、人馬食飼及賠償方、他方ニ調達ノ費用、第三十三條  
ノ毀損物件賠償方並條例第四十一條ノ組合町村定メ方、全第二十三條第二項ノ負擔ニ係  
ル業休ヲ爲ス者等ノ件明治十六年二月十六日 和歌山縣例

客年第四十三號公布徵發令同年第二十六號公達同事務條例中疑貳ノ廢左ニ相伺候條御明示  
有之度候也

一令第十五條ニ徵發スヘキモノハ徵發區内ニ現在スルモノニ限ルトアレド同第九條供給時  
期ニ違ヒ他ノ方法ヲ以テ調達スルルキ及條例第九條他ノ同品種ノモノヲ以テ換給スルルキ并  
ニ同第三十五條宿舍ニ附帶スル食飼等ハ必ラスシモ本條ニ據ラサル儀ニ候哉又ハ條例三  
十五條ノ如キ該徵發區内ニ於テ供給ニ堪ヘサルルキハ直ニ條例第十二條ニ據ルヘキ哉  
二令第十條供給ヲ拒ムニ該品若シ同第十二條第一項ニ係リ或ハ他人ノ寄托品ナリト稱シ又  
ハ既ニ賣渡ノ約束アル等ノ證左ヲ以テスルル物件尙營業者ノ許ニ存スルモノハ條例第二

十條ニ據リ先收スルモ不苦候哉

三令第二十二條二十三條人馬ノ食飼ハ即同第十二條第四項第六項ニ包含シ該賠償方ハ令第  
三十九條ニ含有スル儀ニ候哉條例第三十三條ニ室内所要ノ慣用具ノキヲ掲ケ該食飼ニ付  
別段明文ナキヲ以テ疑貳ニ屬シ候

四令第九條他方ニ調達ノ爲メ特ニ生シタル費用ニシテ條例第五條懲期ノ事由正當ナルルキハ  
條例第四十條ト同シク該徵發區ノ負擔タルヘキ歟

五令第三十三條毀損ノ物件若シ同第十二條第二第六第七諸項ノ屬具ニ係ルルキハ條例第二十  
六條ニ准シ該賠償ヲ請求スルコトヲ得サル儀ニ候哉

六條例第四十一條ニ隣接郡區長ハ人馬供給ノ便宜ヲ圖リ二郡區ノ間ニ組合町村ヲ定ムルヲ  
得ル儀ニ候處若シ一郡區内ニ在テ總テノ便宜ニ依リ豫メ二三村乃至四五村ヲ聯合シテ一  
徵發區トナスモ妨ナキ哉

七條例第二十三條第二項負擔ニ係ル業休ヲ爲スモノ云々凡ソ農工商トモ其徵賤ナルモノニ  
至リテハ多少負擔ニ從事セサルハナシト雖モ前項御明記ニ據レハ日常物貨運搬等ニ從事  
スル者ヲ單稱候儀ニ候哉

陸軍省指令 明治十六年八月二日(海軍卿連署)

第一 前段伺之通後段條例第三十五條ノ場合ハ直ニ同第十二條ニ依ルニ及ハス  
第二 伺之通

第三 伺之通但令第十二條第六項ニ係ルモノハ同第四十一條及ヒ條例第三十八條ニヨリ賠償ス

第四 伺之通但第五條トアルハ第十五條ノ誤リナルヘシ

第五 令第三十三條ニヨリ請求スルコトヲ得

第六 雜聞屆

第七 常ニ物貨運搬ノ業ヲナス者ニ限ラス總テ負擔ニ係ル業ヲナス者ヲ云

●令第九條ノ費用拒却者處分、第十條ノ藏匿物使用者及賠償、第三十條ノ人夫牛馬ノ食飼旅費等ノ件明治十六年二月二十一日 新潟縣令

第一條 徵發令第九條徵發ヲ課セラレタルモノ(中略)他ノ方法ヲ以テ調製シ爲メニ生シタル費用ハ本人ヲシテ之ヲ辨償セシムト在リ右等場合アリ本人費用ノ辨償ヲ拒ム者アルトモハ如何ナル法ニ依テ取立可然哉

第二條 同令第十條ニ徵發ヲ課セラレタルモノ商用其他(中略)藏匿シタルトキハ直チニ之ヲ使用スルコトヲ得ト在リ其使用ノ權アルモノハ當該官憲ハ勿論府知事縣令郡區長若クハ戶長ニ於テハ之ヲ取揚ケ徵發書ヲ發シタル官憲ニ送付スル權アル儀ト心得可然哉 但本文之場合ト雖トモ徵發ヲ課セラレタル物品代價ハ賠償相成儀ニ候哉

第三條 同令第三十條ニ徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務云々ト有之然ルニ人夫及ヒ牛馬等差出場所ニ至ル旅費若クハ食費等モ該條ニ準シ賠償相成ラサル儀ト心得

可然哉

右相伺候條至急何分ノ御指揮相成度候也

陸軍省指令 明治十六年八月十四日

伺之趣左之通可相心得事

第一條 本年布告第三十一號ノ通

第二條 但書共伺之通

第三條 伺之通

●一役場管轄聯合村ヲ以テ一徵發區ト爲ス件明治十六年八月十三日 和歌山縣令

去ル二月十六日付兵甲第六號伺第六件一郡區内ニ在テ便宜ニ依リ豫シメ二三村乃至四五村ヲ聯合シテ一徵發區トナスハ雜聞屆旨御指令之趣敬承然ルニ其聯合村一戶長役場ノ管理ニ屬スル者ハ尙一村ト同視シ徵發區トナスヲ得ル儀ト相心得候得共一應相伺候條何分ノ御指揮有之度候也

陸軍省指令 明治十六年四月五日

伺之通

●令第二十二條但書馬匹ノ喰養費、條例第四十五條ノ旅費支給方及令條十二條第一項徵發物返還費用、徵發物件表中各戸坪數記載方ノ件明治十六年十月四日 滋賀縣令

第一條 徵發令第二十二條但書駐軍三日以上ニ至リ陸軍若クハ海軍自辨ノ場合ニ於テ馬匹ニ

要スル喰糞糞等ノ徵發區ハ別段明條モ無之右ハ本令第十二條第一項ニ包含スルモノト相心得可然哉

第二條 徵發事務條例第四十五條日割ヲ以テ賠償スルト里程ニ應シテ賠償スルトノ區分ノ儀本年二月九日付庶甲第二九號ヲ以テ伺候處伺ノ通但行程六里ヲ以テ一日トシ賃金ヲ給スルモノト御指令有之右ハ六里未滿ト雖トモ三里以上ハ一日分ヲ給シ三里未滿ハ其半日ヲ給セラルヘキ儀ト相心得可然哉

第三條 徵發令第十二條第一項ニ係ルモノヲ差出場所ニ輸送シタル後若シ官ノ都合ニテ其幾分又ハ全分不用トナリタルトキハ其品物ハ徵發區ニ返還シ爲メニ生シタル費用ハ徵發區ノ義務トシ官ヨリ賠償不相成儀ト相心得可然哉又ハ一旦差出場所ニ輸送シタル上ハ官ニ於テ適宜處分シ徵發區ニ於テハ關係無之儀ト相心得可然哉

第四條 徵發物件表中各戸數ノ儀ハ實際起臥ヲ爲シ得ル場所ノミヲ調査シ本令第十八條揭示ノ居住者ノ起臥及營業ニ必要ナル場所ハ相除キ可然哉  
右相伺候條何分ノ御指令被下度候也

陸軍省指令 明治十六年十月四日

第一條 喰糞ハ伺之通糞糞ハ令第十二條第九項材料中ニ包含ス

第二條 終日若クハ連日使用スル時ト六里以外ノ地ニ使用スル時トハ其使用六里未滿ト雖トモ一日履切ノ平常賃價ヲ以テ賠償シ其他ハ使用ノ里程ニ應スル平常賃價ヲ以

テ賠償スヘシ

第三條 後段伺之通

第四條 表中各戸坪數畫内ニハ總坪數ヲ記載シ其備考ニ起臥及ヒ營業ニ必要ナル場所ヲ除キタル坪數ヲ記載スヘシ

●持主ニ於テ賣渡ノ契約ヲ爲シタル物件及持主ト訂約ヲ爲シタル荷物ヲ積入レ碇泊中ニ係ル船舶徵發及損失賠償方ノ件陸軍省令 明治十六年七月十三日

徵發令第十二條第一項米麥等物主ニ於テ既ニ賣渡ノ契約ヲ爲シタルモノ若クハ其第六項船舶ノ如キ豫メ物主ト訂約ヲ爲シ現ニ物品ヲ積ミ入レ出帆ニ際シ順風ヲ得スシテ碇泊中ニ係ルモノト雖トモ總テ同令第拾條ニ依リ直ニ徵用スルハ勿論ニ有之候處右徵用ノ爲メ其賣渡シ契約上ヨリ生シタル損金并同漕停止ノ爲メニ生シタル損金ハ官ニ於テ賠償セサル儀ト相心得可然哉徵發令中明文無之候間何分ノ儀御指令相成度此段相伺候也

太政官指令 明治十六年十一月八日

伺之通

●一役場管轄區内ノ町村ニシテ經濟ヲ異ニスルモノ徵發區ニ關スル件明治十六年十二月五日 神奈川縣伺

徵發令第四條其三項ニ揭示アル町村トハ一町一村ヲ指示セラレタルモノニシテ二三村乃至四五村ヲ聯合シテ一戸長役場ノ管理ニ屬スルモノハ素ヨリ一徵發區ト難見做筋ト相心得居候處本年九月八日發兌官報第六拾號伺指令欄内ヲ閱スルニ其聯合村一戸長役場ノ管理ニ屬

スルモノハ一村ト同視シ一徵發區トナスヲ得ルヤノ儀和歌山縣伺ニ伺之通ト御指令アリ果シテ然ルトキハ其聯合町村ニシテ一町村ニ於テ現在スル供給物即宿舍厩圍材料器具ノ類モ其聯合セシ故ヲ以テ他ノ町村ニ於テ其義務ヲ盡サ、ルヲ得サル儀ニ有之様相見ヘ前條第四條第三項(第十二條第四項以下各項及第十三條各項)町村トアル名稱ヨリ生スル同五條ノ明文ハ徒文ニ屬スルモノ、如ク被存候得共抑同縣ヘ御指揮ノ儀ハ一戸長役場ノ管理ニ屬スル聯合町村ニシテ縱令ハ其經濟ヲ俱ニシ町村會モ俱ニ開設スル如キ其名ハ甲乙町村ニシテ其實一町村ヲ爲スノ類ニ適用スヘキ儀ニ付キ假令一戸長役場ノ管理ニ屬スルモ各其經濟ヲ異ニシ全ク甲乙町村ヲ爲スノ類ハ前段見解之通處分候儀ト心得可然哉此段相伺候也

陸軍省指令 明治十六年十二月八日

伺之趣數町村ヲ聯合シテ一戸長役場ノ管理ニ屬スルモノハ經濟ヲ異ニスルト否トニ拘ハラス一徵發區ト看做スヘク其徵發物件ハ徵發令第五條明文之通其徵發區内ノ町村ニ現在スルモノニ限り候儀ト可相心得候事

●甲乙間通行ノ船舶徵發ノ件明治十六年九月八日 新潟縣

茲ニ甲乙間ヲ往復スル汽船アリ本社ヲ甲地ニ置キ乗取扱所ヲ乙地ニ置ク若平時乙地ニ於テ之ヲ徵發セントスルトキハ徵發事務條例第八條ニ據リ取扱所ヘ課セラレ候儀ニ候哉

海軍省指令 明治十七年一月廿二日

伺之通

●徵發令第八條ニ依リ便宜ノ方法ヲ制定シ徵發スルニ當リ時價ト平均價ト差額アルトキ賠償上處分方ノ件明治十八年七月二十八日 福岡縣

徵發令第八條ニ依リ便宜ノ方法ヲ制定スル時ハ其便宜方法ノ爲メニ費用ヲ要スル場合假令ハ數十石ノ米麥ヲ徵發セラルルニ當リ迅速其供給ヲ完全ニスル爲メ時價ノ平均價ヨリ貴キ時ト雖モ米麥商一人若クハ二人ニ賦課シテ供給セシメ時價ノ貴キカ爲メニ蒙リタル損失ハ徵發區ノ負擔トシテ之ヲ辨償スル等ノ費用ノ如キモノハ同令第三十條ニ云フ所ノ輸送費ノ外ニ徵發區内ニ賦課シ得ル義ト相心得可然乎果シテ然ラハ其賦課額ヲ怠納スル者アリタルトキハ輸送費同様處分取計可然乎

陸軍省指令 明治十八年九月十四日

伺ノ趣平均價ト時價トノ差額辨償ノ儀ハ徵發令第八條ノ例ニ從ヒ地方ノ便宜ニ依リ豫定シタル方法ニ由リ一定スヘキモノニシテ其費用ヲ徵發區内ニ賦課スルモ不苦其費用ノ怠納者處分ノ儀ハ伺ノ通

第二款 徵兵

第一節 徵兵令

○第三百七十五 徵兵ノ詔書明治五年十二月五日 布告第六十二號

朕惟ルニ古昔郡縣ノ制全國ノ兵壯ヲ募リ軍國ヲ設ケ以テ國家ヲ保護ス固ヨリ兵農ノ分ナシ中世以降兵權武門ニ歸シ兵農始テ分レ遂ニ封建ノ治ヲ成ス戊辰ノ一新ハ實ニ千有餘年來ノ



一大變革ナリ此際ニ當リ海陸兵制モ亦時ニ從ヒ宜ヲ制セサルヘカラス今本邦古昔ノ制ニ基  
キ海外各國ノ式ヲ斟酌シ全國募兵ノ法ヲ設ケ國家保護ノ基ヲ立ント欲ス汝百官有司厚ク朕  
カ意ヲ體シ普ク之ヲ全國ニ告諭セヨ

明治五年壬申十一月二十八日

徵兵告諭

我朝上古ノ制海内舉テ兵ナラサルハナシ有事ノ日天子之カ元帥トナリ丁壯兵役ニ堪ユル者  
ヲ募リ以テ不服ヲ征ス役ヲ解キ家ニ歸レハ農ダリ工ダリ又商賈ダリ固ヨリ後世ノ雙刀ヲ帶  
ヒ武士ト稱シ抗顏坐食シ甚シキニ至テハ人ヲ殺シ官其罪ヲ問ハサル者ノ如キニ非ス抑神武  
天皇珍彥ヲ以テ萬城ノ國造トナセシヨリ爾來軍國ヲ設ケ衛士防人ノ制ヲ定メ神龜天平ノ際  
ニ至リ六府二鎮ノ設ケ始テ備ル保元平治以後朝綱頽弛兵權終ニ武門ノ手ニ墜テ國ハ封建ノ  
勢ヲナシ人ハ兵農ノ別ヲ爲ス降テ後世ニ至リ名分全ク泯没シ其弊勝テ云フ可カラズ然ルニ  
大政維新列藩版圖ヲ奉還シ辛未ノ歲ニ及ヒ遠ク郡縣ノ古ニ復ス世襲坐食ノ士ハ其祿ヲ減シ  
刀劍ヲ脱スルヲ許シ四民漸ク自由ノ權ヲ得セシメントス是レ上下ヲ平均シ人權ヲ齊一ニス  
ル道ニシテ則チ兵農ヲ合一ニスル基ナリ是ニ於テ士ハ從前ノ士ニ非ス民ハ從前ノ民ニアラ  
ス均シク皇國一般ノ民ニシテ國ニ報スルノ道モ固ヨリ其別ナカルヘシ凡ソ天地ノ間一事一  
物トシテ稅アラサルハナシ以テ國用ニ充ツ然ラハ則チ人タルモノ固ヨリ心力ヲ盡シ國ニ報  
セサルヘカラス西人之ヲ稱シテ血稅ト云フ其生血ヲ以テ國ニ報スルノ謂ナリ且ツ國家ニ災

害アレハ人々其災害ノ一分ヲ受サシムルヲ得ス是故ニ人々心力ヲ盡シ國家ノ災害ヲ防クハ則チ  
自己ノ災害ヲ防クハ基タルヲ知ルヘシ苟モ國アレハ則チ兵備アリ兵備アレハ則チ人々其役  
ニ就カサルヲ得ス是ニ由テ之ヲ觀レハ民兵ノ法タル固ヨリ天然ノ理ニシテ偶然作意ノ法ニ  
非ス然レシテ其制ノ如キハ古今ヲ斟酌シ時ト宜ヲ制セサルヘカラス西洋諸國數百年來研窮  
實踐以テ兵制ヲ定ム故ヲ以テ其法極メテ精密ナリ然レトモ政體地理ノ異ナル悉ク之ヲ用フ  
可カラス故ニ今其長スル所ヲ取り古昔ノ軍制ヲ補ヒ海陸二軍ヲ備ヘ全國四民男兒二十歳ニ  
至ル者ハ盡ク兵籍ニ編入シ以テ緩急ノ用ニ備フヘシ郷長里正厚ク此御趣意ヲ奉シ徵兵令ニ  
依リ民庶ヲ説諭シ國家保護ノ大本ヲ知ラシムヘキ也

明治五年壬申十一月二十八日

徵兵令

太 政 官

緒言

兵ヲ徵スルノ方法ハ國家ノ大典忽ニスヘカラサル者ニシテ又之ヲ實踐ニ行フノ難キ固ヨリ  
言フヲ俟タス其法タル古今其制ヲ異ニシ各國其趣キヲ同フセスト雖モ要スルニ一ニ民兵ニ  
因ラサル者ナシ所謂民兵ニ二種アリ曰ク壯兵曰ク賦兵是ナリ賦兵ナル者ハ全國ノ丁壯ヲシ  
テ兵役ヲ帶ハシメ陸軍ノ兵員ヲ充タシ其内沿海ノ住民舟楫波濤ニ慣レシ者ヲ以テ海軍ノ兵  
員ニ充ツ而壯兵ハ自兵役ヲ望ミ出テシ者ニシテ服役數年ヲ帶ヒ普ク武技ニ熟練シ一團精兵  
トナリ頗其便益ヲ得ル者ナリ然レモ後日ニ至リ或ハ弊害ヲ生スル無キ能ハス是故ニ壯兵ノ

法ヲ廢シ賦兵一般ノ制度ヲ建テント欲ス竊ニ各國賦兵ノ制ヲ考フルニ大率服役八年乃至二十年ヲ以テ程度トス今國朝實ニ始メテ賦兵ノ大典ヲ起サントスルニ方リ兵役ノ久シキ恐クハ人民生活ノ業ヲ妨害シ且當今ノ國力ニ於テモ關係無シト謂フヘカラス是ニ於テ斟酌其宜ヲ採リ折衷其要ヲ振キ現今實際ニ行フノ法ヲ定メ題シテ徵兵令ト云フ

(本令ハ改正ニ付除ク)

○第三百七十六號 徵兵令(明治二十二年一月二十一日(二月二十二日)公布)  
朕徵兵令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

徵兵令

第一章 總則

第一條 日本帝國臣民ニシテ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服スルノ義務アルモノトス

第二條 兵役ハ分テ常備兵役後備兵役「補充兵役」及國民兵役トス(廿八年三月十三日法律第十五號ヲ以テ(補充兵役)ノ四字ヲ加フ)

第三條 常備兵役ハ分テ現役及豫備役トス  
現役ハ陸軍ハ二箇年海軍ハ四箇年ニシテ滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ豫備役ハ陸軍ハ四箇年「四箇月」海軍ハ三箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス(同上法律ヲ以テ)四箇月ノ三字ヲ加フ

第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス  
第五條 補充兵役ハ陸軍ニ在テハ第一補充兵役第二補充兵役トシ第一補充兵役ハ七箇年四

箇月ニシテ其年所要ノ現役兵員ニ超過スル者ノ中所要ノ人員之ニ服シ第二補充兵役ハ一箇年四箇月ニシテ其年所要ノ第一補充兵員ニ超過スル者之ニ服ス又海軍ニ在テハ一箇年ニシテ其年所要ノ現役兵員ニ超過スル者之ニ服ス(同上法律ヲ以テ)本條ヲ追加ス

第六條 國民兵役ハ分テ第一國民兵役第二國民兵役トス(同上法律ヲ以テ)第五條ヲ本條ノ如ク改ム

第一國民兵役ハ後備兵役及第一補充兵役ヲ終リタル者之ニ服シ第二國民兵役ハ常備兵役後備兵役補充兵役及第一國民兵役ニ在ラサル者之ニ服ス

第七條 各兵役ノ期限既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアル可シ(元第六條同上法律ヲ以テ)第七條ト改ム

第八條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス(同上元第七條ヲ第八條トス)

第二章 服役

第九條 陸軍現役兵「及補充兵」ハ每年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材並能職業ニ從ヒ歩兵騎兵砲兵工兵輜重兵職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ(同上法律ヲ以テ)第八條ト改ム

海軍現役兵「及補充兵」ハ每年所要ノ人員ニ應シ沿海地方及島嶼ノ壯丁ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則ニ依リ服役スル者ハ本令ノ限ニ在ラス(同上)

警備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁(近衛師團ニ編入スル者ヲ除ク)ハ總テ之ヲ警備隊ニ充テ其地ニ於テ服役セ

シム但在營期限ハ一箇年以内トス同上法律ヲ以テ(廿一)ノ下別註十三字ヲ加フ

第十條 雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ元(第九條)同上法律ヲ以テ(第十條)トス

第十一條 抽籤番號ノ順序ニ由リ其年ノ補充兵役所要員ニ超過スル者ハ國民兵役ニ服セシム同上法律ヲ以テ本條ヲ追加ス

條十二條 二十歳ニ至ラスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ志願ニ由リ現役ニ服スルコトヲ得法律ヲ以テ元(第十條)ヲ(第十二條)トス

第十三條 滿十七歳以上(滿二十六歳)以下ニシテ官立學校(帝國大學農科及府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シ

若クハ陸軍試驗委員ノ試験ニ及第シ服役中食料被服裝具等ノ費用ヲ自辨スル者ハ志願ニ由リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得但費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ニハ其幾部ヲ官給スルコトアル可シ二十二年十一月法律第二十九號ヲ以テ(帝國大學農科及小學科ヲ除ク)ノ別テ(滿二十六歳)ヲ(滿二十八歳)ト改メ同上法律ヲ以テ(小學科及農科等)ノ別科ヲ除ク)ト改メ二十六年三月法律第四號ヲ以テ(豫備後備將校タル豫備後備兵有スル者)ニ改メ元(第十一條)ヲ(第十三條)トス

一年志願兵ノ豫備後備役年期ハ勅令ヲ以テ定ム同上法律ヲ以テ本條ヲ改正ス  
滿十七歳以上(滿二十六歳)以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業證書ヲ所持シ官立公立小學校ノ教職ニ在ル者ハ六週間陸軍現役ニ服セシム其服役ニ關スル費用ハ官給トス二十年

十一月法律第二十九號ヲ以テ本條ヲ改正シ二十六年三月法律第四號ヲ以テ(滿二十六歳)ヲ(滿二十八歳)ト改ム

前項ノ現役ヲ終リタル者ハ直チニ國民兵役ニ服セシム

第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ(滿二十六歳)迄ニ其職務ヲ罷ムル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ更ニ常例ノ兵役ニ服セシム但第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス二十二年十一月法律第二十九號ヲ以テ本條ヲ追加シ二十六年法律第四號ヲ以テ(滿二十六歳)ヲ(滿二十八歳)ト改メ同上法律ヲ以テ(常例ノ兵役)ヲ(二箇年間陸軍現役及常例ノ豫備後備役)ニ改ム

第十四條 禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由テ懲罰ニ處セラレタル者ハ一年志願兵タルコトヲ許サス(元第十二條)同上法律ヲ以テ(第十四條)トス

第十五條 現役中殊ニ勤務ニ熟シ品行方正ナル者ハ歸休ヲ命スルコトアル可シ(元第十三條)同上

第十六條 豫備兵「後備兵」ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度六十日以内勤務演習ノ爲メ之ヲ召集シ又毎年一度簡閱點呼ヲ爲ス同上法律ヲ以テ(豫備兵)ノ下(後備兵)ノ三字ヲ加ヘ(元第十四條)ヲ(第十六條)トス

第十七條 第一補充兵及海軍補充兵ハ現役兵ノ補缺ニ充テ又戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集不但第二補充兵ヲ以テ現役兵ノ補缺ニ充ツルハ其服役ノ初年ニ限ル同上法律ヲ以テ本條ヲ追加ス

第一補充兵ハ平常ニ在テ百五十日以内教育ノ爲メ之ヲ召集ス其他勤務演習及簡閱點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

第二補充兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ第一補充兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキ之ヲ召集ス(第十五條)後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集ス平常ニ在テハ勤務演

習及簡閱點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ（同法律ヲ以テ本條ヲ削除ス）

第十八條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ尙ホ兵員ヲ要スルトキニ限り之ヲ召集ス（同上法律ヲ以テ元（第十條）ヲ第六條（第十八條）トス）

第三章 免役延期及猶豫

第十九條 兵役ヲ免スルハ廢疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル（同上元（第十七條）トス）

第二十條 左ニ掲タル者ハ徵集ヲ延期ス次年ニ於テ仍ホ徵集ニ適セサル者ハ國民兵役ニ服セシム（同上元（第十八條）トス）

第一 體格完全且強壯ナルモ身幹未タ定尺ニ滿タサル者

第二 疾病中又ハ病後ニシテ勞役ニ堪ヘサル者

第二十一條 公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重罪ノ爲メ訊問若クハ勾留中ノ者ハ徵集ヲ延期ス（同上元（第十九條）トス）

第二十二條 徵集ニ應スルトキハ其家族自活シ能ハサル確證アル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ延期ス其事故三箇年ヲ過クルモ止マサル者ハ國民兵役ニ服セシム但分家又ハ絶家廢家再興ノ故ヲ以テ本條ニ當ル者其他自活シ能ハサル事故ヲ作爲シタル者ハ其願ヲ許可セス（第二十條）同上法律ヲ以テ（第二十二條）ニ改ム

第二十三條 （第十一條）第二項ニ掲グル學校ニ在校ノ者ハ本人ノ願ニ由リ（滿二十六歲）迄

徵集ヲ猶豫ス其事故（滿二十六歲）迄ニ止ミ又ハ（二十六歲）ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但（第十一條）第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ

（第十一條）第三項ニ依リ服役スル者ハ此限ニ在ラス（二十二年十一月法律第二十九號ヲ以テ本項ヲ六歲（滿二十八歲）ト改メ同上法律ヲ以テ（第十一條）ヲ（第十三條）ニ改メ元（第二十一條）ヲ（第二十三條）トス）

外國ニ在ル者朝鮮國ニ在ル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ猶豫ス滿三十二歲迄ニ歸朝スル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集シ三十二歲ヲ過クル者ハ國民兵役ニ服セシム但第十三條第一

項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス（同上法律ヲ以テ本項ヲ改正ス）

第二十四條 餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長助役及收入役ハ豫備兵ニ在ルト後備兵ニ在ルトヲ問ハス勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ（同上法律ニ在ルト後備兵）ヲ（後備兵ニ在ルト第一補充兵）ニ改メ元（第二十二條）ヲ（第二十四條）トス

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員其開會中亦同シ

第四章 豫備徵員（同上法律ヲ以テ總テ本章ヲ削除ス）

第二十二條 （抽籤番號ノ順序ニ從ヒ毎年所要ノ現役兵員ニ超過スル壯丁ハ一箇年間（十二月）算ス豫備徵員トシ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ又ハ其年徵集ノ兵員缺クルトキ之ヲ徵集ス）（削除）

第二十四條 （豫備徵員ニシテ其期限内ニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム）（削除）

第二十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ滿二十歳ト爲ル者ハ其年ノ一月一日ヨリ同月三十一日迄ニ又第二十三條第一項ニ當ル者ニシテ二十八歳迄ニ事故止ニ同條第二項ニ當ル者ニシテ三十二歳迄ニ歸朝シタル者ハ十四日以内ニ書面ヲ以テ其主ニ非サル者本籍ノ市町村長ニ届出可シ但二十歳未滿ニシテ現役ヲ終ヘタル者又ハ現役中ノ者ハ本條ノ届出ヲ爲スニ及ハス同上法律ヲ以テ(又第二十ニ及ハス三條以下五十七字ヲ加フ)

第二十六條 徵集ハ本籍所在ノ徵募區ニ於テスルヲ(例)トス(他ノ徵募區ニ寄留スル者ハ願ニ由リ其區ニ於テ徵集ニ應スルコトヲ得)(同上法律ヲ以テ(例)ヲ(モ)ニ改メ)

第二十七條 疾病又ハ犯罪等ノ爲メ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之ヲ徵集ス

第二十八條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潜匿シタル者又ハ正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラズシテ之ヲ徵集ス

第二十九條 服役年期ノ計算ハ現役、豫備役、補充役及海軍後備役ニ在テハ各其役ニ就ク年ノ十二月一日第十三條第三項ニ依リ服役スル者ノ現役年期ノヨリ陸軍後備役ニ在テハ各其役ニ就ク年ノ四月一日ヨリ起算ス但第七條ニ依リ延期シタルモノト雖モ服役年期ノ計算ハ延期セサル者ニ同シ二十八、三十三、三十四、三十五條ヲ以テ本條ヲ改ム

現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中及逃亡中ノ日數ハ現役年期ニ算入セス其豫備役年期ハ現役ヲ終ル年ヨリ起算シ陸軍ニ在テハ第六年目ノ三月三十一日迄海

軍ニ在テハ第五年目ノ十一月三十日迄トス但第十條ニ依リ現役年期ヲ短縮シタルモノハ其現役ヲ短縮シタル場合ニ於ケル豫備役年期ニ應シ本項ニ準シテ計算ス

豫備役後備役及補充役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ事由ナクシテ召集ヲ缺キタル者其召集ヲ缺キタル年ハ服役年期ニ算セス

第五章 罰則同上法律ヲ以テ(第六、第七、第八、第九、第十、第十一、第十二、第十三、第十四、第十五、第十六、第十七、第十八、第十九、第二十、第二十一、第二十二、第二十三、第二十四、第二十五、第二十六、第二十七、第二十八、第二十九、第三十、第三十一、第三十二、第三十三、第三十四、第三十五、第三十六、第三十七、第三十八、第三十九、第四十、第四十一、第四十二、第四十三、第四十四、第四十五、第四十六、第四十七、第四十八、第四十九、第五十、第五十一、第五十二、第五十三、第五十四、第五十五、第五十六、第五十七、第五十八、第五十九、第六十、第六十一、第六十二、第六十三、第六十四、第六十五、第六十六、第六十七、第六十八、第六十九、第七十、第七十一、第七十二、第七十三、第七十四、第七十五、第七十六、第七十七、第七十八、第七十九、第八十、第八十一、第八十二、第八十三、第八十四、第八十五、第八十六、第八十七、第八十八、第八十九、第九十、第九十一、第九十二、第九十三、第九十四、第九十五、第九十六、第九十七、第九十八、第九十九、第一百、第一百零一、第一百零二、第一百零三、第一百零四、第一百零五、第一百零六、第一百零七、第一百零八、第一百零九、第一百一十、第一百一十一、第一百一十二、第一百一十三、第一百一十四、第一百一十五、第一百一十六、第一百一十七、第一百一十八、第一百一十九、第一百二十、第一百二十一、第一百二十二、第一百二十三、第一百二十四、第一百二十五、第一百二十六、第一百二十七、第一百二十八、第一百二十九、第一百三十、第一百三十一、第一百三十二、第一百三十三、第一百三十四、第一百三十五、第一百三十六、第一百三十七、第一百三十八、第一百三十九、第一百四十、第一百四十一、第一百四十二、第一百四十三、第一百四十四、第一百四十五、第一百四十六、第一百四十七、第一百四十八、第一百四十九、第一百五十、第一百五十一、第一百五十二、第一百五十三、第一百五十四、第一百五十五、第一百五十六、第一百五十七、第一百五十八、第一百五十九、第一百六十、第一百六十一、第一百六十二、第一百六十三、第一百六十四、第一百六十五、第一百六十六、第一百六十七、第一百六十八、第一百六十九、第一百七十、第一百七十一、第一百七十二、第一百七十三、第一百七十四、第一百七十五、第一百七十六、第一百七十七、第一百七十八、第一百七十九、第一百八十、第一百八十一、第一百八十二、第一百八十三、第一百八十四、第一百八十五、第一百八十六、第一百八十七、第一百八十八、第一百八十九、第一百九十、第一百九十一、第一百九十二、第一百九十三、第一百九十四、第一百九十五、第一百九十六、第一百九十七、第一百九十八、第一百九十九、第二百)

第三十條 第二十五條ノ届出ヲ爲サハル者及正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六章 附則同上法律ヲ以テ(第七、第八、第九、第十、第十一、第十二、第十三、第十四、第十五、第十六、第十七、第十八、第十九、第二十、第二十一、第二十二、第二十三、第二十四、第二十五、第二十六、第二十七、第二十八、第二十九、第三十、第三十一、第三十二、第三十三、第三十四、第三十五、第三十六、第三十七、第三十八、第三十九、第四十、第四十一、第四十二、第四十三、第四十四、第四十五、第四十六、第四十七、第四十八、第四十九、第五十、第五十一、第五十二、第五十三、第五十四、第五十五、第五十六、第五十七、第五十八、第五十九、第六十、第六十一、第六十二、第六十三、第六十四、第六十五、第六十六、第六十七、第六十八、第六十九、第七十、第七十一、第七十二、第七十三、第七十四、第七十五、第七十六、第七十七、第七十八、第七十九、第八十、第八十一、第八十二、第八十三、第八十四、第八十五、第八十六、第八十七、第八十八、第八十九、第九十、第九十一、第九十二、第九十三、第九十四、第九十五、第九十六、第九十七、第九十八、第九十九、第一百、第一百零一、第一百零二、第一百零三、第一百零四、第一百零五、第一百零六、第一百零七、第一百零八、第一百零九、第一百一十、第一百一十一、第一百一十二、第一百一十三、第一百一十四、第一百一十五、第一百一十六、第一百一十七、第一百一十八、第一百一十九、第一百二十、第一百二十一、第一百二十二、第一百二十三、第一百二十四、第一百二十五、第一百二十六、第一百二十七、第一百二十八、第一百二十九、第一百三十、第一百三十一、第一百三十二、第一百三十三、第一百三十四、第一百三十五、第一百三十六、第一百三十七、第一百三十八、第一百三十九、第一百四十、第一百四十一、第一百四十二、第一百四十三、第一百四十四、第一百四十五、第一百四十六、第一百四十七、第一百四十八、第一百四十九、第一百五十、第一百五十一、第一百五十二、第一百五十三、第一百五十四、第一百五十五、第一百五十六、第一百五十七、第一百五十八、第一百五十九、第一百六十、第一百六十一、第一百六十二、第一百六十三、第一百六十四、第一百六十五、第一百六十六、第一百六十七、第一百六十八、第一百六十九、第一百七十、第一百七十一、第一百七十二、第一百七十三、第一百七十四、第一百七十五、第一百七十六、第一百七十七、第一百七十八、第一百七十九、第一百八十、第一百八十一、第一百八十二、第一百八十三、第一百八十四、第一百八十五、第一百八十六、第一百八十七、第一百八十八、第一百八十九、第一百九十、第一百九十一、第一百九十二、第一百九十三、第一百九十四、第一百九十五、第一百九十六、第一百九十七、第一百九十八、第一百九十九、第二百)

第三十二條 本令ハ明治二十二年一月ヨリ施行ス但第二十五條ノ届出期限ハ明治二十二年ニ限リ二月一日ヨリ同月十五日迄トス

第三十三條 本令ハ北海道ニ於テ函館江差福山ヲ除クノ外及沖繩縣並東京府管下小笠原島ニハ(當分)ニ施行セス(漸)シテ施行ス其時期區域及特ニ徵集ヲ免除シ若クハ猶豫ス可キモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(同上法律ヲ以テ(第三、第四、第五、第六、第七、第八、第九、第十、第十一、第十二、第十三、第十四、第十五、第十六、第十七、第十八、第十九、第二十、第二十一、第二十二、第二十三、第二十四、第二十五、第二十六、第二十七、第二十八、第二十九、第三十、第三十一、第三十二、第三十三、第三十四、第三十五、第三十六、第三十七、第三十八、第三十九、第四十、第四十一、第四十二、第四十三、第四十四、第四十五、第四十六、第四十七、第四十八、第四十九、第五十、第五十一、第五十二、第五十三、第五十四、第五十五、第五十六、第五十七、第五十八、第五十九、第六十、第六十一、第六十二、第六十三、第六十四、第六十五、第六十六、第六十七、第六十八、第六十九、第七十、第七十一、第七十二、第七十三、第七十四、第七十五、第七十六、第七十七、第七十八、第七十九、第八十、第八十一、第八十二、第八十三、第八十四、第八十五、第八十六、第八十七、第八十八、第八十九、第九十、第九十一、第九十二、第九十三、第九十四、第九十五、第九十六、第九十七、第九十八、第九十九、第一百、第一百零一、第一百零二、第一百零三、第一百零四、第一百零五、第一百零六、第一百零七、第一百零八、第一百零九、第一百一十、第一百一十一、第一百一十二、第一百一十三、第一百一十四、第一百一十五、第一百一十六、第一百一十七、第一百一十八、第一百一十九、第一百二十、第一百二十一、第一百二十二、第一百二十三、第一百二十四、第一百二十五、第一百二十六、第一百二十七、第一百二十八、第一百二十九、第一百三十、第一百三十一、第一百三十二、第一百三十三、第一百三十四、第一百三十五、第一百三十六、第一百三十七、第一百三十八、第一百三十九、第一百四十、第一百四十一、第一百四十二、第一百四十三、第一百四十四、第一百四十五、第一百四十六、第一百四十七、第一百四十八、第一百四十九、第一百五十、第一百五十一、第一百五十二、第一百五十三、第一百五十四、第一百五十五、第一百五十六、第一百五十七、第一百五十八、第一百五十九、第一百六十、第一百六十一、第一百六十二、第一百六十三、第一百六十四、第一百六十五、第一百六十六、第一百六十七、第一百六十八、第一百六十九、第一百七十、第一百七十一、第一百七十二、第一百七十三、第一百七十四、第一百七十五、第一百七十六、第一百七十七、第一百七十八、第一百七十九、第一百八十、第一百八十一、第一百八十二、第一百八十三、第一百八十四、第一百八十五、第一百八十六、第一百八十七、第一百八十八、第一百八十九、第一百九十、第一百九十一、第一百九十二、第一百九十三、第一百九十四、第一百九十五、第一百九十六、第一百九十七、第一百九十八、第一百九十九、第二百)

第三十四條 本令中市町村長トアルハ市制町村制ヲ實施スル迄ノ間戸長ノコトトス

第三十五條 現今陸軍豫備役ニ在ル者ノ服役年期ハ第三條ニ依ル其後備役ニ在ル者ハ常備  
役年期ヲ通シテ十二箇年四箇月トス同上法律ヲ以テ  
本條ヲ改正ス

第二十六條 舊令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過  
クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第二十七條 舊令第十八條第二項ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇  
年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第二十八條 舊令第十八條第七項及第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期  
シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第二十九條 舊令第十八條第三項ノ生徒ニシテ第一豫備徵員ト爲リ仍ホ在校ノ者ハ該徵員  
タルコトヲ止メ滿二十七歳迄徵集ヲ猶豫シ其事故二十七歳ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキ  
ハ國民兵役ニ服セシム

第四十條 第三十六條第三十七條第三十八條及第三十九條ニ掲グル者其事故各其本條ノ期  
限内ニ止ミタルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十一條 舊令第十八條第三項若クハ第十九條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シ在校ノ者ハ其事故  
(六箇年)以内ニ止ミタルトキ又ハ(六箇年)ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ抽籤ノ法ニ依  
リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得二十六年三月法律第四號ヲ以  
テ(六箇年)ヲ(八箇年)ト改ム

第四十二條 舊令第三十條ニ依リ補充員ト爲リタル者ハ之ヲ豫備徵員ト爲シ一箇年間明治  
二十年

一年十二月一  
日ヨリ起算スニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第四十三條 舊令第三十一條ニ依リ第一豫備徵員ト爲リ在校セサル者及舊令第三十二條ニ  
依リ第二豫備徵員ト爲リタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム補充員ヨリ第一豫備徵員ト爲  
リタル者亦同シ

第四十四條 明治十二年第四十六號布告徵兵令ニ依リ國民軍ノ外免役又ハ平時免役若クハ  
徵集猶豫ニ屬シタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム

第四十五條 舊令第八條ニ依リ海軍兵ト爲リタル者ノ服役期限ハ同令第三條及第四條ニ依  
ル

第四十六條 第三十六條第三十七條第三十八條ニ掲グル徵集延期ノ者及第三十九條第四十  
一條ニ掲グル徵集猶豫ノ者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ三日以内ニ本籍ノ  
市町村長ニ届出可シ

(第十一條)第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十六歳迄ニ其職職ヲ罷ムル者  
ハ三日以内本籍ノ市町村長ニ届出可シ(二十八年三月法律第十五號ヲ以テ  
(第十一條)ヲ(第十三條)ニ改ム

(前項)ノ届出ヲ爲サル者及本令施行前舊令第三十五條第三十六條ノ届出ヲ爲サスシテ  
本令施行後ニ於テ發覺スル者ハ本令第三十條ニ依リ處分ス(二十六年三月法律第四號ヲ以テ  
(前項)ヲ(第二項)ニ改ム

(附言) 一 十八年三月法律第十五號ヲ以テ前記ノ如ク本令ヲ改正ス其法律ノ末尾ニ附則ヲ  
掲ケテ曰「此ノ法律ハ明治二十八年四月一日ヨリ施行ス但現今ノ豫備徵員ハ従前ノ規程

ニ依ル」ト

●舊徵兵令明治十六年十二月二十八日  
布告第四十六號

第八條 陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輸重兵及ヒ雜卒職工ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

海軍現役兵ハ海軍所要ノ人員ニ應シ沿海地方及ヒ島嶼ノ人民ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工等ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則ニ依リ就役スル者ハ本令ノ限ニ在ラス

第十一條 年齡滿十七歲以上滿二十七歲以下ニシテ官立府縣立學校小學校卒業證書ヲ所持シ服役中食料被服等ノ費用ヲ自辨スル者ハ願ニ因リ一箇年間陸軍現役ニ服セシム其技藝ニ熟達スル者ハ若干月ニシテ歸休ヲ命スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十七條 左ニ掲クル者ハ徵集ヲ猶豫ス但其年補充員不足スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ之ヲ徵集ス

第一項 兄弟同時ニ徵集ニ應スル者ノ内一人及ヒ現役兵ノ兄或ハ弟一人

第二項 現役中死没又ハ公務ノ爲メ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ免役シタル者ノ兄或ハ弟一人

第三項 戸主年齡滿六十歲以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第四項 戸主癡疾又ハ不具ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第五項 戸主

第十八條 左ニ掲クル者ハ其事故ノ存スル間徵集ヲ猶豫ス

第一項 教正ノ職ニ在ル者

第二項 官立府縣立學校小學校卒業證書ヲ所持スル者ニシテ官立公立學校教員タル者

第三項 官立大學校及ヒ之ニ準スル官立學校本科生徒

第四項 陸海軍生徒海軍工夫

第五項 身幹未タ定尺ニ滿タサル者

第六項 疾病中或ハ病後ノ故ヲ以テ未タ勞役ニ堪ヘサル者

第七項 學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者

第八項 禁錮以上ニ該ル可キ刑事被告人ト爲リ裁判未決ノ者

第九項 公權停止中ノ者

第十九條 官立府縣立學校小學校ニ於テ修業一個年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒ハ六個年以内徵集ヲ猶豫ス

第二十一條 官省院廳府縣ニ於テ餘人ヲ以テ代フ可カラサル技術ノ職ヲ奉スル者ハ太政官ノ決裁ニ依テ徵集ヲ猶豫スルコトアル可シ

第二十條 補充員ハ補充籤ヲ抽キタル者ヲ以テ一個年間之ニ充ツ其期限内現役兵欠員ス

ルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ其番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ徵集ス  
補充員ノ數ハ概テ現役徵員五分ノ二ヨリ少カラサルモノトス

第三十一條 補充員ニシテ其期限内徵集ノ命ナキ者及ヒ第十八條第三項ノ生徒ニシテ二  
個年以上ノ課程ヲ卒リタル者ハ年齡滿二十七歲迄之ヲ第一豫備徵員トス

第三十二條 第十七條ニ當ル者ニシテ其年徵集ノ命ナキ者第十八條第二十一條ニ當ル者  
ニシテ七個年間其事故ノ存スル者及ヒ第一豫備徵員ヲ終リタル者年齡滿三十二歲迄ハ  
之ヲ第二豫備徵員トス但第十七條ニ當ル者第二豫備徵員ト爲リタル後六個年間ニ該條  
ニ掲クル資格ヲ失ヒタルトキハ現役ニ徵集ス

第三十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齡滿二十歲ト爲ル者ハ其年ノ九月一日ヨリ同月  
十五日迄ニ書面ヲ以テ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ届出可シ若シ届出ノ後翌年四月十日迄ニ  
異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ届出可シ但二十歲未滿  
ニシテ現ニ服役スル者ハ届出ルニ及ハス

第三十六條 第十七條ニ當ル者其資格ヲ失ヒ第十八條第十九條第二十一條ニ當ル者其事  
故止ミ及ヒ第三十二條但書ニ當ル異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ其年ノ九月一  
日ヨリ同月十五日迄ニ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ届出可シ但九月十六日以後翌年四月十日  
以前本條ニ當ル者ハ三日以内ニ本籍戸長ニ届出可シ

○第二百七十七條 令第二十三條第二項ニ當ル者徵集猶豫出願證明書添付ノ件明治三十  
八年一月

二十四日  
陸軍省令第一號

明治二十六年陸軍省令第一號ヲ左ノ通改正ス

一 徵兵令(第二十一條)第二項ニ依リ徵集猶豫ヲ出願セントスル者ニシテ其願書ニハ公使  
又ハ領事ノ證明書ヲ添ヘ三月一日迄ニ差出シ難キ事情アルモノハ海外旅券ヲ受取リタ  
ル官廳ノ承認書ヲ以テ公使又ハ領事ノ證明書ニ換ヘ同日迄ニ差出シ置キ追テ該證明書  
ヲ差出スコトヲ得(令第二十一條ハ二十八  
年三月法律  
第十五號ヲ以テ第二十三條ト改ム)

二 公使及領事ヲ置カサル國ニ在ル者ハ其徵集猶豫願書ニ海外旅券ヲ受取リタル官廳ノ證  
明書ヲ添ヘ差出スヘシ

○第二百七十八條 令第二十四條ニ當ル官吏資格ノ件明治二十二年二月二十七日  
閣令第六號各官廳

明治二十二年法律第一號徵兵令第二十二條ニ當ル餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル  
官吏ハ豫メ其官廳ヨリ内閣ニ具狀シ認可ヲ請フ可シ令第二十二條ハ廿八年法律第  
十五號ヲ以テ二十四條トナル

○第二百七十九條 師範學校卒業生ニシテ令第四十一條第三十七條ニ關スル件明治二十二  
年三月六日  
法律第八號

朕官立府縣立師範學校卒業生ノ徵兵ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
官立府縣立師範學校生徒ニシテ明治二十二年中ニ卒業スル者ハ徵兵令第四十一條ニ據ラス  
直ニ官立公立學校ノ教員ト爲ルコトヲ得其教員ト爲リタル者ハ同令第三十七條ニ據リ處分  
スヘシ



○第二百八十 附籍者徵兵適齡届出方ノ件明治二十二年一月二十二日(内務大臣建書)  
陸軍省訓令第七號北海道廳府廳(沖繩縣ヲ除ク)  
 附籍者ニシテ徵兵適齡ノトキハ戸主ト家族ヲ問ハス戸主ヨリ家族ノミ他ヘ附籍ノ場合ニ在  
 ラハ本籍戸主ヨリ徵兵令第二十五條ノ届書ヲ差出サシメ本籍ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應セシ  
 ム可シ

●何指令

●令第三十六條適用方及該條猶豫ニ屬シタル者ノ件明治二十二年二月九日  
宮城縣問合  
 徵兵令第三十六條ハ昨二十一年徵兵相當異ニシテ未タ第二豫備徵員ニ編入セラレサル者據レハ  
十二月一日ニ至リ第ニ豫備徵員ニ編入ノ者ノミ適用スル儀ナリヤ  
 同第三十六條ニ猶豫ニ屬シタル者ト之アリ右ハ昨二十一年徵兵相當異ニシテ舊徵兵事務條  
 例第六十三條ノ裁決濟ノ者ノミニテ同年徵兵署閉鎖後猶豫ノ事故止ミ舊令第十七條ノ資格  
 ナ得タル者ハ含有セサルヤ

陸軍省總務局回答 明治二十二年三月四日

第一項ハ意見之通第二項ハ新令發布前即チ一月二十一日マテニ舊令第十七條ノ資格ヲ  
 得タル者ハ含有スル儀ナリ

●徵集猶豫ノ小學校教員ニシテ師範學校入學ノ者引續猶豫ノ件明治二十二年三月十六日  
宮城縣問合  
 小學校教員ニシテ徵集猶豫ニナリタル者ニシテ高等師範學校ニ入學セシムル者ハ引續キ猶  
 豫ニ屬スヘキヤ

陸軍省指令 明治二十二年三月十八日

何ノ通但シ更ニ新令第二十一條(改正二十三條)ニ依ルモノトス

●令第二十三條第四十條第四十二條但書適用方第三十六條乃至第三十八條第四十一條年限  
 分界方及第三十九條ノ事故止ミタル者徵集方等ノ件明治二十二年二月十八日  
大阪府問合  
 本年法律第一號ヲ以テ徵兵令改正相成候就テハ本令ニ關スル取扱方不日發布可相成トハ存  
 候得共最早各自届出期限ニモ差迫候ニ付不取敢左ノ廉々及御問合候

- 一第二十一條(改正二十三條)第四十條第四十一條ノ但書ハ各其本文年齢滿二十六歳若クハ  
 六個年ヲ過クル者ニモ適用スヘキ乎
  - 一第二十五條但書現役中ニハ陸海軍諸生徒モ含有スル乎
  - 一第三十六條乃至第三十八條及第四十一條中何個年トアルハ各自ノ年齢ニ拘ハラス例ハハ  
 文久元年五月生(即チ明治十ニシテ舊令ニ據リ平時免役ニ屬セシ者其後右免役名稱ヲ能メ  
五年徵兵)再ヒ舊令第十八條ニ當ル資格ヲ得タルニヨリ更ニ該條ニ據リ處分セシ者ノ如キハ其處分  
 セシ年ヲ以テ第一年トシ其第七年若クハ第六年目ノ十二月迄ヲ以テ分界トスヘキ乎
  - 一第三十九條中年齡滿二十七歳迄ニ其事故ノ止ミタル者其年徵集スル能ハサルトキハ二十  
 七歳ヲ過ルモ翌年之ヲ徵集スヘキ乎
- 陸軍省總務局回答 明治二十二年三月十一日
- 第一項御見解ノ通

但第二十一條(改正二十三條)第一項ノ事故止マサル者ハ滿二十六歳トナル年ニ於テ  
徵集スルヲ以テ同項但書ハ二十六歳以前ノ者ニ適用ス

第二項御見解ノ通

但兵籍ニ編入セサル者ハ此限ニ在ラス

第三項適齡年ヨリ起算シ第七年第八年目ノ徵集事務終結ヲ以テ分界トス

第四項徵募事務終結後ニ係ル者ハ徵集セス

●令第十二條第二十二條第二十三條第三十六條乃至第三十八條第四十一條ノ年齢及年限起  
算方ノ件明治二十二年二月九日  
宮城縣問合

徵兵令中疑義ノ廉左ニ及御問合候

第一項 令第十條(改正十二條)ノ滿十七歳及第十一條(改正十三條)ノ滿十七歳二十六歳ハ  
其志願スル年ノ十二月ヲ以テ分界トスヘキヤ

第二項 令第二十條(改正二十二條)ノ三箇年及第三十六條第三十七條第三十八條ノ七箇年  
並第四十一條ノ六箇年ハ適齡年ノ一月ヨリ起算スヘキヤ將タ十二月一日ヨリ起算スヘキ  
ヤ

第三項 令第二十一條(改正二十三條)ノ滿二十六歳及第三十九條ノ滿二十七歳ハ生月ヨリ  
起算スヘキヤ將タ適齡年ノ十二月一日ヨリ起算スヘキヤ  
陸軍省總務局回答 明治二十二年三月十二日

第一項 滿十七歳ハ見解ノ通滿二十六歳ハ志願スル年ノ一月ヨリ十二月迄ニ其年齢ニ  
當ル者ヲ云フ

第二項 令第二十條(改正二十二條)ノ三箇年ハ同條ノ事故ニ由リ徵集ヲ延期シタル年  
ヨリ其他ハ適齡ノ年ヨリ起算ス

第三項 適齡ノ年ヨリ起算シ滿二十六歳又ハ滿二十七歳トナル年ノ徵募事務終結ヲ以  
テ徵集猶豫ノ分界トス

●舊徵兵令第二十條ノ官吏召集ノ件明治二十二年四月一日(電報)  
鹿兒島縣問合

舊令第二十條ニ當ル官吏ハ更ニ客月閣令六號ノ手續ヲ爲スニ非サレハ召集可相成哉  
陸軍省回答 明治二十二年四月五日(電報)

問合ノ通

●官立府縣立師範學校卒業者ニシテ猶豫ノ事故止ミタル者六箇月現役志願及令第二十八條  
ニ依リ徵集スル者ノ件明治二十二年四月六日  
岩手縣問合

第一項 徵兵令第二十一條(改正二十三條)及第四十一條但書一年志願兵ヲ志願スルヲ得ヘ  
キ旨掲載有之然レハ一旦猶豫ニ風シタルモ事故止ミタルトキハ一年志願兵ヲ志願スルヲ  
得ルニ止リタルモノ、如ク相見得候得共官立府縣立師範學校ノ卒業者ハ第十一條(改正  
十三條)ニ依リ六箇月現役ヲ志願スルコトヲモ得ル儀ニ候哉

第二項 同令第二十八條ニ依リ抽籤ノ法ニ依ラスシテ徵集スルモノハ第三十條又ハ第三十

一條ニ依リ處罰セラレタルモノニ限ルヤ

陸軍省指令 明治二十二年四月十五日

第一項 伺之通

第二項 公訴期滿免除トナリタル者ヲ除クノ外伺ノ通

●令第十三條第三項ニ當ル者翌年廻處分方及入營旅費支給ノ件明治二十三年三月十九日 佐賀縣會合

一 毎年六月一日以後徵兵令第十一條(改正十三條)第三項ノ資格ヲ有シタル者ハ翌年廻シトナスヘキヤ

但六月一日前ニ本文資格ヲ得ルモ夫々取扱中期日經過スルモノモ本文同様可取計哉

一 入營旅費ハ一般徵兵旅費定則ニ依リ本縣ニ於テ支給スヘキヤ

陸軍省總務局回答 明治二十三年四月一日

總テ御意見ノ通ト存候

●公立小學校長令第十三條第三項ニ依リ取扱ノ件明治二十三年四月二日 佐賀縣會合

公立小學校長ハ直接生徒ニ教授ヲササルモ訓導其他教員ヲ指揮教務ヲモ整理スルモノニ付教職ト稱ス可キヤ果シテ然ラハ徵兵令第十一條(改正十三條)第三項ニ依リ取扱筋ニ候哉

陸軍省總務局回答 明治二十三年四月十二日

御意見ノ通

●令第四十六條届出方ノ件明治二十四年五月十九日 佐賀縣會合

徵兵令第四十六條届出ノ儀ハ戶主本人ノ區別明文無之候處同令第二十五條届出ノ原則ヨリ推考スル時ハ勿論戶主ヨリ届出ヘキチ正當ノ儀ト被相考候果シテ然ルトキハ同令第二十五條第四十六條ノ届出ハ同一ノ精神ニ出ルモノト相心得可然哉

陸軍省指令 明治二十四年五月二十五日

伺ノ通

但第四十六條第二項ニ當ルモノ戶主ニアラサルトキハ本人ヨリ届出ヘキモノトス

●令第二十七條ニ當ル者海軍志願兵志願ノ件明治二十四年六月二日 三浦縣會合

徵兵現役當籤ノ者ハ海軍志願兵徵募規則ニヨリ志願スルコトヲ得サル旨先キニ鹿兒島縣ヘ御指令相成候處徵兵令第二十七條ニヨリ翌年徵集セラルヘキ者ハ假令前年ニ於テ現役當籤セシモ抽籤前ニ在リテハ同規則ニヨリ志願スルコトヲ得ルヤ本年陸軍省令第五號達ノ次第モ有之候ニ付相伺候

海軍省指令 明治二十四年六月二十五日

徵兵令第二十條ニ當ル者ハ海軍志願兵徵募規則ニ依リ志願スルヲ得ス

●徵兵未行地ヘ轉籍ノ者検査後抽籤前徵集セサル件明治二十五年五月二十四日 滋賀縣會合

彙ニ兵庫縣知事ヨリ徵集相當者ノ内家事ノ都合ニ依リ徵兵未行地ヘ全戶轉籍又ハ分家移住セシ場合ニ於テ別ニ徵兵上規定無之候得共既ニ検査ノ上合格セシモノ抽籤前並ニ新兵ニシテ入營前ハ勿論徵集スル義ト相心得可然哉トノ伺ニ對シ徵集セサル旨御指令相成候然ルニ

本月二十日官報第二千六百六十六號登載ノ貴省副官ヨリ兵庫縣知事ヘノ御通牒ニ依リハ右御指令ハ徵兵事務條例第五十條ノ改正ニ依リ全部消滅ニ屬シタルモノ、如クニ相見ヘ候得共條例第五十條ハ單ニ新兵入營前ノ規定ナルヲ以テ檢査後ト雖モ抽籤前ニ於テ令第二十八條ニ當ル者ト否トナ間ハス總テ從前ノ如ク徵集セサル義ト承知致シ可然哉爲念及御問合候陸軍省軍務局第二軍事課回答 明治二十五年五月二十七日

御意見ノ通ニ付此段及御回答候也

(附言) 兵庫縣知事ヘ陸軍副官ヨリノ通報ハ事務條例ノ末ニ附記ス

尋常師範學校簡易科卒業者令第十三條第三項第四項取扱ノ件明治二十五年七月二十七日 文部省照會 官立府縣立師範學校卒業者ハ一定ノ年限間國家教育ノ職務ニ服事セシムヘキ者ナレハ之ヲ普通ノ兵役ニ服セシムルトキハ長ク其職務ヲ廢止セムルコト、ナリ學政上ニ支障勦カラサルカ爲該卒業者ノ兵役義務ニ就テハ明治二十二年一月法律第一號徵兵令第十一條改正十三條第三項同第四項ノ特典ヲ設ケラレ居候處本年七月文部省令第八號ヲ以テ尋常師範學校ノ學科及其程度ヲ改正シ其第四條ニ於テ土地ノ情況ニ依リ尋常師範學校ニ簡易科ヲ置ケテ得セシメ又同省令第十五號ヲ以テ尋常師範學校簡易科規程ヲ設タリ抑モ此簡易科ヲ設ケタル理由ハ目下小學校教員缺乏ノ折柄尋常師範學校ニ於テ每年卒業セシムル者ノミニテハ容易ニ其需要ニ應スルコト能ハサレハ一時權宜ノ途ニ依リ尋常小學校即チ各市町村ニ於テ必ス設置セサル可ラサル小學校ノ教員ヲ養成シ以テ國家教育ノ普及ヲ計ルハ學政上之ヲ以テ今日

ノ急務トスルニ在リ故ニ簡易科卒業者モ亦國家教育ノ職ニ服事スルコト從前ノ師範學校卒業者ト毫モ徑庭アルコトナシ唯其速成ヲ期シテ修業年限ヲ短縮シ隨テ服務年限ヲモ幾分短縮シタルアルノミ又簡易科ノ課程ニモ兵式體操ヲ加ヘ其程度ハ尋常師範學校ニ於テ他ノ生徒ニ課スルモノト異ナル所ナシ唯修業年限ノ短キカ爲ニ熟練ニ於テ多少ノ差アルヲ免カレサルノミ之ヲ要スルニ簡易科モ亦尋常師範學校ノ一部ニシテ其卒業者ハ即チ國家教育ノ職務ニ服事セシムル者ナレハ該卒業者モ亦前記徵兵令ノ特典ニ與カラシムヘキハ學政上必要ニ候條貴省御主管ノ徵兵事務ニ於テモ前陳ノ理由ニ依リ尋常師範學校簡易科卒業者ハ即チ府縣立師範學校卒業者タルコトヲ認メテ御取扱相成様致度候依テ別記參考書相添此段及御照會候也 (參考書略ス)

陸軍省回答 明治二十五年八月二十日

今般學政上ノ都合ヲ以テ尋常師範學校ニ簡易科ヲ置カレ候處右簡易科卒業ノ者モ徵兵令第十一條(改正十三條)第三項第四項ニ依リ取扱候様御照會ノ趣承知致候  
●令第二十條ノ事故再發者取扱ノ件明治二十五年十一月三十日 第五師團申請  
徵兵令第二十條(改正二十二條)ニ因リ徵集延期既ニ三年ニ至リ其後事故止ミ徵集身分ト爲リ新令ニ合格ノ處抽籤後入營再ヒ本條相當ノ事故ヲ生シタルヲ以テ徵兵事務條例第五十三條ニ依リ徵集ヲ延期シタル者有之候處右ハ前後ヲ通算スルトキハ三箇年ヲ過クル者ニ付翌年徵集事務執行ノ砌國民兵編入ノ處分ヲ爲シ可然候哉或ハ事故再發ノ者ニ付更ニ三箇年過

キ仍ホ事故止マサル者ニ非ラサレハ其取扱難致儀ニ候ヤ是迄類例モ無之候間何分ノ御指揮相成度

陸軍省指令 明治二十五年十二月七日

後段申請ノ通

●令第二十二條事故再發者取扱德島縣へ回答ト矛盾ノ件明治二十五年十二月二十日 熊本縣問合

徵兵令第二十條改正二十二條徵集延期ノ年期通算ノ義ニ付去ル明治二十三年十二月二十日 官報

貴課ヨリ德島縣へ御回答ノ趣有之候處本月八日 官報第五師團長ノ申請ニ對スル陸軍大臣ノ御指

令ハ前後ノ年限ヲ通算セサリ事ニ相成居右ハ一端現役ニ當籤セシ後新ニ事故ノ生シタルモ

ノト否ラサルモノトニ依リ差違アル義ト了解致可然哉何分ノ御回答有之度候也

陸軍省第二軍事課回答 明治二十六年二月二十二日

事故ノ繼續ト否トニ由リ區別アル旨趣ニ有之候尤德島縣照會ノ儀モ乙家離退ノ時一旦

事故止ミタル者ニ付丙家ニ於テ延期トナリタル初年ヨリ更ニ延期年限ヲ起算シ可然旨

其後同縣へ及通知候條右様御承知有之度

●小學校教員休職者及六週間現役ヲ終リタル徵員徵集セサル件明治二十五年九月十九日 鳥取縣書記官照會

第一項 舊徵兵令第十八條第二項相當ニシテ新徵兵令第三十七條ニ依リ徵集延期ノモノ七

箇年内ニ於テ明治二十四年十一月文部省令第二十號第五條ニ依リ休職ヲ命セラル、モ教員

ノ資格ヲ存スルモノニ付徵集スヘカラサル儀ニ候哉

第二條 徵兵令第十一條(改正第十三條)第三項ニ依リ六週間ノ現役ヲ終リタル教員ニシテ

其在官ノ儘高等師範學校其他官立學校ニ入學セシモノハ國民兵ノ儘差措可然哉

但徵兵令第三十七條ニ依リ徵集延期ノモノ本文同様ノトキハ依然徵集延期可相成哉

右差掛リタル儀有之候間速ニ何分ノ御回答相成度

陸軍省軍務局第二軍事課回答 明治二十五年九月二十七日

兩項但書共御意見ハ通ト存候

●豫備徵員徵集ニ關スル件明治二十七年十二月二十五日 德島縣問合

今回ノ充員召集ニ當リ徵集セラレタル豫備徵員疾病犯罪其他ノ事故アリ入營セサル者ハ令

第二十七條ニ據リ爲取扱可然ト思考候得共聊カ疑義有之爲念及御問合候

陸軍省軍務局第一軍事課回答 明治二十七年十二月二十八日

事故ノ爲メ徵集セサルモ其期限ノ終ル迄ハ戰時事變ニ於ケル徵集ニ應スヘキ義務ヲ有

スル者ニシテ新兵ニ線上ラレタル者トハ相異候ニ付徵兵令第二十七條ニ據ルノ限ニア

ラサル儀ト御承知有之度

●寄留地應徵者ニ關スル件明治二十八年三月二十日 岐阜縣問合

徵兵令第二十六條中改正相成リタルモ既ニ許可セシ寄留地應徵者ハ其儘ニテ然ルヘキヤ

陸軍省指令 明治二十八年三月二十一日

伺之通

第二節 徵兵事務條例同施行細則及附屬ノ法令

○第二百八十一 徵兵事務條例明治二十二年二月二十五日(二月二十七日公布)勅令第十五號

朕徵兵事務條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
徵兵事務條例

第一章 徵兵區

第一條 徵兵區ハ師管旅管及大隊區又ハ警備隊區ノ區域ニ從フ

第二條 大隊區及警備隊區ハ更ニ之ヲ徵募區ニ分ツ

第三條 徵募區ハ一郡又ハ一市ヲ以テ一區ト爲ス

一市ニシテ二大隊區ニ分屬スルモノハ各別ニ一區ト爲ス

數郡ニ一郡役所ヲ置クモノハ數郡ヲ併セ一區ト爲ス其島廳ヲ置クモノ亦同シ

第四條 常備步兵各聯隊ノ兵員ハ其旅管内最寄ニ大隊區ヨリ(徵集スルヲ例トシ不足スル

トキハ同管内他ノ大隊區ヨリ補充ス)其他ノ兵員ハ其師管ヨリ徵集ス二十八年三月勅令第三十

(補充ス)マデノ近衛步兵隊(及騎兵隊)ノ兵員ハ各師管ヨリ其他ノ兵員ハ第一師管ヨリ徵集ス二十七年十一月

十六號ヲ以テ(及騎兵隊)ノ四字ヲ削ル警備隊ノ兵員ハ其警備隊區ヨリ徵集ス號ヲ以テ(徵集スル)以下

海軍兵員ハ各師管内沿海及島嶼ヲ包括スル大隊區ヨリ徵集ス

本條第一項第二項ニ依リ要員ヲ充タシ能ハサルトキハ他ノ大隊區若クハ他ノ師管ヨリ其

ノ不足ヲ補充スルコトヲ得二十八年三月勅令第三十號ヲ以テ本項ヲ追加ス

第二章 徵兵官

第五條 徵兵官ハ總理徵兵官師管徵兵官旅管徵兵官大隊區徵兵官及警備隊區徵兵官トス

第六條 總理徵兵官ハ內務大臣及陸軍大臣ヲ以テ之ニ充テ全國徵兵ノ事ヲ統轄ス

第七條 師管徵兵官ハ師管内府縣毎ニ師團長及府縣知事ヲ以テ之ニ充テ師團長ヲ首座トシ

其管内府縣徵兵ノ事ヲ統轄ス

第八條 旅管徵兵官ハ旅管内府縣毎ニ旅團長及府縣書記官ヲ以テ之ニ充テ旅團長ヲ首座トシ

旅管内徵募事務ヲ執行ス

第九條 大隊區徵兵官ハ大隊區内徵募區毎ニ大隊區司令官及島司若クハ郡市長ヲ以テ之ニ

充テ警備隊區徵兵官ハ(警備隊司令官)及島司若クハ郡市長ヲ以テ之ニ充テ大隊區司令官又

ハ(警備隊司令官)ヲ首座トシ其區内徵募準備事務ヲ執行ス二十五年四月勅令第三十三號ヲ以テ(警

備隊司令官)ヲ(警備隊區司令官)ニ改メ

第十條 第八條第九條ニ掲クル徵兵官ノ外旅管内府縣毎ニ旅管徵兵參事員大隊區内徵募區

毎ニ大隊區徵兵參事員警備隊區内徵募區毎ニ警備隊區徵兵參事員ヲ置ク同上勅令ヲ以テ

第十一條 旅管徵兵參事員及大隊區徵兵參事員ハ警備隊區徵兵參事員ハ徵兵令(第二十

條)ニ當ル徵集延期及徵集免除ニ關スル事件ヲ審議シ意見ヲ徵兵官ニ具申スルヲ任トス

但徵兵官ノ裁決ニ付可否ヲ議スルノ權ナキモノトス同上勅令ヲ以テ本條ヲ改正シ二十八年三月勅令

第三十號ヲ以テ(第二十條)ヲ(第二十二條)ニ改

第十二條 旅管徵兵參事員ハ府縣名譽職參事會員ヲ以テ之ニ充テ大隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ郡市名譽職參事會員ヲ以テ之ニ充ツ但府ニ在テハ其府名譽職參事會員ニ於テ郡市部各二名ヲ互選シ市ニ在テハ其市名譽職參事會員ニ於テ四名ヲ互選シ之ヲ定ム二十五年勅令第三十三號ヲ以テ本條ヲ改正ス

島廳ヲ置ク島嶼ノ大隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ島司ニ於テ各町村會議員ヨリ四名ヲ選ヒ府縣知事ノ認可ヲ得テ之ヲ命ス其任期ハ町村會議員ノ任期ニ依ル

第十三條 旅管徵兵參事員及大隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ互ニ兼メルヲ得ス郡市參事會員ヲ兼メル府參事會員ニシテ互選ニ當リタル者又ハ縣參事會員ニシテ郡市參事會員ヲ兼メタル者ハ旅管徵兵參事員ニ充ツ此場合ニ於テ郡ノ大隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ノ缺員ハ郡制第四十八條ニ依リ補充員ノ内ヨリ之ヲ補缺ス可シ(同上)

第十四條 每年徵募事務及徵募準備事務執行中ハ旅管徵兵醫官及大隊區徵兵醫官又ハ警備隊區徵兵醫官ヲ置ク(同上)

旅管徵兵醫官ハ旅管内徵兵身體檢查ニ係ル事ヲ總管シ大隊區徵兵醫官又ハ警備隊區徵兵醫官ハ徵兵身體ノ檢查ニ從事ス

第十五條 旅管徵兵醫官ハ陸軍二等軍醫正一名ヲ以テ之ニ充テ大隊區徵兵醫官又ハ警備隊區徵兵醫官ハ陸軍一・二・三等軍醫一名ヲ以テ之ニ充ツ

參照 戰時又ハ事變ニ際シ旅管及大隊區警備隊區徵兵醫官職務ノ件(明治二十八年一月八日勅令第十一號)

勅令第二號

朕徵兵事務條例中旅管徵兵醫官大隊區徵兵醫官警備隊區徵兵醫官ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

戰事又ハ事變ニ際シテハ徵兵事務條例第十五條ノ規程ニ依ラス旅管徵兵醫官ハ陸軍一等軍醫ヲ以テ之ニ充テ大隊區徵兵醫官又ハ警備隊區徵兵醫官ノ職務ハ雇員ヲシテ之ニ從事セシムルコトヲ得但雇員ハ醫術開業免狀ヲ所持スル者ニ限ル

雇員ヲシテ大隊區徵兵醫官又ハ警備隊區徵兵醫官ノ職務ニ從事セシムルトキハ徵兵體格等位ノ適否ハ旅管徵兵醫官之ヲ判定ス

第十六條 每年徵募事務及徵募準備事務執行中ハ旅管徵兵署事務員旅管徵兵署事務補助員及大隊區徵兵署事務員又ハ警備隊區徵兵署事務員ヲ置ク

旅管徵兵署事務員ハ旅管徵兵署一般ノ事務ヲ掌理シ旅管徵兵署事務補助員及大隊區徵兵署事務員又ハ警備隊區徵兵署事務員ハ該徵兵署ノ庶務ニ從事ス

第十七條 旅管徵兵署事務員ハ旅團副官一名府縣兵事擔任ノ課長ヲ以テ之ニ充テ旅管徵兵署事務補助員ハ旅團書記一名府縣屬若干名及島廳郡市書記各一名ヲ以テ之ニ充テ大隊區徵兵署事務員又ハ警備隊區徵兵署事務員ハ大隊區書記又ハ警備隊區書記一名島廳書記又ハ郡市書記一名若クハ二名ヲ以テ之ニ充ツ

第十八條 每年徵募準備事務執行中ハ地方醫師若干名ヲ以テ徵兵醫官補助員トシ府縣知事

ノ選ヲ以テ之ヲ命ス

徴兵醫官補助員ハ徴兵醫官ノ指揮ヲ受ケ身體検査ノ事ヲ補助ス

第三章 配賦

第十九條 毎年徴集ス可キ(新兵)ノ員數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(同上勅令ヲ以テ(新兵)ノ(現役兵及補充兵)ニ改ム)

第二十條 (陸軍大臣ハ第十九條ノ勅令ニ基キ近衛新兵及海軍新兵ノ委員ヲ各師管ニ配賦ス)(二十七年十二月公布勅令第百九十六號ヲ以テ本條ヲ削除ス)

第二十一條 師團長ハ第十九條ノ勅令(及第二十條ノ配賦)ニ基キ(新兵)ノ要員ヲ各旅管ニ旅團長ハ之ヲ各大隊區ニ大隊區司令官ハ之ヲ各徴兵區ニ配賦ス(二十五年四月勅令第三十三號ヲ以テ(師團長)ノ下(第十九條ノ勅令ニ基キ)ノ十八字ヲ加ヘ二十七年十二月公布勅令第百九十六號ヲ以テ(及第二十條ノ配賦)ノ八字ヲ削リ二十八年三月勅令第三十號ヲ以テ(新兵)ヲ(現役兵及補充兵)ニ改ム)

第二十二條 (新兵)ノ配賦ハ壯丁ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム(同上勅令ヲ以テ(新兵)ヲ(現役兵及補充兵)ニ改ム)

第四章 徵募準備

第二十三條 町村長ハ毎年戶籍簿ニ據リ徴兵適齡者ヲ取調ヘ(徴兵令第二十五條ノ届書)ヲ戶籍簿ニ照較シ壯丁名簿ヲ作り(三月一日迄)島司又ハ郡長ニ差出シ島司郡長ハ點檢ノ後之ヲ一徴募區ニ取調ノ前年假決ノ諸名簿ト共ニ大隊區徴兵署又ハ警備隊區徴兵署ニ提出ス(ヘシ)二十五年四月勅令第三十三號ヲ以テ(三月一日)ヲ(二月十五日)ニ改メ二十七

市長ハ前項ノ例ニ依リ壯丁名簿ヲ作り前年假決ノ諸名簿ト共ニ之ヲ大隊區徴兵署ニ提出ス可シ

第二十四條 毎年徴募準備事務執行ノトキハ各徴募區ニ大隊區徴兵署又ハ警備隊區徴兵署ヲ設ケ  
土地廣潤壯丁多數ノ徴募區ニ在テハ數箇ノ徴兵検査所ヲ設ケルコトヲ得  
第二十五條 大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ハ島司郡市長ニ協議シ徴兵署及検査所巡  
同日割ヲ定メ之ヲ旅管徴兵官ニ申報ス可シ(二十五年四月勅令第三十三號ヲ以テ(警備隊)ノ下(區)ノ一字ヲ加フ)  
島司郡市長ハ検査ノ日時、徴兵署及検査所設置ノ場所ヲ豫メ其管内ニ告示ス可シ  
第二十六條 兵役ノ適否ヲ定ムル爲メ大隊區徴兵署又ハ警備隊區徴兵署及検査所ニ於テ壯  
丁ノ身體検査ヲ行フ其検査ハ(徴兵委員)ノ面前ニ於テスルモノトス(同上勅令ヲ以テ(徴兵委員)ヲ(徴兵官及徴兵事務員)ニ改ム)  
若シ兵役ノ適否判定シ難キ者アルトキハ他ノ徴兵署又ハ検査所ニ於テ其検査ヲ續行スル  
コトヲ得(同上勅令ヲ以テ(木項)ヲ追加ス)

第二十七條 大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ハ壯丁ノ身體検査ノ事ヲ監督シ兵種ノ選  
定ニ任ス(同上勅令ヲ以テ(警備隊)ノ下(區)ノ一字ヲ加フ)  
第二十八條 島司郡市長ハ徴集延期及徴集猶豫ニ關スル書類ノ調査及事實ノ審數ニ任ス  
第二十九條 壯丁ノ身體検査終ルトキハ大隊區徴兵官又ハ警備隊區徴兵官ハ徴兵検査名簿  
徴集延期名簿及徴集猶豫名簿ヲ作ル可シ  
第三十條 大隊區徴兵署又ハ警備隊區徴兵署ニ於テ徴集ヲ延期シ又ハ徴集ヲ猶豫ス可キモ  
ノト裁決シタルトキハ各其證書ヲ附與ス



第三十一條 徵募準備事務終ルノ後大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ検査名簿其他終決ヲ受ク可キ書類ヲ取纏メ旅管徵兵官ニ差出ス可シ但徵集延期及徵集猶豫ニ屬シタル者ハ其人員ヲ旅管徵兵官ニ報告シ其名簿ハ島司郡市長之ヲ保管ス可シ

第五章 徵募

第三十二條 每年徵募事務執行ノトキハ旅管内府縣毎ニ旅管徵兵署ヲ設ク

第三十三條 旅團長ハ府縣知事書記官ニ協議シ徵兵署巡回日割ヲ定メ之ヲ師管徵兵官ニ申報シ又之ヲ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ達ス可シ同上勅令ヲ以テ(警備隊)府縣書記官ハ抽籤ノ日時及徵兵署設置ノ場所ヲ島司又ハ郡市長ニ達シ島司郡市長ハ豫メ之ヲ管内ニ告示ス可シ

第三十四條 身體検査ニ合格シタル壯丁ハ徵集順序ヲ定ムル爲メ徵募區毎ニ體格ノ順位及兵種ヲ分チ旅管徵兵署ニ於テ抽籤ヲ行フ同上勅令ヲ以テ(合格)ノ下(タル)トアルヲ(現役ニ復ス可キ)抽籤ハ(旅管徵兵委員)及大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ノ面前ニ於テ抽籤總代人之ヲ爲スモノトス二十五勅令第三十三號ヲ以テ(旅管徵兵委員)ハ(旅管徵兵委員)ニ改ム

第三十五條 旅管徵兵官ハ總代人ノ抽キタル籤番號ノ順序ニ依リ抽籤名簿二本ヲ作り其一本ハ之ヲ島司郡市長ニ交付ス可シ同上勅令ヲ以テ(本條)ヲ改正ス

第三十六條 抽籤終ルトキハ旅管徵兵官ハ當籤番號ノ順序ニ從ヒ(新兵徵募)ノ處分ヲ爲シ

其他ハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ヨリ差出シタル書類ニ就キ終決ノ處分ヲ爲シ

(新兵名簿豫備徵兵)名簿(免役名簿及國民兵編入)名簿ヲ作ル可シ同上勅令ヲ以テ(免役名簿國民兵編入)ニ改ム二十八年三月勅令第三十號ヲ以テ(新兵徵募)ヲ(現役兵)ニ改ム

第三十七條 旅管徵兵署ニ於テ終決ノ處分ヲ爲シタル者「徵集免除」ニハ各其證書ヲ附與ス二十五勅令第三十三號ヲ以テ(爲シタル者)ノ下ニ別註ヲ加フ

第三十八條 徵募事務終ルトキハ旅團長ハ旅管徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り師團長ニ差出シ又(新兵)名簿ヲ各隊ニ交付シ抽籤名簿及(豫備徵兵)名簿ヲ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ交付ス可シ二十八年三月勅令第三十號ヲ以テ(新兵)ヲ(現役兵)ニ改ム又ハ(現役兵)ニ改ム

近衛(新兵)名簿ハ近衛(都督)ニ海軍(新兵)名簿ハ鎮守府司令官ニ送致ス可シ二十五勅令第三十三號ヲ以テ(都督)ヲ(師團長)ニ改ム二十八年三月勅令第三十號ヲ以テ(現役兵)ニ改ム

免役名簿及國民兵編入名簿ハ府縣廳ニ備置ク可シ

第三十九條 師團長ハ師管徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り陸軍大臣ニ差出シ陸軍大臣ハ全國徵兵表ヲ作り奏上ス可シ

第六章 裁決

第四十條 裁決ハ分テ假決及終決ノ二種トス

第四十一條 假決ハ徵集延期及徵集猶豫ノ事ヲ裁決シ終決ハ(新兵徵募豫備徵兵)及國民兵編入並免役ノ事ヲ裁決ス二十五勅令第三十三號ヲ以テ(及國民兵編入並免役)ヲ(編入並免役)ニ改ム二十八年三月勅令第三十號ヲ以テ(新兵徵募豫備徵兵)ヲ(現役兵徵募補充兵)ニ改ム

第四十二條 假決ハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官之ヲ爲シ終決ハ旅管徵兵官之ヲ爲ス  
 第四十三條 壯丁若クハ其家族ニ於テ徵兵令第二十條(第二十一條第二十八條)ニ關スル大  
 隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ旅管徵兵官ニ旅管徵兵官ノ裁決  
 ニ不服アルトキハ師管徵兵官ニ師管徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ總理徵兵官ニ訴願ス  
 ルコトヲ得但訴願ノ爲メニ裁決ノ執行ヲ停止セス(第二十五條四月勅令第三十三號ヲ以テ(第二十一條  
 十號ヲ以テ(第二十條)  
 十號ヲ以テ(第二十二條)ニ改ム  
 本條ノ訴願ハ裁決書ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ爲ス可シ其期日ヲ過クルモノハ  
 受理セス  
 第四十四條 徵兵官ノ裁決ニ對シ訴願スル者ハ其裁決ヲ爲シタル徵兵官ニ其由ヲ届出可シ  
 第四十五條 第四十三條ノ訴願ヲ爲サントスル者ハ其願書ニ同徵募區内其年徵集ニ應ス可  
 キ壯丁ノ戸主三名ノ保證書ヲ添フ可シ  
 第四十六條 徵兵官ノ裁決ニ對シテハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許サス  
 第七章 (新兵)(二十八年三月勅令第三十號ヲ以テ  
 (新兵)ヲ(現役兵及補充兵)ニ改ム  
 第四十七條 (新兵)入營期日ハ每年十二月一日トス但疾病犯罪其他ノ事故ニ由リ十二月一  
 日ニ入營シ難キ者ハ同月三十一日迄ニ入營セシム(同上勅令ヲ以テ(新兵)  
 警備隊諸兵輜重輸卒ノ入營期日ハ別ニ定ムル所ニ據ル  
 (現役兵)ニ改ム  
 第四十八條 現役兵入營ノトキハ先ツ大隊區司令部若クハ便宜ノ地ニ召集シ入營兵引率員

之ヲ入營地ニ引率シ大隊區司令部所在ノ入營地ニ當該隊長ニ交付ス但入營兵五人未滿ナルトキ  
 ハ直ニ入營地ニ單行セシム  
 近衛現役兵及海軍現役兵ハ其ノ集合地ニ引率シ入營兵受領員ニ交付スルモノトス但入營  
 兵引率員出發後到着シタル者ハ直ニ入營地ニ單行セシム(同上勅令ヲ以テ  
 本條ヲ改正ス  
 第四十九條 (新兵)入營ニ際シ父母ノ疾病危篤或ハ死亡ノ爲メ入營ノ延期ヲ願フ者アルト  
 キハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ於テ十四日以内ノ延期ヲ許ス可シ(二十五年三月  
 號ヲ以テ(警備隊)ノ下(區)ノ一字ヲ加ヘ(二十八年  
 三月勅令第三十號ヲ以テ(新兵)ヲ(現役兵)ニ改ム  
 第五十條 (新兵)入營前ハ第四條ノ區域外ニ轉籍戶籍上本人ノ出入モ含有スルモ所屬ノ隊籍ヲ變  
 更セス(寄留地ニ於テ徵集ニ應ス可キ者ニシテ本籍ニ復歸シタルトキ亦同シ)(二十五年四月勅  
 令第三十三號ヲ  
 以テ本條ヲ改正シ(二十八年三月勅令第三十號ヲ以テ  
 (新兵)ヲ(現役兵)ニ改ム(寄留地)以下三十字ヲ削ル  
 令第三十三號ヲ  
 徵兵令第二十七條ニ當リ翌年廻ト爲リタル者ハ身體検査ヲ行ヒ更ニ隊籍ヲ定ムルモノト  
 ス但第四條ノ區域外ニ轉籍シ(又ハ寄留地ニ於テ徵集ニ應ス可キ者ニシテ同條區域外ノ  
 本籍ニ復歸シ)タル者ハ其ノ地ニ於テ身體検査ヲ行ヒ隊籍ヲ定ム(二十七年十二月公布勅令第九  
 八年三月勅令第三十號ヲ以テ(又ハ  
 寄留地ニ於テ)以下三十一字ヲ削ル  
 第五十一條 現役兵入營前死亡シ若クハ疾病犯罪其他ノ事故ニ由リ十二月三十一日迄ニ  
 入營シ難シト認メタル者又ハ入營ノ後翌年一月三十一日前ニ死亡シタル者若クハ常備後  
 備ノ服役及永久服役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ其ノ徵募區ヨリ同兵種ノ第一補充兵若クハ

海軍補充兵ヲ抽籤番號ノ順序ニ從ヒ召集シ若シ其ノ徵募區ヨリ召集スルコト能ハサルトキハ大隊區内他ノ徵募區ヨリ補フ其ノ配賦ハ各徵募區補充兵ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム同上勅令ヲ以テ本條ヲ改正ス

第五十二條 (新兵)入營前癩疾又ハ不具トナリ永久兵役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ旅團長ニ於テ兵役ヲ免ス同上勅令ヲ以テ(新兵)ト改ム

但徵兵令第二十七條ニ當リ翌年回ト爲リタル者其ノ年徵募事務終結前ハ此ノ限ニ在ラズ二十七年十二月公布勅令第百九十六號ヲ以テ但書ヲ加フ

第五十三條 (新兵)入營前徵兵令(第二十條)ニ當ルヘキ事故ノ生スルトキハ本人ノ願ニ由リ旅團長ニ於テ徵集ヲ延期ス同上勅令ヲ以テ(新兵)ヲ(現役兵)ニ改ム

其願書ニハ同徵募區内(新兵)ノ戶主二名ノ保證書ヲ添ヘ島司郡市長及大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ヲ經テ旅團長ニ差出ス可シ但町村ニ在テハ町村長ノ與書證印ヲ受ク可キモノトス二十五年四月勅令第三十三號ヲ以テ本條ヲ改正シ二十八年三月勅令第三十號ヲ以テ(新兵)ヲ(其ノ年徵募ニ應ス可キ現役兵)ニ改ム

島司郡市長ハ其事實ヲ審覈シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ送付ス可シ同上勅令ヲ以テ本項ヲ追加ス

第五十四條 現役兵入營前及補充兵補充兵ニ附與後其ノ年十一月三轉籍シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ但監視區外ニ係ルトキハ新舊住地所管ノ監視區長ニ

届出可シ二十五年四月勅令第三十三號ヲ以テ本條ヲ改正シ二十八年三月勅令第三十號(寄留地ニ於テ徵集ニ應ス可キ者本籍ニ復歸シタルトキハ前項ノ例ニ依リ届出可シ)ニ改ム

勅令第三十三號ヲ以テ本項ヲ追加シ二十八年三月勅令第三十號ヲ以テ削除ス

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

(轉籍若クハ復歸)大隊區外ニ係ルトキハ舊住地大隊區司令官ヨリ新住地大隊區司令官ニ通報ス可シ二十七年十一月勅令第九十六號ヲ以テ本項ヲ追加シ二十八年三月勅令第三十號ヲ以テ(轉籍若クハ復歸)ヲ(其ノ轉籍)ニ改ム

第五十五條 「現役兵入營前及補充兵」寄留者ハ「十四日」以上ノ旅行ヲ爲サントスル「トキハ(徵集)ノ命アルトキハ之ヲ通報ス可キ者ヲ定メ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ

「其復歸シタルトキ亦届出可シ」二十五年四月勅令第三十三號ヲ以テ(若クハ)ノ下(七日)トアリシヲ(十四日)ニ改メ二十七年十一月勅令第九十六號ヲ以テ(其復歸)ノ下(其復歸)ト改メ(其復歸)ノ命アルトキハ通報人ヲ定メ(徵集)ニ改ム

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

通報人正當ノ事由ナクシテ(徵集)ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遅緩シタルトキハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料又ハ一日以上十日以下ノ勾留ニ處ス二十七年十一月勅令第九十六號ヲ以テ本項ヲ追加シ

第五十六條 第一補充兵及海軍補充兵ハ他ノ徵募區ニ轉籍スルモ現役兵補缺ノ爲メニハ舊徵募區ノ召集ニ應セシム同上勅令ヲ以テ本條ヲ追加ス

(第八章 豫備徵員)自第五十六條(同上勅令ヲ以テ總)至第五十九條(テ本條ヲ削除ス)

第八章 雜則同上勅令ヲ以テ  
九章ヲ八章トス

第五十七條 徵兵令(第十條)ニ依リ現役ニ服センコトヲ志願スル者ハ其願書ニ戸主或ハ後見人連署シ身元證書ヲ添ヘ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ九月一日以前自己ノ服役セント欲スル軍隊又ハ鎮守府ニ願出テ許可ヲ受ク可シ但軍隊又ハ鎮守府遠隔ノ地ニ居住ノ者ハ徵兵検査ノ際大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署若クハ徵兵検査所ニ申立テ身體検査ヲ受ケ合格ノ者ハ合格證書ヲ添ヘ願出ルコトヲ得二十五年四月勅令第三十三號ヲ以テ本條ヲ改正シ二十八年六月勅令第五十七條トス

検査ノ爲メ往復ノ旅費及ヒ入營旅費ハ自辨トス

第五十八條 前條服役ノ許可ヲ得タル者ハ入營前本籍地ノ市町村長ニ届出可シ同上勅令ヲ以テ第六十一條

ナ第五十八條トス

第五十九條 徵兵令(第二十條)ニ當ル者ハ同徵募區内其ノ年ノ徵集ニ應ス可キ壯丁ノ戸主二名ノ保證書(第二十一條)第一項ニ當ル者ハ學校長ノ證明書同條第二項ニ當ル者ハ公使又ハ領事ノ證明書ヲ以テ三月一日迄ニ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ願出可シ「但徵兵令(第二十條)ニ當リ其事故」繼續シテ三箇年ヲ過クルモ尙ホ止マサル者ハ本條ノ保證書ヲ添ヘ届出可シ二十五年四月勅令第三十三號ヲ以テ但書ヲ追加シ二十七年十一月勅令第九十六號ヲ以テ(第二十二條)ニ(第二十一條)ヲ(第二十三條)ニ改メ元(第六十二條)ヲ(第五十九條)トス

其願書及届書ニハ市町村長ノ與書證印ヲ受ク可キモノトス二十五年四月勅令第三十三號ヲ以テ(其願書)ノ下(及届書)ノ三字ヲ加フ

第六十條 徵兵令第二十三條第一項ノ事故止ミタル者ノ届書及同條第二項ノ歸朝シタル者ノ届書ハ町村長ヨリ其ノ年ノ壯丁名簿進達前ニ在テハ其ノ名簿ト共ニ進達後ニ在テハ三日以内ニ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ差出ス可シ但市長ニ在テハ本文ノ届書ヲ大隊區徵兵署開設ノトキ同署ニ提出ス可シ二十八年三月勅令第三十三號ヲ以テ本條ヲ追加ス

第六十一條 他ノ徵募區ニ寄留シ其ノ地ニ於テ身體検査ヲ受ケンコトヲ冀望スル者ハ三月一日迄ニ島司又ハ郡市長ニ願出可シ同上勅令ヲ以テ本條ヲ追加ス

島司又ハ郡市長ニ差出ス願書ニハ本籍地町村長ノ與書證印ヲ受ク可キモノトス

島司郡市長其ノ願ヲ許可シタルトキハ之ヲ本人寄留地ノ島司郡市長ニ通知ス可シ

本條ノ願出已ムヲ得サル事故ノ爲メ三月一日ヲ過シルモノハ島司郡市長ヨリ本人寄留地ノ島司郡市長ニ協議シ徵募上故障ナキモノニ限り許可ス可シ

第六十二條 疾病傷痰或ハ犯罪等ニテ身體ノ検査ヲ受ケ難キ者及一年志願兵出願中ノ者ハ書面ヲ以テ検査當日迄ニ島司又ハ郡市長ニ届出可シ其ノ疾病傷痰ノ者ハ醫師ノ(診斷書)ヲ添フ可シ二十五年勅令第三十三號ヲ以テ(診斷書)ヲ(診斷證書)ニ改メニ  
十八年勅令第三十號ヲ以テ元(第六十四條)ヲ(第六十二條)トス

島司又ハ郡市長ニ差出ス届書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受ク可キモノトス

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

(元第六十三條 徵兵令第二十六條ニ依リ他ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應セント欲スル者ハ三

月一日迄ニ本籍地ノ島司又ハ郡市長ニ願出可シ(第二十八年勅令第三十號ヲ以テ本條ヲ削除ス但第二項第三項ハ第六十一條ト同文ニ付除ク)  
 第六十三條 疾病傷殘或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ書面ヲ以テ入營當日迄ニ監視區長ヲ經テ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ届出可シ其疾病傷殘ノ者ハ醫師ノ(診斷書)ヲ添フ可シ(廿五年四月勅令第三十三號ヲ以テ(警備隊)ノ下(區)ヲ加ヘ(診斷書)ヲ(診斷書)ニ其届書ニハ市町村長ノ奥書證印ヲ受ク可キモノトス)  
 本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十四條 徵兵署及徵兵検査所ノ諸費壯丁及抽籤總代人ノ旅費(新兵)入營ノ旅費(府縣郡市島嶼)徵兵參事員ノ手當金旅費、(地方徵兵參事員)ノ給料旅費ハ官給ス(二十五甲四月勅令第三十三號ヲ以テ(府縣郡市島嶼)ノ六字ヲ削リ(地方徵兵參事員)ヲ(徵兵參事員)ニ改メ二十八甲四月勅令第三十號ヲ以テ(新兵)ヲ(現役兵)ニ改メ元(第六十六條)ヲ(第六十四條)トス)  
 第六十五條 現役中疾病或ハ傷殘ニ依リ(永久服役)ニ堪ヘ難キ者ハ(近衛都督)師團長又ハ鎮守府司令長官ニ於テ兵役ヲ免ス其一時服役ニ堪ヘ難キ者ハ豫備役ニ編入シ現役年期ヲ通シテ陸軍ニ在テハ七箇年間服役セシム(二十五甲四月勅令第三十三號ヲ以テ本項ヲ追加ス)  
 其疾病傷殘ニ依リ常備後備ノ服役ニ堪ヘ難キ者ハ國民兵ニ編入ス(二十五年勅令第三十三號ヲ以テ本項ヲ追加ス)  
 陸軍現役兵ニシテ一時服役ニ堪ヘ難キ者軍隊第二期ノ教育ヲ卒テサル前ニ在テハ第一補充兵ニ編入シ現役年期ヲ通シテ七箇年間服役セシム(二十八甲勅令第三十號)  
 第六十六條 現役中徵兵令(第二十條)ニ當ル可キ事故ノ生スルトキハ其家族ノ願ニ由リ

(近衛都督)師團長又ハ鎮守府司令長官ニ於テ現役ヲ免シ豫備役ニ(編入ス但)現役年期ヲ通シテ陸軍ニ在テハ七箇年間服役セシム(但)陸軍現役兵ニシテ軍隊第二期ノ教育ヲ卒テサル前ニ在テハ第一補充兵ニ編入シ現役年期ヲ通シテ七箇年間服役セシム(二十五甲四月勅令第三十三號ヲ以テ(近衛都督)ノ四字ヲ削リ(陸軍)ノ下(陸軍)以下十九字及但書五十六字ヲ加ヘ(第六十六條)トス)  
 其願書ニハ同徵募區内現役兵ノ戶主二名ノ保證書ヲ添ヘ島司郡市長大隊區司令官又ハ警備隊區司令官及旅團長ヲ經テ師團長又ハ鎮守府司令長官ニ差出ス可シ但町村ニ在テハ町村長ノ奥書證印ヲ受ク可キモノトス(二十五年勅令第三十三號ヲ以テ本項ヲ改正ス)  
 島司郡市長ハ其事實ヲ査覈シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ送付ス可シ(同上勅令ヲ以テ追加ス)

第九章 附則(二十八甲三月勅令第三十號ヲ以テ十甲ヲ九章トス)  
 第六十七條 北海道廳管下(函館江差福山)其他島嶼ニ於テ本條例中ノ條規ヲ實施スルコト能ハサルトキハ師團長地方長官協議ノ上適宜ノ方法ヲ設クルコトヲ得(二十八甲三月勅令第三十號ヲ以テ(函館江差福山)ノ六字ヲ削リ元第六十九條ヲ(第六十七條)トス)  
 第六十八條 徵兵令ヲ施行セサル地ニ寄留ノ者ハ(同令第二十六條後段ノ例ニ準シ)寄留地最寄ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應スルコトヲ得(二十八甲三月勅令第三十號ヲ以テ(同令第二十六條後段ノ例)ニ改メ元(第七十條)ヲ(第六十八條)トス)  
 第六十九條 徵兵令ヲ施行セサル地ヨリ施行ノ地ニ轉籍シタル者ハ其年又ハ翌年ノ徵集ニ

應セシム但年齢二十六歳ヲ過クル者ハ此限ニ在ラス(第二十八年三月勅令第三十號ヲ以テ元(第七十一條)ヲ(第六十九條)トス)

第七十條 本條例中市長ノ職務ハ市制ヲ實施スル迄ハ區長ニ於テ町村長ノ職務ハ町村制ヲ實施スル迄ハ戸長ニ於テ行フ可シ(同上勅令ヲ以テ元(第七十條)トス)

第七十一條 第三條ノ徵募區ハ市制ヲ實施スル迄ハ區ノ境域ニ依ル(同上勅令ヲ以テ元(第七十條)トス)

第七十二條 明治二十二年ニ限り第二十三條ノ壯丁名簿差出期限及第六十二條ノ願出期限ハ四月十五日迄トシ第六十三條ノ願出期限ハ三月一日ヨリ同月十五日迄トス(同上勅令ヲ以テ元(第七十二條)トス)

第七十三條 第十條ノ旅管徵兵參事員ハ未タ府縣制ヲ施行セサル府縣ニ在テハ府縣會常置委員ニ於テ四名ヲ互選シ當選ノ者ヲ以テ之ニ充ツ(二十五年四月勅令第三十三號ヲ以テ本條ヲ追加シテ(第七十五條)トス)

大隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ未タ郡制ヲ施行セサル郡ニ在テハ其郡内ニ於テ四名ヲ選舉シ當選ノ者ヲ以テ之ニ充ツ其選舉人被選舉人資格選舉ノ方法及任期ハ總テ府縣會議員ノ例ニ依ル(附言) 二十八年勅令第三十號附則ヲ以テ現今ノ豫備徵員ハ從前ノ規程ニ依ルノ明文ヲ掲ク

○第二百八十二 徵兵事務條例施行細則(明治二十二年三月二十八日陸軍省令第一號)

徵兵事務條例施行細則左ノ通定ム

第一條 條例第二十三條ノ壯丁名簿ハ附錄第一様式ニ依リ之ヲ作り一市一町村ヲ一冊ト爲シ冊尾ニ其人員ノ總計ヲ記シ市町村長之ニ署名押印ス可シ

第二條 徵兵令(第七條)及第二十五條但書ニ當ル者ハ市町村長之ヲ調査シ人名簿(各事項ヲ作り壯丁名簿ニ添付ス可シ)加(二十七年十二月省令第二十四號ヲ以テ(八名書)ノ下劃符七字ヲ加ヘ二十八年四月省令第四號ヲ以テ(第七條)ヲ(第八條)ニ改ム

第三條 條例第二十五條ノ徵兵署及徵兵検査所巡回日割ヲ定ムル爲メ島司郡市長ハ壯丁名簿及前年假決ノ諸名簿ヲ調査シ其人員ヲ大隊區司令官又ハ(警備隊司令官)ニ報告ス可シ(二十五年四月省令第七號ヲ以テ(警備隊司令官)ニ改ム)

第四條 大隊區徵兵署警備隊區徵兵署及徵兵検査所ハ島司郡市長ニ於テ適當ノ家屋ヲ選定シ「要スレハ吏員ヲ派シ豫メ準備シ」大隊區司令官又ハ(警備隊司令官)到著ノ上之ヲ開設ス可シ(同上省令ヲ以テ(警備隊司令官)ヲ(警備隊區司令官)ニ改メ二十七年十二月省令第二十四號ヲ以テ(選定シ)ノ下(要スレハ)云々ノ十五字ヲ加フ)

徵兵検査所ハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官豫メ旅管徵兵官ヲ經テ師管徵兵官ノ認可ヲ受ケ一箇所概子壯丁百人以上一日間ニ往復ヲ爲シ得ル里程内ノ地ニ設ク可シ

第五條 大隊區徵兵署警備隊區徵兵署及徵兵検査所巡回日割既ニ定マルトキハ島司郡市長ハ其徵募區内ニ於テ毎日検査ヲ受ク可キ壯丁ノ順序ヲ定メ之ヲ壯丁ニ達シ當日ニ至レハ市町村吏員ヲシテ壯丁ヲ引纏メ徵兵署又ハ徵兵検査所ニ出頭セシム可シ

第六條 壯丁ノ身體検査ヲ行フトキハ(島廳附府縣屬)郡市書記ハ壯丁ヲ呼出シ軍醫ハ徵兵

検査規則ニ依リ身體ヲ検査シ體格ノ等位其他所要ノ件ヲ壯丁名簿及前年假決ノ諸名簿ニ記入シ大隊區司令官又ハ(警備隊司令官)ニ差出ス可シ(同上省令ヲ以テ(島嶼附屬島)ヲ(島嶼書記)ニ(警備隊司令官)ヲ(警備隊司令官)ニ改ム)  
(體格ノ等位ハ甲乙丙丁ノ四種ニ分チ其甲乙兩種ヲ合格トシ丙種ヲ徵集延期トシ丁種ヲ不合格トス(同上省令ヲ以テ本項ヲ削ル))

第七條 身體検査ヲ行フニ當リ壯丁ヲシテ裸體ナラシムルトキハ勉メテ別室若クハ隔障内ニ於テス可シ

第八條 身體検査ノ際現役ニ服センコトヲ志願スル者アルトキハ大隊區司令官ハ本人ノ身元ヲ調査シ其景況書ヲ添ヘ旅管徵兵官ニ具申ス可シ

其志願者ハ體格甲種ニシテ身元確實ト認ムル者ハ旅管徵兵官ニ於テ之ヲ許可スルコトヲ得

第九條 身體検査終ルノ後大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ(合格者)ヲシテ抽籤總代人ヲ選ハシメ其人ヲ旅管徵兵官ニ報告ス可シ(同上省令ヲ以テ(合格者)ヲ(籤丁)ニ改ム)

第十條 徵兵令第十八條第十九條及第二十條ニ依リ徵集延期ニ屬シ(第二十一條)ニ依リ徵集猶豫ニ屬スル者ハ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ附錄第二樣式ニ依リ徵集延期證書徵集猶豫證書ヲ作り市ハ市長ヨリ本人ニ附與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長ヲシテ本人ニ附與セシム可シ(二十八年四月省令第四號ヲ以テ(第十八條第十九條及第二十條)ヲ(第二十一條)ニ改ム(第二十二條)ヲ(第二十三條)ニ改ム(第二十三條)ヲ(第二十四條)ニ改ム)  
徵兵令(第二十條)(第二十一條)ノ願ヲ許可セサル者ニハ(願書ニ裁決ノ旨趣ヲ記載シ)前項

ノ例ニ依リ本人附獎ス可シ(二十五年四月省令第七號ヲ以テ(第二十一條)ノ五字ヲ削リ(願書ニ裁決ノ旨趣ヲ記載シ)ヲ(其裁決書)ニ改メ二十八年四月省令第四號ヲ以テ(第二十條)ヲ(第二十二條)ニ改ム)

第十一條 陸軍諸兵ニ編入ス可キ者ハ左ノ項目ニ依リ之ヲ選フ可シ

一 歩兵ハ身體強健ニシテ能ク勞力及遠足ニ堪ユル者

二 騎兵ハ成ル可ク馬匹ノ使用ニ慣レ體格ハ輕捷ニシテ筋肉肥滿ニ過キサル者

三 砲兵ハ體力强大ニシテ視力清明ナル者

四 工兵ハ(諸職工中殊ニ)工兵ノ作業ニ適當シ勞力アル者(二十五年四月省令第七號ヲ以テ(諸職工中殊ニ)ヲ(成ル可ク)ニ改ム)

五 輜重兵及輜重輸卒ハ成ル可ク馬匹ノ使用ニ慣レ且勞力アル者(職工中殊ニ)ヲ(成ル可ク)ニ改ム

六 職工ハ(現ニ其職ニ從事シ又ハ嘗テ)其職ニ從事セシ者(同上省令ヲ以テ(現ニ其職ニ從事)ヲ(成ル可ク)ニ改ム)

(近衛兵ハ甲種合格ニシテ品行方正ノ者ヲ選フ可シ(同上省令ヲ以テ))

第十二條 海軍兵ニ編入ス可キ者ハ左ノ項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ選フ可シ(同上省令ヲ以テ)

一 水兵ハ依ル可ク帆、錨、舵、棹等ノ使用ニ慣レタル者

二 火夫ハ成ル可ク汽機汽罐ノ取扱又ハ火焙ノ業ニ慣レタル者

三 職工及雜卒ハ成ル可ク各其職類似ノ業ニ慣レタル者

第十三條 條例第二十九條ノ徵兵検査名簿徵集延期名簿及徵集猶豫名簿ハ壯丁名簿及前年假決ノ諸名簿ヲ以テ編綴ス可シ但徵兵検査名簿ハ種類ヲ分チ之ヲ編綴シ冊尾ニ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官署名押印シ旅管徵兵官ニ差出ス可シ  
公權停止中若クハ逃亡失踪等ノ爲メ其年徵集スルコト能ハサル壯丁ハ徵集延期名簿ニ一年志願兵出願中及認可ヲ受ケタル者ハ六週間現役ニ服ス可キ者ハ徵集猶豫名簿ニ編入シ

各假決ノ區畫ニ其事由ヲ記スルモノトス(二十六年五月省令第七號ヲ以テタル者)ノ下(六週間現役ニ服ス可キ者)ノ下

第十四條 大隊區ニ於テ旅團歩兵聯隊ノ配賦人員ヲ充ヌコト能ハサルトキハ大隊區司令官ヨリ之ヲ旅團長ニ具狀シ旅團長ハ他ノ大隊區同兵種ノ人員ヲ調査シ殘餘アルトキハ先ツ之ヲ以テ其缺ヲ補ヒ仍ホ不足スルトキ他ノ最寄ニ箇ノ大隊區ニ配賦ス可シ其配賦ノ法ハ條例第二十二條ノ例ニ依ル

旅管內ニ於テ要員ヲ充タシ能ハサルトキハ旅團長ヨリ師團長ニ具狀シ師團長ハ他ノ旅管ヨリ其缺ヲ補ヒ仍ホ不足スルトキハ陸軍大臣ニ具狀ス可シ(二十八年四月省令第四號ヲ以テタル者)ノ下

第十五條 徵兵令(第二十條)ニ當リ其事故「繼續シテ」三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル旨届出ル者アルトキハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ大隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ニ審議セシメ其意見書ニ自己ノ意見ヲ附シ旅管徵兵官ニ差出ス可シ(二十五年四月省令第七號ヲ以テタル者)ノ下

第十六條 徵兵令(第二十一條)ニ當ル者ハ(徵集猶豫)ノ期限間(身體)ノ検査ヲ行ハス(二十五年四月省令第七號ヲ以テタル者)ノ下

第十七條 疾病傷疾又ハ犯罪等ヲ爲シ身體検査ニ出頭セサル者「及身體検査未済ノ徵募區ヨリ轉入ノ者」アルトキハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ其狀況ニ由リ他ノ徵募區ノ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署若クハ徵兵検査所(若クハ旅管徵兵署)ニ出頭セシメ若クハ翌年ノ検査ニ回ス可シ但疾病傷疾ノ者ハ時宜ニ由リ其家ニ就キ検査ス可シ(二十五年四月省令第七號ヲ以テタル者)ノ下

第十八條 旅管徵兵署ハ府縣書記官ニ於テ適當ノ家屋ヲ選定シ「要スレハ吏員ヲ派シテ豫メ準備シ旅團長到著ノ上之ヲ開設ス可シ(二十七年十二月省令第二十四號ヲ以テタル者)ノ下

第十九條 抽籤施行ニ先タチ旅管徵兵署ニ於テ合格者ノ人員ヲ調査シ徵募區毎ニ兵種及甲乙兩種ニ分チ籤札ヲ作ル可シ

籤ノ番號ハ「甲乙兩種各」合格者ノ數ニ應ジ第一號ヨリ起スチ例トス然レトモ抽籤ノ列ニ加ヘサル者アルトキハ現役ニ編入スルノ順序ヲ定ムル爲メ之ニ首位ノ番號ヲ附著シ其次番號ヨリ籤番號ヲ起ス可シ(二十五年四月省令第七號ヲ以テタル者)ノ下

第二十條 籤札ハ附録第三様式ニ依リ之ヲ作り籤和ニ納レ之ヲ封鎖シ(旅管徵兵委員)大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官例席ノ前ニ置キ其封ヲ披キ旅管徵兵署事務補助員「籤丁名簿」ノ順序ニ氏名ヲ呼ビ抽籤總代人ニ之ヲ抽カシム(二十五年四月省令第七號ヲ以テタル者)ノ下

第二十一條 條例第三十五條ノ抽籤名簿ハ附録第四様式ニ依リ之ヲ作り冊尾ニ旅管徵兵官署名押印ス可シ(二十五年四月省令第七號ヲ以テタル者)ノ下

第二十二條 抽籤總代人ハ抽ク所ノ番號ヲ高聲ニ呼ビ其籤札ヲ「旅管徵兵署事務補助員」ニ渡シ「旅管徵兵署事務補助員」ハ之ヲ籤丁名簿氏名ノ頭ニ貼付シ押印シ一人毎ニ之ヲ籤丁切リ總代人ニ交付ス(二十五年四月省令第七號ヲ以テタル者)ノ下

第二十三條 (検査)合格者ハ左ニ掲グル順序ニ從ヒ現役兵「及補充兵」ニ編入シ其要員ニ超



過スル者ハ豫備徵員ニ編入ス(二十五年四月省令第七號ヲ以テ(検査)ヲ(甲乙兩種)ニ改メ二十八年四月省令第四號ヲ以テ(現役兵)ノ下(及補充兵)ノ四字ヲ加ヘ(豫備徵員)ニ編入ス)ニ改メ但シ二十八年五月省令第七號ヲ以テ左ノ各項ヲ改正ス

- 一 甲種合格者ニシテ徵兵令第二十八條ニ當ル者(二人以上ナルトキハ年齢ノ順序同年齢ノ者ハ誕生月日ノ順序)ニ從フ第二項第三項第四項第六項第七項第八項亦同シ
- 二 甲種合格者ニシテ徵兵令(第十一條)第五及(第二十一條)ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラズシテ徵集スル者(二十八年四月省令第四號ヲ以テ(第十一條)ヲ(第十三條)ニ改メ(第十三條)ヲ(第二十一條)ニ改メ(第二十三條)ニ改メ)
- 三 甲種合格者ニシテ徵兵令第二十七條ニ當リ徵集スル者
- 四 甲種合格者ニシテ現役志願ノ者
- 五 甲種合格者ニシテ抽籤ノ者
- 六 乙種合格者ニシテ徵兵令第二十八條ニ當ル者
- 七 乙種合格者ニシテ徵兵令(第十一條)第五項及(第二十一條)ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラズシテ徵集スル者(同上省令ヲ以テ(第十一條)ヲ(第十三條)ニ改メ(第十三條)ヲ(第二十一條)ニ改メ(第二十三條)ニ改メ)
- 八 乙種合格者ニシテ徵兵令第二十七條ニ當リ徵集スル者
- 九 乙種合格者ニシテ抽籤ノ者

第二十四條 抽籤終ルトキハ旅管徵兵署ニ於テ附録(第四)第五第六(第七)様式ニ依リ(新兵)證書(豫備員)證書(國民兵證書)及(免役證書)ヲ作り市ハ市長ヨリ本人ニ附與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長ヲシテ本人ニ附與セシム可シ(二十五年四月省令第七號ヲ以テ(第四)第七(國民兵證書)ノ九字ヲ削リ(免役證書)ヲ(免役免除證書)ニ改メ二十八年四月省令第四號ヲ以テ(新兵)證書(豫備員)證書(國民兵證書)ニ改メ)

徵集免除ニ屬シ國民兵役ニ服スル者ハ別ニ證書ヲ附與セズ市町村長ヲシテ其由ヲ本人ニ達セシム可シ(同上省令ヲ以テ第二項ヲ本項及次項ノ如ク改ム)

本則第十五條ニ當ル者ノ中徵集免除ニ屬セサル者アルトキハ其裁決書ヲ第一項ノ例ニ依リ本人ニ附與ス可シ

第二十五條 條例第三十六條ノ(新兵)名簿(豫備徵員)名簿(免役名簿及國民兵編入)名簿ハ徵兵検査名簿ヲ以テ繼續シ種類ヲ分テ冊尾ニ旅管徵兵官署押印ス可シ(二十五年四月省令第七號ヲ以テ(免役名簿及國民兵編入)ヲ(徵集免除名簿及兵役免除)ニ改メ二十八年四月省令第四號ヲ以テ(新兵)ヲ(現役兵)ニ改メ(豫備徵員)ヲ(補充兵)ニ改ム)

(第二十六條) 旅管徵兵署ニ於テ抽籤名簿ニ基キ新兵監視名簿及豫備徵員監視名簿ヲ作り各監視區長ニ交付ス可シ(二十五年四月省令第七號ヲ以テ本條ヲ削除ス)

第二十六條 條例第三十八條ノ徵兵表ハ附録(第八)様式ニ依リ之ヲ作ル可シ(同上省令ヲ以テ(第二十七條)ヲ(第二十六條)トシ(第八)ヲ(第七)ニ改ム)

第二十七條 壯丁名簿進達前市ニ在テ他ノ市町村ニ轉籍スル者アルトキハ市町村長ヨリ本人徵兵適齡屆書ヲ添ヘ轉籍地ノ市町村長ニ通知ス可シ(同上省令ヲ以テ本條ヲ追加ス)

第二十八條 壯丁名簿進達後検査前名簿ニ關スル異動ヲ生シタル者若クハ他ノ(徵募區)ヨリ入籍シタル者アルトキハ町村長之ヲ島司又ハ郡長ニ報告ス可シ但検査後抽籤前ニ係ルモノハ島司又ハ郡長ヲ經テ旅管徵兵官ニ報告ス可シ(同上省令ヲ以テ(徵募區)市ニ在テ検査名簿進達後抽籤前項ニ當ル者ハ市長之ヲ旅管徵兵官ニ報告ス可シ(市町村)ニ改ム)

新兵入營前及豫備徵員ノ名簿ニ關スル異動(轉入籍ヲ除ク)ハ市町村長ヨリ監視區長ニ通知ス可シ

但寄留地ニ於テ徵集ニ應ス可キ者ノ異動ハ本籍ノ市町村長ヨリ寄留地ノ市町村長ニ通知シ寄留地市町村長本項ノ通知ヲ爲スモノトス二十六年五月省令第七號ヲ以テ但舊五十九字ヲ加ヘ二十八年四月省令第四號ヲ以テ(新兵)ヲ(現役兵)ニ(現備徵兵)ニ改ム

第二十九條 「壯丁名簿受領後市ニ在テ抽籤前徵募區外ニ轉籍スル者アルトキハ島司郡市長ヨリ壯丁名簿若クハ「検査名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司又ハ郡市長ニ通知ス可シ二十五年四月省令(検査後)トアルヲ(壯丁名簿受領後)以下別注ニ改メ(ヨリ)ノ下ニ(壯丁名簿若クハ)ノ七字ヲ加フ」

第三十條 徵兵令第十八條第十九條第二十條第二十一條及第二十七條ニ當リ徵集延期徵集猶豫若クハ入營延期翌年回」中名簿ニ關スル異動ヲ生スル者アルトキハ島司郡市長ニ於テ其名簿ニ訂正ヲ加フ可シ但郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長其異動ヲ島司又ハ郡市長ニ報告ス可シ(第二十一條)以下三十二字ニ改メ二十八省令第四號ヲ以テ(第十八條)第十九條第二十條第二十一條)ヲ(第二十一條)以下三十二字ニ改メ二十八省令第四號ヲ以テ(第十八條)第十九條第二十條第二十一條)ヲ改ム

第三十一條 徵兵令第二十六條ニ依リ他ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應ス可キ者ニシテ徵集延期若クハ徵集猶豫ト爲リタル者ハ島司郡市長ヨリ其名簿ヲ添ヘ本籍ノ島司郡市長ニ通知ス可シ其他事故ニ依リ徵集ニ應セサル者亦同シ二十五年省令第七號ヲ以テ本條ヲ改正ス其徵集免除又ハ兵役免除ト爲リタル者ハ府縣廳ヨリ其名簿ヲ添ヘ本籍ノ府縣廳ニ通知ス可シ(第二十八年四月省令第四號)ヲ以テ本條ヲ改メ

第三十二條 徵兵令(第十一條)第五項及(條例)第七十一條)ニ當ル者アルトキハ町村長ハ戶籍ニ基キ壯丁名簿ヲ作り島司又ハ郡市長ニ差出ス可シ二十六年五月省令第七號ヲ以テ(徵兵令)ノ十一條第五項及(第二十八年四月省令第四號)ヲ以テ(第十一條)ヲ(第十三條)ニ改メ(第二十九條)ニ改ム市ニ在テハ市長壯丁名簿ヲ作り大隊區徵兵署(又ハ旅管徵兵署)ニ提出ス可シ二十五年四月省令第七號ヲ以テ(又ハ旅管徵兵署)ノ七字ヲ削ル

第三十三條 (新兵入營)ノ期ニ先タチ大隊區司令官ニ於テ入營地若クハ近衛海軍(新兵集合地)ニ到ル日數ヲ量リ召集ノ場所及日時ヲ定メ島司又ハ郡市長及町村長ヲ經テ之ヲ各自ニ達ス可シ二十八年四月省令第四號ヲ以テ(新兵入營)ヲ(現役)兵入營)ニ改メ(新兵集合地)ヲ(入營兵集合地)ニ改ム大隊區外ニ轉籍シタル者ニ在テ舊住地大隊區司令官ヨリ其召集ノ場所及日時ヲ新住地大隊區司令官ニ通報シ新住地大隊區司令官ハ前項ノ手續ニ依リ之ヲ各自ニ達ス可シ(寄留地)ニ於テ徵集ニ應ス可キ者ニシテ本籍ニ復歸シタル者亦同シ)二十七年十二月省令第二十四號ヲ以テ本項ヲ追加シ二十八四月省令第四號ヲ以テ(寄留地)以下二十九字ヲ削ル

第三十四條 條例第四十八條ノ(新兵)引率員及近衛海軍(新兵)受領員ハ左ノ如シ二十五年四月省令第七號ヲ以テ本條ヲ改正シ二十八四月省令第四號ヲ以テ(新兵)ヲ(入營兵)ニ改ム  
新兵引率員  
新兵五人以上三十人迄 大隊區書記一名  
新兵三十一人以上百人迄 大隊區書記一名若クハ二名  
新兵百一人以上三百人迄 大隊區副官一名下士一名上等兵一名乃至三名  
但二百一人以上三百人迄ハ下士二名上等兵二名乃至四名三百一人以上八百人迄ハ下士三名上等兵三名

等兵三名乃至五名トス

近衛海軍新兵受領員

新兵(五人以上)三十人迄

下士一名(二十六年五月省令第七號ヲ以テ(五人以上)ノ四字ヲ削ル)

新兵三十一人以上百人迄

下士一名上等兵(海軍ハ一等卒一名若クハ二名以下之ニ倣フ)

新兵百一人以上二百人迄

尉官一名下士一名上等兵一名乃至三名

但二百一人以上三百人迄ハ下士二名上等兵二名乃至四名三百一人以上ハ下士三名上等兵三名乃至五名トス

近衛海軍新兵引率員ハ新兵人員ノ多少ニ拘ハラズ大隊區書記一名トス

第二十五條 條例第四十八條第二項ノ近衛海軍(新兵)集合地ハ左ノ如シ(二十八年四月省令第四號ヲ以テ(新兵)ヲ(入營)ニ改ム)

第一師管ハ東京、横須賀

第二師管ハ仙臺、白河、直江津(二十五年四月省令第七號ヲ以テ(高田)ヲ加ヘ(二十七年十二月省令第二十四號ヲ以テ(高田)ヲ(直江津)ニ改ム)

第三師管ハ四日市、沼津、名古屋(二十五年四月省令第七號ヲ以テ(名古屋)ノ三字ヲ加フ)

第四師管ハ京都、神戸(二十七年十二月省令第二十四號ヲ以テ(神戸)ヲ(京都、神戸)ニ改ム)

第五師管ハ廣島、吳、丸龜

第六師管ハ(長崎)、佐世保、(大分)(二十五年四月省令第七號ヲ以テ(長崎)ノ二字ヲ削ル)

第二十六條 近衛海軍(新兵入營)ノ期ニ先チテ近衛師團司令部及鎮守府ニ於テ(新兵)ノ集合地ヨリ入營地ニ到ル日數ヲ量リ集合地到着ノ日數ヲ定メ豫メ之ヲ各師團司令部ニ通牒ス可シ(同上省令ヲ以テ(近衛)ノ下ニ(師團司令部)ノ六字ヲ加ヘ(二十八年四月省令第三十號ヲ以テ(新兵入營)ヲ(現役兵入營)ニ改ム)

第二十七條 條例第四十九條ノ入營延期願濟ノ者其他事故不參ノ者アルトキハ(新兵)引率員(大隊區司令部所在ノ入營地ニ在テハ大隊區司令部ヨリ各隊長又ハ近衛海軍(新兵)(受領委員)ニ其由チ通知ス可シ(二十五年四月省令第七號ヲ以テ(新兵引率)ノ下ノ大隊區司令部若クハ(海軍)トアルヲ(員)ニ改ム)

第二十八條 條例第五十一條ニ依リ(豫備徵員)ヲ以テ(新兵)ノ缺員ヲ補フニハ大隊區司令部ニ於テ其取扱ヲ爲ス可シ(但他ノ大隊區又ハ警備隊區ニ轉籍シタル者ニシテ入營セサル者ノ補缺ト轉籍地大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ノ通知ヲ得テ其取扱ヲ爲ス可シ)

(新兵)入營後(十二月)三十一日迄ノ補缺ハ師團司令部及鎮守府ヨリ當該大隊區司令部ニ通報スルモノトス(二十七年十二月省令第二十四號ヲ以テ本項ヲ追加シ(二十八年四月省令第四號ヲ以テ(新兵)ヲ(入營兵)ニ改ム)

第二十九條 徵兵令第二十七條ニ依リ翌年回ト爲リタルモノハ其年ノ新兵同時ニ入營セシム可シ但本條ノ人員ハ其年ノ新兵所要人員ニ加ヘサルモノトス(二十五年四月省令第七號ヲ以テ本條ヲ削除ス)

第三十條 (新兵入營)前癡疾又ハ不具ト爲リ永久兵役ニ堪ヘ難キ者ト認メタル者アルトキハ其(診斷書)ヲ添ヘ大隊區司令部又ハ(警備隊司令部)ヨリ旅團長ニ具申ス可シ(但(新兵)召集地若クハ(新兵)交付ノ際ニ於テ若シ永久兵役ニ堪ヘ難キ者ト認メタル者アルトキハ一時其入營ヲ差止メ置キ本條ノ手續ヲ爲ス可シ)

(警備隊區司令部)ニ改メ(但舊)ヲ追加ス(二十八年四月省令第四號ヲ以テ(新兵入營)ヲ(現役兵入營)ニ改メ(診斷書)ヲ(診斷證書)ニ改メ(警備隊司令部)ニ改ム)

(新兵)引率員新兵召集地若クハ(新兵)交付ノ際ニ於テ永久兵役ニ堪ヘ難キ者ト認メタル者アルトキハ其診斷書ヲ添ヘ大隊區司令部ニ具申ス可シ(二十五年四月省令第七號ヲ以テ本項ヲ追加シ(二十八年四月省令第四號ヲ以テ(新兵引率員)ニ改ム)

以下十五字ヲ(入營兵引率  
員召集地若クハ)ニ改ム

(新兵)入營ノ期ニ迫リ條例第五十三條ニ依リ徵集延期ヲ願出ル者アルトキハ大隊區司令  
官又ハ警備隊區司令官一時其入營ヲ差止メ置キ旅團長ニ具申ス可シ 二十七年十二月省令第二十  
八年四月省令第四號ヲ以テ

(新兵)ヲ(現役兵)ニ改ム

第四十條 條例第五十四條及本則第二十八條第三項ニ當ル(新兵)ノ異動ハ大隊區司令官  
一又ハ警備隊區司令官 條例第五十四條ノ異動ハ轉籍地又ハ本籍ヨリ各隊長又ハ(近衛都督若クハ鎮  
守府司令官)ニ通牒ス可シ 二十五年四月省令第七號ヲ以テ(第四十一條)トシ(大隊區司令官)ノ  
備隊區司令官)以下制書トモ四十四字ニ改メ(近衛都督若クハ近衛師團  
長)ニ改ム 二十八年四月省令第四號ヲ以テ(新兵)ヲ(現役兵)ニ改ム

第四十一條 (新兵)ニシテ徵集延期若クハ入營延期翌年回ト爲リタル者ノ名簿ハ大隊區  
司令官又ハ警備隊區司令官ヨリ島司郡市長ニ送付ス可シ 其徵集免除又ハ兵役免除ト爲リ  
タル者ノ名簿ハ府縣廳ニ送付ス可シ 二十五年四月省令第七號ヲ以テ本條ヲ追加シ(第二十六年五月省令第七  
號)ニ改ム 二十六年五月省令第七號  
第四十二條ヲ以テ(新兵)ニシテ

第四十二條 條例第五十八條ニ當ル豫備徵員ノ異動中其大隊區外又ハ警備隊區外ニ係ル  
モノハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ヨリ其名簿ヲ轉籍地(又ハ本籍地)ノ大隊區司令  
官又ハ警備隊區司令官ニ送付ス可シ 號ヲ以テ(第五十八條)ニ當ル豫備徵員)ヲ(第五十四條)ニ當ル補充兵  
地)ノ五字ヲ削ル

第四十三條 (新兵豫備徵員)ニシテ轉籍シタル者ノ(新兵證書豫備徵員)證書ハ總テ轉籍地  
前項ノ名簿中入營延期翌年回ト爲リタル者ノ名簿ハ島司郡市長之ヲ徵集延期名簿ニ編入  
ス可シ 二十六年五月省令第七號  
號ヲ以テ本項ヲ追加ス

第四十二條 條例第五十八條ニ當ル豫備徵員ノ異動中其大隊區外又ハ警備隊區外ニ係ル  
モノハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ヨリ其名簿ヲ轉籍地(又ハ本籍地)ノ大隊區司令  
官又ハ警備隊區司令官ニ送付ス可シ 號ヲ以テ(第五十八條)ニ當ル豫備徵員)ヲ(第五十四條)ニ當ル補充兵  
地)ノ五字ヲ削ル

ノ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ於テ訂正ス可シ 二十五年四月省令第七號ヲ以テ(大隊區司  
ヲ加(二十八年四月省令第四號)ヲ以テ(新兵豫備徵員)ヲ(現役兵)ニ改ム  
前及補充兵)ニ改ム(新兵證書豫備徵員)ヲ(現役兵)ニ改ム  
(寄留地)ニ於テ徵集ニ應ス可キ者ニシテ本籍ニ復歸シタル者ノ證書ハ本籍地ノ大隊區司  
令官ニ於テ訂正ス可シ 二十五年四月省令第七號ヲ以テ本項ヲ加ヘ  
二十八年四月省令第四號ヲ以テ之ヲ削除ス

第四十四條 (新兵)證書(豫備徵員)證書(國民兵證書)及(免役證書)ヲ失ヒ又ハ損傷シタル  
者ハ新ニ渡方ヲ島司郡市長ニ請求ス可シ 二十五年四月省令第七號ヲ以テ(國民兵證書)ノ五字ヲ削リ(免  
役證書)ヲ(免役免除證書)ニ改ム 二十八年四月省令第四號ヲ以  
テ(新兵)ヲ(現役兵)ニ改ム  
備徵員)ヲ(補充兵)ニ改ム

第四十五條 條例第六十一條ニ依リ寄留地徵募區ニ於テ身體檢查ヲ受クルコトヲ許可シタ  
ル旨島司郡市長ヨリ寄留地ノ島司郡市長ニ通知スルニハ之ニ壯丁名簿ヲ添フ可シ

寄留地ニ於テ身體檢查終ルトキハ直ニ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ヨリ檢査名簿ヲ  
添ヘ其旨ヲ本籍地ノ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ通知ス可シ 二十八年四月省令第四  
第四十六條 條例第六十條ノ願書ハ附録第八樣式ニ依リ身元證書ハ附録第九樣式ニ依リ合  
格證書ハ附録第十樣式ニ依リ之ヲ作ル可シ 二十五年四月省令第七號ヲ以テ本條ヲ改正シ(第二十八年四  
月省令第四號)ヲ以テ(第六十條)ヲ(第五十七條)ニ改ム

第四十七條 壯丁名簿及假決名簿中一年志願兵又ハ六週間現役兵ト爲リテ入營シタル者ノ  
名簿ハ大隊區徵兵官ヨリ旅管徵兵官ニ差出ス可シ 二十六年五月省令第七  
號ヲ以テ本條ヲ追加ス  
(用紙ハ美濃紙半葉)

第一樣式 (壯丁名簿)

住	所府(縣)國郡(市)町(村)大字
明番	兵種(甲)(乙)稱何兵第何番
職	分(士)族(平民)何職(無職業)

治 何 年 壯 丁 名 簿		假 決		終 決		體 格	
明治何年令(第二十條)ニ當リ徵集延期○	氏 名	現役兵(第一補充兵)(補充兵)	備 考	身 長	視 力	胸 造	胸 造
其長(次)男(弟) 本人戸主ナレハ 戸主ト記スヘシ	年 月 日	戸主(家族)直接國稅何圓ヲ納ム	戸主(家族)家屋ヲ有ス	辨 色	視 力	胸 造	胸 造
何 某		年月日何日ニ依リ罰金ニ處セラレタル	年月日何日ニ依リ罰金ニ處セラレタル	辨 色	視 力	胸 造	胸 造

一 職業ハ現ニ從事スル所ノ職業ヲ記シ兼業ノ者ハ之ヲ併記ス假令ハ「農兼木工」「商兼鍛工」等ノ如ク但シ官吏教員醫師僧侶ノ類ハ總テ其名稱ヲ身分職業ノ區畫ニ記スヘシ

二 兵種番號、假決、終決、體格ノ區畫ニハ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署又ハ旅管徵兵署ニ於テ其事項ヲ記入スルモノトス(元三)

三 諸學生ハ其種類ニ依リ備考區畫中ニ醫學生、獸醫學生、電信技術生、漢學生、何學校修業或ハ卒業等ヲ併記スヘシ(元四)

(附言) 二十六年省令第七號ヲ以テ本表中住所ノ區畫中(町村)ノ下(大字)ノ二字ヲ加ヘ二十七年省令第二十四號ヲ以テ欄外(元四)ヲ加ヘ二十八年省令第四號ヲ以テ本表中假決ノ區畫中(第十八條)トアリシヲ(第二十條)ニ終結ノ區畫中(備考徵兵)トアリシヲ(第一、第二、補充兵)(補充兵)ニ改メ欄外二項ヲ削リ以下番號ヲ繰上ケ

第二様式 徵集延期猶豫證書 用紙ハ厚紙

曲尺七寸

表 徴集延期

右徵集ヲ延期(猶豫)ス

年 月 日

凡曲尺五寸

何大隊區徵兵署 印

府(縣)郡(市)町(村)  
其長(次)男(兄)弟(弟) 本人戸主ナレハ 戸主ト記スヘシ

氏 名

本證書ハ翌年徵兵假決ノ前日迄其効ヲ有スルモノトス但翌年終決ノ處分ヲ受クヘキモノハ其前日迄トス

- 一 本證書ハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ於テ假決ノ處分ヲ爲シタル者ニ限り附與スルモノトス
- 二 本證書ハ島縣郡市役所ニ於テ調製スヘシ

第三様式 (籤札)

用紙ハ厚紙

甲(乙)種何兵第何番

籤札用紙ハ府縣廳ニ於テ調製スヘシ

第四様式 (抽籤名簿)

用紙ハ府縣廳名ノ美濃野紙

第一番	何町	何	某
<small>令第二十八條ニ當ル者(令第十三條第五項ニ當ル者)(令第二十三條ニ當ル者)(令第二十七條ニ當ル者)(志願兵)</small>			

(附言) 二十六年五月省令第七號ヲ以テ本表中(令第二十八條ニ當ル者)ノ下(第二十一條ニ當ル者)トアリシヲ令第十一條第五項ニ當ル者(令第二十一條ニ當ル者)(令第二十七條ニ當ル者)ト改メ二十八年省令第四號ヲ以テ(第十一條)ヲ(第十三條)ニ(第二十一條)ヲ(第二十三條)ニ改ム

第五様式 (新兵)「豫備徵員」證書

(用紙ハ厚紙)

第二番	何村	何	某
-----	----	---	---

表

第何旅管何大隊區  
府(縣)郡(市)町(村)  
某(長)次(男)兄(弟)本人戸主ナレハ  
戸主ト記スヘシ

甲(乙)種何兵第何番 氏 名

右現役ニ徵集シ何兵第何聯(大)隊ニ編入ス(右豫備徵員ニ編入ス)

年月日 第何旅管徵兵署 印

凡由尺六寸

心得

- 一新兵ノ入營期日ハ十二月一日トス
- 一警備隊諸兵ノ入營期日ハ第一期ハ十二月一日第二期ハ六月一日トス
- 一輜重輸卒ノ入營期日ハ第一期ハ十二月一日第二期ハ四月一日第三期ハ八月一日トス
- 一豫備徵員ハ戰時若クハ事變ノトキ徵集セラレ又其年ノ新兵映クルトキハ其補缺トシテ徵集セラレトモトス

表

一疾病傷疾或ハ犯罪等ニテ入營シ難キ者ハ市町村長ノ與書印ヲ受ケタル書面(疾病傷疾ノ者ハナシ)ヲ以テ入營當日迄ニ監視區長ヲ經テ大隊區司令官(警備隊區司令官)ニ届出ヘシ其届出ヲ爲サ、ルトキハ科料ニ處セラレ、モノトス

一入營ニ際シ父母ノ疾病傷疾或ハ死亡ノ爲メ入營延期ヲ願ハントスルモノハ市町村長ノ與書印ヲ受ケタル書面(疾病傷疾ノ者ハナシ)ヲ以テ大隊區司令官(警備隊區司令官)ニ届出ヘシ

一故ナク入營ノ期ニ後レ十日戰時ハ、ヲ過クルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラレ、モノトス

一轉籍シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出其監視區外ニ係ルトキハ新舊住地ノ監視區長ニ届出ヘシ寄留地ニ於テ徵集ニ應スヘキ者本籍ニ復歸シタルトキ亦同シ其届出ヲ爲サ、ルトキハ科料ニ處セラレ、モノトス

一寄留若クハ十四日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキ徵集ノ命ヲ通報スヘキ者ヲ定メ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出ヘシ復歸シタルトキ亦其由ヲ届出ツヘキモノトス

一此届出ヲ爲サ、ルトキハ科料ニ處セラレ又通報人正當ノ事由ナクシテ徵集ノ命ヲ通報セス若クハ遅緩シタルトキハ科料又ハ拘留ニ處セラレ、モノトス

一此證書ハ新兵ハ入營迄豫備徵員ハ翌年十一月三十日迄其效ヲ有スルモノトス

一此證書ヲ失ヒ若クハ損傷シタルトキハ更ニ下渡ヲ島司郡市長ニ請求スヘシ

- 一 表面「右現役兵ニ徵募シ」ノ下近衛又ハ海軍兵ニ在テハ「近衛歩(騎)(砲)(工)(輜重)兵隊ニ編入ス」又ハ「横須賀(吳)佐世保(鎮守府海兵團)ニ編入ス」ト記スヘシ
  - 二 本證書用紙ハ府縣廳ニ於テ調製スヘシ
- (附言) 裏面表中九項前後三行トモ二十七年十二月省令第二十四號ニ依リ改正ス
- 第六様式 (兵役免除證書) (用紙ハ厚紙)

表

凡曲尺六寸

第何旅管大隊區  
府(縣)郡(市)町(村)  
某(長)次(男)兒(弟)本人戸主ナレハ  
戸主ト記スヘシ

氏 名

右兵役ヲ免ス

年月日

第何旅管徵兵署

印

裏

此證書ヲ失ヒ若クハ損傷シタルトキハ更ニ下渡ヲ島司又ハ郡市長ニ請求スヘシ

本證書用紙ハ府縣廳ニ於テ調製スヘシ

第八様式 (現役志願書)

二十八年省令第四號ヲ以テ本表中(徵兵令)ノ下(第十條)トアリシヲ(第十二條)ニ改ム

現役志願書

私儀徵兵令第十二條ニ依リ現役ニ服シ度候間服役ノ義御許可相成度別紙身元證書ノ下ニ及検査合格證書ト添ハシ身元證書ヲ以テ此段奉願候也

年月日

府(縣)郡(市)町(村)番地(寄留ノ者ハ寄留地ヲ併記スヘシ)

本人

氏

名

同

戸主(後見人) 氏

名

參(陸)野戰砲(要塞砲)工(輜重)兵何聯隊(大)隊(何鎮守府)近衛隊ニ出願スル者ハ兵種ノ上ニ近衛ノ二字ヲ加フヘシ

御 中

第九様式 (身元證書)

身元證書



府(縣)郡(市)町(村)番地(華)士(族)平民  
 某(長)次(男)克(弟) 本人(主)ナレハ  
 氏 年月日生 名

一戸籍内ノ者

- 一妻 某 何某長(次)女 年月日婚細
- 一父 某
- 一祖父 某
- 一兄 某
- 一何々
- 一長(次)男某 年月日生
- 一母 某
- 一祖母 某
- 一妹 某 年月日生

一戸主(家族)直接國稅何圓何錢ヲ納ム  
 一戸主(家族)家屋ヲ有ス(家屋ヲ有セス)  
 一尋常(高等)小學校卒業(何年級迄修業)  
 一何學校(塾)ニ於テ何學卒業(何學修業)  
 一現今何ノ職業ニ従事ス  
 一年月日何ノ賞トシテ何々ヲ受ク  
 一刑罰ヲ受ケタルコトナシ(年月何々ノ科ニ依リ何罰ニ處セラル)  
 一種痘何回(天然痘)

右ノ通相違無之候也

年月日 本人 氏 名 ㊦

戸主(後見人) 氏 名 ㊦

前書ノ通相違無之候也 年月日 何市(區)(町)(村)長 氏 名 ㊦

(第七様式) 第二様式

○第二百八十三 事務條例中徵募區市長市書記市徵兵參事員壯丁名簿徵兵署抽籤總  
 代 人 等 ノ 件 勅令第六十三號 治二十六年七月五日(七月六日公布)  
 朕徵兵事務例中徵募區及市長市書記徵兵參事員ニ關スル明治二十二年勅令第六十四號改正  
 ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 徵兵事務條例第三條ノ徵募區ハ東京市京都市大阪市ニ於テハ更ニ之ヲ検査區ニ分  
 テ區ヲ以テ検査區ト爲ス

第二條 徵兵事務條例中大隊區徵兵官ハ東京市京都市大阪市ニ於テハ検査區毎ニ大隊區司  
 令官及區長ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 徵兵事務條例中市長及市書記ノ職務ハ東京市京都市大阪市ニ於テハ區長若クハ區書記ニ於テ之ヲ行フ

第四條 徵兵事務條例第二十三條ノ壯丁名簿ハ東京市京都市大阪市ニ於テハ區長之ヲ作リ一検査區ニ取纏メ大隊區徵兵署ニ提出スヘシ

第五條 東京市京都市大阪市ニ於テハ大隊區徵兵署ハ之ヲ検査區ニ設ケ又抽籤總代人ハ検査區毎ニ一名ヲ出スモノトス

第六條 東京市京都市大阪市ニ於テハ市ニ大隊區徵兵參事員ヲ置カス區ニ大隊區徵兵參事員四名ヲ置キ市ノ大隊區徵兵參事員ノ職務ヲ掌ラシム

第七條 區ノ大隊區徵兵參事員ハ市會ニ於テ其區内ニ住スル市公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ選舉ス但其任期ハ市會議員ノ任期ニ同シ

○第二百八十四 六週間陸軍現役ニ服スヘキ者兵籍編入身體検査及入營期日入營旅隊徵兵令第十一條第三項ニ依リ陸軍現役ニ服スヘキ者ノ徵集及服役ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

費ノ件明治二十三年三月七日(三月八日公布) 陸軍省勅令第二十二號

徵兵令第十一條第三項ニ依リ六週間陸軍現役兵ニ服スヘキ者ハ其教職ニ在ル地ヲ包括スル師管ノ步兵隊ニ編入ス其身體検査ハ入營ノ際步兵聯隊ニ於テ之ヲ行ヒ検査ニ合格セサル者ハ國民兵役ニ編入ス

入營期日ハ毎年六月一日トシ其入營旅費ハ官給ス

○第二百八十五 六週間陸軍現役ニ服スル者取扱ノ件明治二十三年三月十日(内務大臣連署) 陸軍省勅令第二十二號 師團司令部第二號 師團司令部第二號 師團司令部第二號

第一項 官立府縣立師範學校ヲ卒業シ官立公立小學校ノ教職ニ在ル者ノ身幹尺度ヲ遺囑府縣ニ於テ調査シ毎年五月一日迄ニ其族籍氏名ト共ニ師團司令部ニ通知シ同日以後ニ係ル者モノハ其時々通知ス可シ但官立小學校ノ教職ニ在ルモノハ其所屬長ヨリ四月二十日迄ニ

第二項 師團司令部ニ於テハ入營ス可キ人員ヲ步兵聯隊ニ配當シ入營前日迄ニ其聯隊所在地ニ召集シ身體検査ヲ行ハシム可シ但身幹定尺ニ滿タサル者ハ召集スルヲ要セス

第三項 身體検査ノ格例ハ一般徵兵ノ例ニ依ル

第四項 身體検査ニ合格シタル者ト合格セサル者ト身幹定尺ニ滿ラサル者ト區別シ師團長ヨリ本籍ノ旅管徵兵官ニ通知ス可シ

第五項 旅管徵兵官前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其合格セサル者ニハ國民兵役證書ヲ附與ス可シ

○第二百八十六 試補及判任官見習非職休職ノ官吏ニシテ一年志願兵トナル者服役ノ件明治二十三年三月二十七日(三月二十八日公布) 勅令第六十二號

候試補及判任官見習並非職休職ノ官吏ニシテ一年志願兵トナル者服役ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
試補及判任官見習並非職休職ノ官吏ニシテ一年志願兵トナル者ハ其儘服役スルコトヲ得  
但有給者ニハ俸給ヲ給セス試補及判任官見習ニ在テハ服役時日ヲ實務練習ノ期限ニ算入セス

○第三百八十七 陸軍輜重輸卒現役期限及入營期限ノ件 明治二十二年三月十九日(三月二十一日公布)  
勅令第三十七號

朕陸軍輜重輸卒現役期限ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍輜重輸卒ノ現役期限ハ一箇年トシ三期ニ分チ入營セシム第一期ハ十二月一日第二期ハ四月一日第三期ハ八月一日トス

疾病犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ次期ニ於テ入營セシム其補缺員ハ次期入營ス可キ者ヲ繰上ケ其月ノ十日迄ニ入營セシム但第三期ニ在テハ豫備徵員ヲ以テ補缺ス

○第三百八十八 陸軍輜重輸卒特別取扱ノ件 明治二十六年十月二十四日 陸軍省訓令第六號 師團司令官(近衛師團司令官ヲ除ク) 道廳長(神戶縣ヲ除ク)

徵兵令第二十七條ニ當ル者ハ翌年身體検査ヲ行ヒ一般徵兵同様取扱フヘキノ處輜重輸卒ニ限リ左ノ通取扱フヘシ

一 疾病犯罪等ノ爲メ第三期ニ入營シ難キ者ハ身體検査ヲ行ハス直ニ所要人員ニ加ヘ其年

新兵同時ニ入營セシムヘシ

其事故繼續シ若クハ再發シテ仍ホ次年第二期ニ至ルモ入營シ難キ者アルトキハ徵兵検査ノ際身體検査ヲ行ヒ其徵否ヲ判定スヘシ

二 毎年徵募事務終了後ニ在テ前項ニ當ル者アルカ爲メ其年所要人員超過スルトキハ第二期入營ノ時未番號者ヨリ豫備徵員ニ繰下クヘシ

○第三百八十九 事務條例第四條ニ依リ步兵聯隊ノ兵員ヲ徵集ス可キ聯合大隊區ノ

明治二十二年五月十一日 陸軍省令第十一號

徵兵事務條例第四條ニ依リ步兵聯隊ノ兵員ヲ徵集ス可キ聯合大隊區左ノ通定ム

- 步兵第一聯隊 麻布大隊區 横濱大隊區
- 步兵第十五聯隊 高崎大隊區 長野大隊區
- 步兵第二聯隊 佐倉大隊區 水戸大隊區
- 步兵第三聯隊 本郷大隊區 宇都宮大隊區
- 步兵第四聯隊 仙臺大隊區 福島大隊區
- 步兵第十六聯隊 新發田大隊區 柏崎大隊區
- 步兵第五聯隊 青森大隊區 (盛岡)大隊區 二十二年九月省令第十二號ヲ以テ(盛岡)大隊區ヲ(秋田)大隊區ニ改ム
- 步兵第十七聯隊 (秋田)大隊區 山形大隊區 同上省令ヲ以テ(秋田)大隊區ニ改ム
- 步兵第六聯隊 名古屋大隊區 津 大隊區

步兵第十八聯隊 豊橋大隊區 静岡大隊區  
 步兵第七聯隊 金澤大隊區 富山大隊區  
 步兵第十九聯隊 岐阜大隊區 福井大隊區  
 步兵第八聯隊 大阪大隊區 和歌山大隊區  
 步兵第九聯隊 大津大隊區 京都大隊區  
 步兵第十聯隊 姫路大隊區 岡山大隊區  
 步兵第二十聯隊 神戸大隊區 宮津大隊區  
 步兵第十一聯隊 廣島大隊區 山口大隊區  
 步兵第二十一聯隊 尾ノ道大隊區 松江大隊區  
 步兵第十二聯隊 丸龜大隊區 徳島大隊區  
 步兵第二十二聯隊 松山大隊區 高知大隊區  
 步兵第十三聯隊 熊本大隊區 宮崎大隊區  
 步兵第二十三聯隊 (八代)大隊區 鹿兒島大隊區二十三年五月省令第十七號ヲ以テ(八代)ヲ(大分)ニ改ム  
 步兵第十四聯隊 小倉大隊區 佐賀大隊區  
 步兵第二十四聯隊 福岡大隊區 長崎大隊區

○第二百九十九 徵集延期若クハ徵集猶豫中又ハ翌年廻入者他ノ徵募區ニ轉籍ノトキ 島司郡市長取扱方ノ件 明治二十二年十月三十一日 陸軍省訓令第六號北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)

徵兵令第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條及第四十一條ニ當リ徵集延期若クハ徵集猶豫中他ノ徵募區ニ轉籍スル者アルトキハ島司郡市長ヨリ其名簿ヲ添へ轉籍地ノ島司郡市長ニ通知セシム可シ

但失踪逃亡其他ノ事故ニ依リ翌年回ト爲リタル者ニテ他ノ徵募區ニ轉籍スル者ノ取扱ヒ亦本文ニ同シ

○第二百九十一 地方徵兵醫官補助員定數ノ件 明治二十六年四月五日 陸軍省訓令第四號北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)  
 徵兵事務條例第十八條ノ徵兵醫官補助員ノ定員ハ一徵募區ニ(三名)トス但實際ノ便宜ニ依リ數徵募區ヲ通シテ同一人ヲ採用スルコトヲ得二十六年三月訓令第三號ヲ以テ(三名)ヲ(二名)ニ改ム

○第二百九十二 徵兵身體検査ノ際壯丁ノ身長測定ノ件 明治二十五年四月五日 陸軍省訓令第五號師團司令部(近衛師團司令部ヲ除ク) 北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)  
 徵兵身體検査ノ際壯丁ノ身長ハ大隊區又ハ警備隊區徵兵事務員ヲシテ測定セシム可シ

○第二百九十三 現役兵トシテ徵集シ又ハ豫備徵員ヨリ現役兵ニ繰上タル者アルトキ島司郡市長取扱方ノ件 明治二十四年二月二十六日 陸軍省訓令第一號北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)  
 毎年現役兵トシテ徵集シ又ハ豫備徵員ヨリ現役兵ニ繰上タル者アルトキハ島司又ハ郡市長ヨリ各自ノ戶籍寫ヲ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ送附セシム可シ

○第二百九十四 海軍志願兵海軍徵兵後備役滿期トナリタル者免役及豫備役滿期ノ者後備役編入方ノ件 明治二十三年三月十八日 海軍省告示第八號

海軍准士官後備役滿期トナリ海軍志願兵豫備役滿期トナリ海軍徵兵後備役滿期トナリタルトキ辭令ヲ用ヒテ准士官下士ハ免官卒ハ免役トス

豫備ヨリ後備ニ入ル者ハ辭令ヲ用ヒテ豫備滿期トナリタルトキハ後備トス

○第二百九十五 海軍新兵入營ノトキ私設鐵道條例ニ依ルモノ乗車證券付與ノ件明治二十三年三月十日 海軍省訓令第一號府廳

海軍新兵入營ノ時私設鐵道條例第二十一條ニ依リ乗車セシムルトキハ徵兵ナレハ集合地ヨリ入營地マテノ乗車證券ヲ新兵受領委員ヨリ附與シ志願兵ナレハ出發地ヨリ入營地マテノ乗車證券ヲ徵募官ヨリ府縣廳ヲ經テ附添人ニ交附シ附添人ヨリ之ヲ附與スルモノトス

○第二百九十六 徵兵失踪逃亡ノ者歸投若クハ所在發見ノトキ徵集ノ手續及踪跡不明ノ者調査ニ不及件明治二十三年三月二十日(內務大臣訓令)

明治十七年以前ノ徵兵ニシテ失踪逃亡ノ者ハ歸投若クハ所在發見スルニ從ヒ徵集ノ手續ヲ爲シ其踪跡不明ノ者ハ毎年調査スルニ及ハス

○第二百九十六乙 傷痍疾病其他ノ事故ニ由リ服役三箇年未滿ニシテ現役ヲ免シタル軍人若クハ常備兵籍編入ノ生徒學生ヲ免シタル者徵否定メ方ノ件

明治二十七年五月二十二日 陸軍省訓令甲第二號(近衛師團司令部ヲ除ク)道廳府廳(沖繩縣ヲ除ク) 徵兵事務條例ニ依リ終決處分ヲ受ケタル者ニシテ志願ニ由リ現役軍人トナリ服役三箇年未滿ノ者若クハ常備兵籍ニ編入ノ諸生徒傷痍疾病其他ノ事故ニ由リ現役若クハ生徒學生ヲ免シ兵役上ニ關スル爾後ノ處分ヲ受ケサルモノハ更ニ徵兵検査ヲ爲シ其徵否ヲ定ムハシ

但明治二十一年陸軍省訓令甲第二號(師團司令部ハハヲ廢ス)

●伺指令

●條例施行細則第十五條中徵兵令第二十條ノ事故ニ罹ル者取扱方ノ件明治二十二年四月六日 事務條例施行細則第十五條中徵兵令第二十條ニ當リ其事故第三年ニ至ルモ仍ホ止マサルモノ云々ト有之故ニ二十二年徵兵適齡ノモノハ二十四年ニ至リ事故仍ホ止マサルトキハ右取扱ヲ爲スヘキモノ、如ク相見得候得共令第二十條ニハ三年ヲ過タルモノト有之ニ付二十二年適齡者ハ二十五年徵募事務ノ節ニ至リ右ノ如ク取扱フヘキ儘ニ候哉(第三項) 陸軍省指令 明治二十二年四月十五日

●第三項伺之通

●籤丁名簿取扱及費用ノ件明治二十二年三月二十八日 陸軍省訓令

徵兵事務條例施行細則第二十條ニ示サレタル籤丁名簿ノ備ハ籤札ト同時調製ヲ要スル儘ニ候處右ハ專ラ郡市書記ヲシテ從事セシメ其費用ハ郡市役所ヨリ支辨セシムル儘ニ候哉

陸軍省總務局回答 明治二十二年五月十日

郡市書記ヲシテ從事セシムル儘ハ意見ノ通籤丁名簿及籤札ノ費用ハ徵兵費ヨリ支辨スヘキ儘ト御承知有之度

●入營延期及入營前失踪逃亡ノ者身體検査ノ上徵集ノ件明治二十二年五月二十二日 第五師團參謀長訓令

明治二十一年以前ノ徵兵ニシテ入營延期中ノ者及入營前失踪逃亡ノ者ハ身體検査ヲ爲サス新兵ト同時ニ入營セシメ其翌年回シノ處分ヲ爲シタル者(即チ番附對符ヲ返納セシモノ)ハ身體検査ノ上抽籤

ノ法ニ依リ徵集シ可然哉

陸軍省副官回答 明治二十二年六月一日

前段ハ御意見ノ通後段ハ前段ノ者同様取扱更ニ新兵證書ヲ付與スル儀ト御承知有之度  
●徵兵検査ニ依リ輜重輸卒ニ合格シ犯罪ニ係リ處刑満期ノ者入營等ノ件 明治二十二年五月三十一日  
明治二十五年徵兵適齡検査ニ合格シタル後同年十月七日竊盜犯ニ依リ重禁錮五箇月監視六箇月ニ處セラレタルヲ以テ徵兵令第二十七條ニ照シ昨二十六年再ヒ検査ヲ遂ケ候處輜重輸卒ニ合格シ猶又同年十月二日同犯ニ因リ重禁錮八箇月監視六箇月ニ處セラレ本年十二月一日マテ満期ト相成ヘク候處テハ客年御省訓令甲第六號第一項ニ據リ來ル二十八年第二期ニ入營セシムル筋ナルヤ又ハ同項第二ニ據リ更ニ検査ヲ行ヒ其徵否ヲ定ムベキ筋ナルヤ何分ノ御指示相成度  
陸軍省副官回答 明治二十七年六月五日

來ル二十八年第二期ニ入營セシメ可然存候

●條例第五十八條ノ轉籍ニ他家養子入夫相續人又ハ分家スル者含有ノ件 明治二十二年六月五日

徵兵事務條例第五十八條ノ轉籍ニ他家養子入夫相續人又ハ分家スルモノハ含有セサル儀ニ候哉然ルトキハ新兵入營前又ハ豫備徵員ニシテ監視區外へ養子入夫相續人トナリテ七日以内ニ届出サルモ右兩條第二項ノ處分ヲ爲サハルモノニ候哉  
陸軍省總務局回答 明治二十二年六月十一日  
右ハ含有スル儀ト御承知有之度

●事務條例第七十一條但書及寄留地ニ於テ検査ヲ受クル件 明治二十二年十二月四日

一 徵兵事務條例第七十一條但書ノ年齡二十六歳ヲ過クルト否トノ分界ハ轉籍シタルトキノ年齡ニ依ルニアラスシテ徵集ニ應セシムヘキ年ノ十二月ヲ以テ區分シ例ハ本年徵募事務終決後二十六歳未滿ニシテ入籍シ來ル二十三年十一月迄ニ滿二十六歳トナル者ハ徵集セサル儀ニ候哉

一 學術修業又ハ商業等ノ爲メ一時他ニ寄留ノ者該地ニ於テ徵集ニ應スルニアラスシテ身體ノ検査ノミチ受ケ度旨願出ルトキハ本籍及寄留地大隊區徵兵官協議ノ上検査及本籍ノ抽籤等ニ差支無之ト認ムル者ニ限り便宜取扱苦シカラス哉  
陸軍省總務局回答 明治二十二年十二月二十四日

第一項ハ年齡滿二十六歳トナル年ノ徵募事務終結ヲ以テ分界シ右終結迄ニ轉籍シタル者ハ徵集シ其以後ニ係ル者ハ徵集セス第二項ハ御意見ノ通ニテ可然存候

●六週間現役ニ服スヘキ者身幹測尺及身體受檢ノ爲メ出頭旅費ノ件 明治二十三年三月二十五日  
徵兵令第十一條第三項ニ依リ六週間陸軍現役ニ服スヘキ者入營旅費ハ官給可相成候得共身幹測尺ノ爲メ縣廳或ハ適宜ノ場所ニ呼出ストキ及身體受檢ノ爲メ召集地ニ出頭スル旅費ハ合格不合格ニ拘ハラズ一般徵兵同様官費支給可相成ヤ  
陸軍省指令 明治二十三年四月二十四日(内務省連帶)

身幹測尺ハ旅費ヲ要セサル便宜ノ場所ニ於テ取調若シ旅費ヲ要セサレハ難取調者ハ其

族籍氏名ノミ師團司令部へ通知スヘシ又身體検査ハ入營ノ際行ヲ以テ別ニ検査ノ爲  
メ召集セシ尤入營ノ際検査不合格トナリタル者ノ歸郷旅費ハ官給ス

●寄留地應徵者ニシテ施行細則改正以前徵集延期者クハ徵集猶豫トナリタル者細則第二十  
一條ノ手續ヲ爲ス件明治二十五年四月二八日  
千原縣開合

今般徵兵事務條例施行細則中改正相成候處本令第二十六條ノ寄留地應徵者ニシテ昨二十四  
年以前徵集延期者クハ徵集猶豫ト爲リタル者ハ本年假決若クハ終決ノ處分ヲ爲シタル後ニ  
於テ細則第三十一條ノ手續ヲ爲スヘキヤ

其假決若クハ終決ノ處分ヲ爲シタル者ノ證書ハ寄留地ニ於テ調製シ本人ハ附與スヘキ義ニ  
候哉

陸軍省軍務局第二軍事課回答 明治二十五年四月三十日

兩項共御意見ノ通りニテ可然存候

●徵兵未行地へ轉籍ノ者條例第五十條ニ依リ取扱ノ件明治二十五年五月十八日  
陸軍省訓令ロ兵庫縣へ通牒  
客年九月十七日付ヲ以テ徵兵未行地へ轉籍ノ者取扱ノ件御伺出ニ對シ當省指令ノ趣モ有  
之候處今般徵兵事務條例第五十條改正ニ付テハ向後ハ右未行地ニ轉籍ノ者ト雖モ同條ニ依  
リ可取扱儀ニシテ最前ノ指令ハ自然消滅スル義ト御承知有之度

徵兵未行地へ轉籍者取扱ノ件明治二十四年九月十七日  
兵庫縣開合  
徵集相當者ノ内家事ノ都合ニ依リ徵兵未行地へ全戸轉籍又ハ移住セン場合ニ於テ別ニ

徵兵上規程無之候得共既ニ検査ノ上合格ヒシモノ抽籤前ハ尙ニ新兵ニシテ入營前ハ勿論  
徵集スル義ト相心得可然哉

陸軍省指令 明治二十五年九月二十五日

伺ノ趣徵集セサル義ト心得ヘシ

●壯丁名簿及二十六年訓令甲第四號但書ノ件明治二十五年四月八日(電報)  
愛知縣開合

壯丁名簿條例ニ依リ本年ハ此儘用ヒ差支ナキヤ又御省訓令甲第四號但書徵集區トアル  
ハ各徵集區歟同一人トアルハ三名ノ内一名ノコト歟返信アリタシ

陸軍省軍務局第二軍事課回答 明治二十五年四月九日

一 本年ハ舊式ノ壯丁名簿ヲ用ヒ差支ナシ但住所ノ區畫ニ國名記入ヲ要ス

一 數徵集區トハ二箇以上ノ徵集區ヲ指シタルモノナリ

一 同一人トハ同一ク者ヲ指シタルモノナリ

●施行細則第三十九條但書滞在若クハ歸郷旅費等ノ件明治二十五年七月二十九日  
第五師團參謀長開合

徵兵事務條例施行細則第三十九條但書ニ係ル者ノ滞在若クハ歸郷旅費等ハ何レニ於テ支給  
スヘキ筋ニ候哉

陸軍省軍務局第二軍事課回答 明治二十五年八月十六日

地方廳ニ於テ徵兵費ヨリ支辨スル儀ト心得ヘシ

●屯田兵志願者採用後徵兵検査ノ件明治二十六年三月二十四日  
神島縣開合

屯田兵志願者ニシテ其採用ノ違ヲ受ケ既ニ管文書ヲ差出サシメタル者ト雖モ移住前徵兵検査ニ際スレハ身體検査ヲ受ケシムル儀ト思考候得共少シク疑義ニ涉リ御問合ニ及ヒ候

陸軍省軍務局第二軍事課長回答 明治二十六年三月二十九日

身體検査ヲ受ケシメサル儀ト御承知可有之

令第二十七條ニ該當スル者身體検査ノ件 明治二十六年五月二十日

第四師團參謀長照會

本月十三日附省令第八號ヲ以テ二十四年省令第五號廢止相成候右ハ全ク令第二十七條ニ該當スルモノハ身體検査施行不致精神ニ有之候哉同日省令第七號ヲ以テ徵兵事務條例施行細則改正追加中ニモ別ニ検査ノ明文ハ無之候得其實際上検査施行ハ徵集上利益不尠殊ニ本年ノ如キハ訓令乙第三號ニ依リ撰兵上必要ニ有之候就テハ右検査施行ト否ハ師管徵兵官ノ意見ニ可被任儀ニ候哉將々全ク検査ハ施行ヲ得サル儀ニ候哉差掛リタル備モ有之候ニ付至急電報ニテ御回答相成度

陸軍省軍務局第二軍事課回答 明治二十六年五月二十二日(電報)

検査ノ上相當兵種ニ組入ルヘキ注意ナリ

第三節 警備隊ニ關スル件

○第二百九十七 警備隊條例 明治十九年十一月三十日(十二月一日公布)

朕警備隊條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

警備隊條例

第一章 總則

第一條 小笠原島佐渡隱岐大島沖繩對島ノ諸分營ニ漸次警備隊ヲ置ク

第二條 警備隊ハ營所司令官ノ管轄ニ屬スルモ指揮供給等ノ事ハ鎮臺司令官直ニ之ヲ管理ス

第三條 警備隊ノ兵卒ハ該島嶼ヨリ徵兵適齡ノ者ヲ徵集シ毎年兩度ニ其半數宛ヲ入營セシメ在營一箇年ニシテ歸休ヲ命ス

其技藝ニ熟シ行狀方正ナル者ハ一箇年未滿ト雖モ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第四條 警備隊兵卒中上等兵ノ任ニ堪ラ可キ者及上等兵ハ志願ニ依リ尙ホ一箇年間在營スルコトヲ得 五十七號ヲ以テ本條ヲ改正ス

上等兵中下士ノ任ニ堪ラ可キ者ハ志願ニ依リ現役期限滿ツル迄在營スルコトヲ得

職工ハ志願ニ依リ一箇年以上在營再服役ヲ爲スコトヲ得其再服役ヲ爲スハ陸軍現役下士上等兵再服役條例ニ依ル 號ヲ以テ本項ヲ追加ス

第五條 警備隊ノ下士ハ該隊上等兵ノ中ヨリ其任ニ堪ル可キ者ヲ拔擢シテ之ニ任ス但時宜ニ依リ他ノ下士ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得 二十一年七月勅令第五

兵卒ヨリ縫工(下)長靴工(下)長ニ任シタル者亦前項ノ例ニ依ル 二十四年勅令第六十二

第二章 司令官ノ本務權限

第六條 警備隊司令官ハ兵隊ノ指揮節度軍紀風紀教育訓練等ノ事ヲ掌リ管地ノ警備保護ニ



任ス

第七條 警備隊司令官ハ該全島ノ徵兵調査及豫備役後備軍(編員)兵員ニ係ル一切ノ事務ヲ管理ス(豫備役後備軍(編員)ハ應ニ屬シ)

第八條 警備隊司令官ハ管内騷擾ノ警アル時ハ先ツ情狀ヲ鎮臺司令官ニ申報シテ其區處ヲ承ク可シ但火急ニシテ兵力ヲ要シ地方長官ヨリ出兵ヲ請求スル時ハ之ニ應ジテ其具ヲ

鎮臺司令官ニ急報ス可シ其事外國ニ關涉スルモノハ出兵スルモ守勢ノ暇備ヲ取ル可シ

第九條 管内ニ於テ儀式慶典若クハ變異事故アリテ備仗或ハ警備ノ爲メ地方長官ヨリ兵隊ヲ要スル事由ヲ具シテ之ヲ請フ時ハ鎮臺司令官ノ區處ヲ請フ可シ但事火急ニシテ區處ヲ請フノ暇ナキ時ハ之ニ應ジ然ル後之ヲ報告ス可シ

第十條 出陣準備ハ定規ニ從ヒ遺算ナキヲ要ス故ニ常ニ人馬召集物品徵發運輸等ノ方法ヲ敷ヘ又後備兵ニ支給ス可キ武器彈藥被服脚具器具材料等ヲ備ヘ各主務官ヲシテ其貯藏保存ノ事ヲ擔任セシム可シ

第十一條 管内ニ在ル下士及兵員ノ身上ニ係ル事項ニ就テハ地方官ノ通牒ヲ受理シ例規アルモノハ直ニ處分シ其例規ナキモノハ鎮臺司令官ニ具申シテ區處ヲ承ク可シ

○第二百九十七條 警備隊兵卒入營前ノ取扱ノ件(明治二十二年三月二十五日陸軍省令第七號)  
明治二十年二月陸軍省令第三號警備隊兵卒入營前ノ取扱方左ノ通改正ス  
一 警備隊兵卒入營期限ハ左ノ如シ

第一次 六月一日「砲兵助卒ハ二月一日」(二十三年省令第十五號ヲ以テ(砲兵助卒ハ)云々ノ九字ヲ加フ)

第二次 六月一日「砲兵助卒ハ九月一日」(同上省令ヲ以テ(砲兵助卒ハ)云々ノ九字ヲ加ヘ二十四年十月省令第八號ヲ以テ(九月一日)ヲ(六月一日)ト改ム)

一 疾病犯罪等ニ期限ニ際シ入營シ難キ者ノ缺員ハ(第一次ニ在テハ)十二月十日迄ニ第二次ニ在テハ六月十日迄ニ入營セシム(二十三年五月省令第十五號ヲ以テ(第一次以下(六月)ノ二十三字ヲ(第一次共其月)ノ十字ニ改ム)

一 前項ノ事故ニ由リ第一次ニ入營シ難キ者ハ第二次ニ入營シ難キ者ハ次年徵募ノ新兵同時ニ入營セシム

一 前諸項ニ掲クルモノ、外入營前ノ取扱ハ徵兵事務條例及徵兵事務條例施行細則ニ依ル

第四節 徵兵検査規則及旅費定則並徵兵參事員ノ手當及旅費ニ關スル件

○第二百九十九條 徵兵検査規則(明治二十五年三月十八日陸軍省令第三號)  
明治二十二年三月陸軍省令第二號徵兵検査規則左ノ通改ム

徵兵検査規則  
第一條 徵兵検査ハ徵兵令ニ據リ兵役ニ服スヘキモノ、體格ヲ検査シ其適否ヲ定ムルモノトス

此検査ハ學術上諸種ノ方法ヲ施スコトヲ得

第二條 左ノ疾病畸形ノ者ハ不合格トス  
一 惡性腫瘍

- 二 骨軟化、佝僂病
- 三 象皮腫、癩
- 四 動脈瘤
- 五 癩痢
- 六 白痴
- 七 癲狂
- 八 夜盲
- 九 盲
- 十 耳殼若クハ鼻ノ全缺スルモノ
- 十一 聾
- 十二 啞
- 十三 唇、齒牙、口内ノ疾病ニシテ官能ニ大ナル妨アルモノ
- 十四 食道狹窄
- 十五 脊梁、骨盤ノ畸形ニシテ運動ニ大ナル妨アルモノ
- 十六 歇兒尼亞
- 十七 關節畸形
- 十八 習癖脱臼

- 十九 支肢ノ短縮、彎曲
  - 二十 指節ノ強剛ニシテ把握ニ大ナル妨アルモノ
  - 二十一 拇指若クハ示指若クハ二指以上ヲ失シタルモノ
  - 二十二 蹠足
  - 二十三 第一趾ヲ失シタルモノ若クハ三趾以上ヲ失シタルモノ
- 前項ノ疾病畸形中輕症ニシテ服役シ得ヘキモノハ合格トシ爾餘ノ疾病畸形ト雖モ服役シ得ヘカラサルモノハ不合格トス
- 第二條 徵兵體格ノ等位ヲ區別スルコト左ノ如シ
- 一 甲種 身長五尺以上ニシテ身體強健ナルモノ
  - 二 乙種 身長五尺以上ニシテ身體甲種ニ亞クモノ
  - 三 丙種 身長五尺以上ニシテ身體乙種ニ亞クモノ及身長五尺未滿四尺八寸以上ニシテ
  - 丁種 戊種ニ當ラサルモノ
  - 四 丁種 第二條ニ當ルモノ及身長四尺八寸ニ滿タサルモノ
  - 五 戊種 徵兵令第十八條第一項第二項ニ當ルモノ
- 第四條 第三條ノ甲種乙種丙種ヲ合格トシ其甲種乙種ハ現役ニ服スヘキモノ丙種ハ國民兵役ニ當クモノトシテ丁種ヲ不合格戊種ヲ徵集延期トス
- 第四百 徵兵旅費定則明治二十年十二月十六日  
大藏省令第十七號

明治十八年七月當省達甲第四十二號徵兵旅費定則左ノ通改正ス

徵兵旅費定則

第一條 徵兵旅費ハ検査及入營ノ二種トシ片道三里以上ノ旅行ヨリ之ヲ支給ス  
検査旅費ハ檢丁、呼出ニ係ル檢丁ノ父兄、癩疾不具者ニ同伴シタル保護人及抽籤人検査所  
又ハ抽籤場ニ往復ノ旅費トス  
入營旅費ハ新兵入營ノ旅費トス

第三條 検査旅費ハ一里ニ付金三錢五厘入營旅費ハ同金四錢ノ額ヲ以テ支給ス但一里未滿  
ノ端里數ハ切捨ス  
官ノ都合ニヨリ特ニ滞在ヲ命シタル検査旅費ニ在テハ金貳拾貳錢入營旅費ニ在テハ  
官ノ都合ニヨリ特ニ滞在ヲ命シタルニアラスト雖トモ川留雪間ニシテ途中ニ滞在スルト  
キ其地戸長ノ證明書ヲ添ヘ請求スルトキハ滞在日當ヲ支給スルコトヲ得  
第三條 片道三里未滿ノ旅行ト雖トモ島嶼ニ住居シ渡航ニアラサレハ至リ難キトキハ渡航  
賃ノ實費ヲ支給スルコトヲ得

片道三里未滿ノ旅行ト雖トモ官ノ都合ニヨリ特ニ宿泊ヲ命シタルトキ検査旅費ニ在テハ金  
拾五錢入營旅費ニ在テハ金貳拾錢ノ宿泊料ヲ支給ス  
第四條 片道三里以上ノ旅行ニシテ島嶼ニ住居シ渡航ニアラサレハ至リ難キモノ若クハ地

勢上渡航又ハ汽車乗用ヲ便トスルトキハ第二條ニヨラヌ其實費汽車賃船賃トシテ支給スルコ  
トヲ得

本條ノ場合ニ於テハ泊數ニ應シテ前條ノ宿泊料ヲ給ス其陸行徒歩相跨ル日亦之ニ準シ  
尙陸路里數ニ應ジテ別ニ第二條ノ旅費ヲ支給ス

第五條 新兵入營ノ旅行ハ一日十里計トシ若シ各兵集合上ノ都合ニヨリ其見積行程ヨリ延  
著セシメタルトキハ増日數ニ應シ滞在日當ノ額ヲ支給ス

第六條 檢丁若クハ呼出ニ係ル檢丁ノ父兄癩疾不具ニシテ歩行スル能ハサル者ハ第二條ノ  
外片道一里以上ヨリ一里ニ付金六錢ノ駕車賃ヲ支給ス但一里未滿ノ端數ハ切捨トス

第七條 新兵入營途中疾病ニヨリ歩行スル能ハスシテ駕車ヲ乗用シ又ハ滞在シタルトキハ  
附添吏員ノ證明書及醫師ノ診斷書ヲ添ヘ請求スルトキハ駕車賃ノ實費若クハ滞在日當ヲ  
支給スルコトヲ得

第八條 新兵ニ附添ヒ營所ニ至ル郡區書記若クハ戸長ノ旅費ハ内國旅費規則ニヨル

第九條 北海道廳長官府縣知事ノ見込ニヨリ本則中ノ給額ヲ減少スルハ適宜ナルヘシ

○第四百一 徵兵検査ノ節醫師又ハ一時雇ノ者出張申付該出張先ニ於テ便宜解雇スルトキハ該地ヨリ最  
初採用ノ節本人居住ノ地迄旅費支給スヘシ

右相違候事

○第四百二一 徴兵參事員手當旅費支給規則明治二十四年四月二十四日(大藏大臣連署) 内務省令第六號北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)  
徴兵參事員手當金並ニ旅費支給規則左ノ通相定ム

支給規則

- 一 手當金ハ府縣郡市島嶼ヲ間ハス出務日數ニ應シ一日金一圓ヲ支給ス
- 一 旅費ハ左表ノ金額ヲ給ス其支給法ハ明治十九年六月閣令第十四號内國旅費規則ニ據ル但地方ノ狀況ニ依リ認可ヲ經テ定額ノ旅費ヲ節減スルヲ得

(旅費額表ハ次ノ改正アルヲ以テ除ク)

○第四百二二 徴兵參事員旅費額ノ件明治二十四年八月十五日 内務省令第十六號

明治二十二年<sup>四</sup>當省令第六號徴兵參事員旅費額左表ノ通り改正シ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

汽	車	買	汽	船	買	車	馬	買	日	當
一	圓	每	一	海	里	每	一	里	每	一
金	四	錢	金	五	錢	金	十	錢	金	七
										十
										錢

### 第二章 陸軍諸規則中郡市町村長等ニ關スル諸件

#### 第一款 大隊區及警備隊區司令部條例

○第四百四 大隊區司令部條例明治二十一年五月十二日(五月十四日公布) 勅令第二十九號

朕大隊區司令部條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

大隊區司令部條例

第一條 各大隊區ニ司令部ヲ置ク其職員左ノ如シ

- 司令官 中佐若クハ少佐一名
- 副官 大尉若クハ中尉一名
- 書記 下士五名内二名ハ軍吏部下士
- 監視區長 曹長二名乃至四名

第二條 大隊區司令官ハ旅團長ニ隸シ其大隊區内徴兵事務及召集事務ヲ掌ル

第三條 大隊區司令官ハ大隊區内ニ現在スル「在郷陸軍軍人豫備隊員及屯田補充兵役ニ在ル者」ノ身上異動其他願届ニ關スル事ヲ掌ル二十七年十月勅令第七十八號ヲ以テ(現在スル)ノ下(豫備後備ノ將校及相當官)トアルヲ(在郷)云々ノ二十一ノ字ニ改

第四條 大隊區副官ハ司令部一般ノ事務ニ服シ且會計ノ事ヲ管理ス

第五條 大隊區書記ハ上官ノ指揮ニ從ヒ記注及計算ノ事ニ從フ

第六條 各大隊區司令部ノ位置左ノ如シ

- 麻布 横濱
- 長野 佐倉
- 本郷 宇都宮
- 高崎 水戸
- 仙臺

福島	新發田	柏崎
青森	盛岡	秋田
山形	名古屋	津田
豊橋	静岡	金澤
富山	岐阜	福井
大坂	和歌山	大津
京都	姫路	岡山
神戸	福知山 <small>元(宮津)二十三年五月勅令第八十一號ヲ以テ(福知山)ニ改ム</small>	廣島
尾ノ道	山口	松江
丸龜	徳島	松山
高知	熊本	宮崎
大分 <small>元(八代)同上勅令ヲ以テ(大分)ニ改ム</small>	鹿児島	小倉
佐賀	福岡	長崎
札幌	函館	空知太
天鹽	根室	釧路
十勝	浦河 <small>二十七年十月勅令第七十八號ヲ以テ(札幌)以下七ヶ所ヲ追加ス</small>	

第七條 大隊區ヲ分テ二箇乃至「五箇」ノ監視區ト爲ス二十七年十月勅令第七十八號ヲ以テ(四箇)トアルヲ(五箇)ト改ム

第八條 監視區長ハ監視區内ニ駐劄シ「在郷陸軍下士兵卒」屯田兵條例ニ依リ服役ス豫備徴員及屯田兵役ニ在ル者ヲ監視シ身上異動其他願届ニ關スル事ヲ取扱ヒ大隊區司令官ニ報告ス同上勅令ヲ以テ(駐劄シ)ノ下(豫備後備)ノ下(士卒)トアルヲ(在郷陸軍)以下別查共四十三字ニ改ム

第九條 監視區ノ區域並ニ監視區長ノ註劄地ハ師團長之ヲ定ム

附則

第十條 函館、空知太、天鹽、釧路、十勝、浦河ノ各大隊區ハ土地ノ狀況ニ依リ漸テ以テ司令部ヲ兼轄セシメ監視區長ノ事務ハ最寄監視區長ヲシテ兼務セシム但函館大隊區中函館、江差、福山ハ第七師團設置迄青森大隊區司令部ノ管轄ニ屬ス同上勅令ヲ以テ本條ヲ追加ス

前項司令部及監視區長ノ設置並大隊區ノ兼轄所屬ハ陸軍大臣之ヲ定メ監視區長兼務ノ區域ハ師團長之ヲ定ム

第十一條 本條例中師團長旅團長ノ職務ハ第七師管ニ在テハ師團旅團設置迄屯田兵司令官之ヲ行ヒ又當分ノ内大隊區司令官ハ本職アル中少佐ヲ以テ兼補シ監視區長ハ現役豫備後備ノ下士ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得其豫備後備下士身分ノ取扱ハ召集中ノ者ニ同シ(同上)

●參照 漸テ以テ司令部ヲ置クヘキ大隊區ノ兼轄所屬ノ件明治二十七年十月二十日陸軍省令第二十二號

大隊區司令部條例第十條ニ依リ漸テ以テ司令部ヲ置クヘキ大隊區ノ兼轄所屬左ノ通定ム

函館大隊區、空知太大隊區、天鹽大隊區、浦河大隊區ハ札幌大隊區司令部ノ所轄トス

釧路大隊區、十勝大隊區ハ根室大隊區ノ所轄トス

(附言) 本令第八條中豫備徵員ナル明文アリ豫備徵員ノ名稱タル當時徵兵令ニ於テ籤丁ノ當籤セサル者ニ命スルノ稱ニシテ豫備徵員ハ其年入營ノ期ヨリ翌年入營ノ期迄ニ入營セサル者ヲ云フ若シ限内徵集定員ニ不足スルトキハ抽籤番號ノ順序ニ依リ入營セシメ以テ定員ヲ補充スル者ナリ而ルニ二十八年四月徵兵令中ヲ改正セラレ該令中既ニ掲載アリシ豫備徵員ノ明文ヲ改メテ補充兵役トセラレタルニ依リ本令掲載ノ豫備徵員ナルモノモ自然補充兵役ト改マリタルモノト看做シ補充兵役者ニ係ル事項ニ關シ本條ニ當ルモノハ又本令ニ依リ取扱フヘキモノトス

○第四百五 警備隊區司令部條例明治二十二年十二月二十八日(十二月三十日公布)

朕警備隊區司令部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

警備隊區司令部條例

第一條 警備隊區ニ司令部ヲ置ク其職員左ノ如ク

司令官 中佐若クハ少佐一名

副官 大尉若クハ中尉一名

書記 下士二名

第二條 警備隊區司令官ハ警備隊司令官之ヲ兼攝ス

第三條 警備隊區司令官ハ旅團長ニ隷シ警備隊區内徵兵事務及召集事務ヲ掌ル

第四條 警備隊區司令官ハ警備隊區内ニ現在スル在郷陸軍軍人ノ身上異動其他願届ニ關スル事ヲ掌ル二十七年十月勅令第百七十九號ヲ以テ(現在スル)ノ下(豫備隊區司令官ハ旅團長ニ隷シ警備隊區内徵兵事務及召集事務ヲ掌ル)

第五條 警備隊區司令官ハ警備隊區内ニ現在スル豫備後備下士卒ヲ管轄シ歸休兵ヲ監視ス

第六條 警備隊區副官ハ司令部一般ノ事務ニ服シ且會計ノ事ヲ管理ス

第七條 警備隊區書記ハ上官ノ指揮ニ從ヒ記注計算ノ事ニ從フ

第八條 警備隊區司令部位置ハ豫備隊常屯ノ地トス

第二款 陸軍一年志願兵條例同施行細則

○第四百六 陸軍一年志願兵條例明治二十六年七月十九日(七月二十日公布)

朕陸軍一年志願兵條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍一年志願兵條例

第一條 徵兵令(第十一條)ニ依リ一年志願兵トナル者ハ居住地師管内ニ於テ服従スヘキ兵科及衛戍地ヲ選フコトヲ得但第四條ニ當ル者ハ此限ニ在ラス二十八年三月勅令第三十四號ヲ以テ(第十一條)ヲ(第十三條)ニ改ム

第二條 一年志願兵ニハ所屬隊ヨリ糧食、被服、裝具、兵器、彈藥ノ現品ヲ給シ被服費、裝具費、彈藥費及兵器修理費トシテ金六十二圓糧食費トシテ金三十八圓ヲ納メシム又騎兵科ニ入ル者ニハ馬匹ヲ貸與シ馬糧費、裝蹄費、剔毛費及馬藥費トシテ更ニ金七十五圓ヲ納メシム以上ノ金額ニテ不足ヲ生スルトキハ之ヲ追徵シ殘餘アルトキハ之ヲ還付シ兵器ハ本人滿期ノ際之ヲ返納セシム

第三條 一年志願兵ハ在營セシムルヲ例トス但本人ノ願ニ依リ聯隊長聯隊長ヲ成サハル隊ニ在テハ該隊長以下同シ泊ヲ許シ通勤セシムルコトヲ得

第四條 費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ハ糧食費外ノ費用ヲ官給ス

第五條 一年志願兵ハ總テ無給料トス其検査住復並ニ入營退營旅費亦自辨トス

第六條 官費服役ヲ許スヘキ一年志願兵ノ定員ハ毎年陸軍大臣之ヲ定ム  
官費服役出願者前項ノ定員ヲ超過スルトキハ年少ノ者ヨリ順次次年廻シ入隊セシム同上

第七條 一年志願兵ハ現役滿期ノ後六箇年四箇月間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシム

豫備役後備役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ事由ナクシテ召集ヲ缺キタル者其召集ヲ缺キタル年ハ服役年期ニ算セス同上勅令ヲ以テ

第八條 一年志願兵志願者ハ其願書ヲ一月三十一日迄ニ本籍ノ島司郡市長東京京都大阪ノ三市及北海道函館區ニ在テハ區長以下同シヲ經テ自費服役者ニ在テハ服役スヘキ衛戍地所管ノ旅團長東京衛戍地ニ在テハ步兵第一旅團長ニ官費服役者ニ在テハ居住地所管ノ旅團長ニ差出スヘキ但徵兵令第十一條ノ學校卒業者ハ卒業證書寫及戸主ニアラサルモノ又ハ戸主二十歳未滿者ハ戸主若クハ後見人ノ承認書ヲ添附スルヲ要ス同上勅令ヲ以テ(第十一條)ヲ(第十三條)ニ改ム

第九條 前條ノ志願者ニシテ一月三十一日迄ニ徵兵令第十一條ノ學校ヲ卒業セサル者ハ其年十月三十一日迄ニ卒業スヘキ者ニ限り學校長ノ證明書ヲ以テ卒業證書寫ニ換フルヲ得但卒業ノ上ハ直ニ卒業證書寫ヲ添ヘ旅團長ニ届出ヘシ(同上)

第十條 旅團長ハ第八條ノ志願者中學術試験ヲ受クヘキ者ノ人名書ニ通テ製シ師團長ニ呈スヘシ師團長ハ其一通ヲ監軍ニ呈シ一通ヲ身體検査ヲ爲サシムヘキ軍醫ニ下付スルモノトス

第十一條 一年志願兵ノ學術試験格例ハ毎年監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十二條 師團長ハ學術試験ヲ受クヘキ者ノ身體検査時日ヲ定メ府縣知事ニ通達シ本人ヲ検査地ニ召集ス

第十三條 師團長ハ軍醫ヲシテ學術試験ヲ受クヘキ者ノ身體検査ヲ爲サシメ其合格者ハ陸軍將校生徒試験臨時委員ヲシテ學術試験ヲ爲サシメ試験書類ヲ(將校學校監ニ送付スヘシ)二十七年二月勅令第二十號ヲ以テ(將校學校監ニ送付スヘシ)ヲ(旅團長ニ送付ス)ニ改ム

(將校學校監ハ試験ノ成績ニ據リ及第落第ヲ定メ監軍ノ裁定ヲ受ケ之ヲ旅團長ニ通告スヘシ)同上勅令ヲ以テ

第十四條 旅團長ハ(前條ノ通告ニ據リ)及第者ニハ一年志願兵認定證書ヲ付與シ落第者ニハ其旨ヲ通知スヘシ(同上勅令ヲ以テ(前條ノ通告ニ據リ)ヲ(試驗ノ成績ニ據リ及第落第ヲ定メ)ニ改ム

第八條但書ノ卒業者及第九條ニ當ル者ハ通常ノ徵兵ト同時ニ身體検査ヲ爲シ合格者ニハ一年志願兵認定證書ヲ付與シ不合格者ニハ其旨ヲ通知スヘシ但第九條ニ當ル者ノ認定證書ハ同條但書ノ届出ヲ爲シタルトキ之ヲ付與スルモノトス

第四條ニ當ル者ハ認定證書ノ外別ニ官費服役證書ヲ付與スヘシ  
 第十五條 一年志願兵ノ入隊期日ハ毎年十二月一日トス  
 第十六條 一年志願兵認定證書ヲ受ケタル者ハ入隊スヘキ年ノ十一月三十日迄ニ第二條若クハ第四條ノ金額ヲ所屬隊ニ納付スヘシ但入隊前外泊ノ許可ヲ受ケタル者ハ第二條ノ糧食費ヲ控除シ納付スヘシ  
 第十七條 一年志願兵ノ教育ニ關シテハ聯隊長其責ニ任スルモノトス  
 第十八條 一年志願兵中勤務熟達品行方正ニシテ豫備士官タル者得ヘキ材幹アル者ハ入隊ノ日ヨリ起算シ四箇月ノ後一等卒ヲ命シ通常教育ノ外特別ノ教育ヲ授ケ更ニ二箇月ノ後上等兵ト爲シ下士ノ勤務ヲ爲サシメ更ニ三箇月ノ後二等軍曹ノ階級ニ進メ諸勤務ヲ練習セシム  
 其服役滿期ニ際シテハ聯隊長終末試験委員ヲシテ第二十六條ノ格例ニ從ヒ終末試験ヲ爲サシメ其成績ヲ具シ師團長旅團長ヲ經テノ認可ヲ受ケ及第者ニハ終末試験及第證書ヲ授與シ一等軍曹ニ其落第者ハ二等軍曹ニ任シ豫備役ニ編入ス  
 第十九條 前條及第二十二條ノ選ニ當ラサル者ハ入隊ノ日ヨリ起算シ六箇月ノ後一等卒ヲ命シ更ニ三箇月ノ後上等兵ト爲シ通常教育ノ外下士タルノ教育ヲ授ケ服役滿期ノ際其成績優等ノ者ハ師團長ノ認可ヲ受ケ二等軍曹ニ任シ之ニ亞ク者ハ下士適任證書ヲ付與シ若クハ之ヲ付與セスシテ豫備役ニ編入ス

第二十條 第十八條及第二十二條ニ當ル者ニシテ疾病其他ノ事故ニ由リ豫備士官ト爲スノ見込ナキニ至リタルトキハ第十九條ノ例ニ準シ取扱フモノトス  
 第二十一條 醫學、藥學、理財學若クハ商業學ノ卒業證書ヲ所持スル者ハ步兵隊理財學、商業學所持スル者ハ師團司令部ニ獸醫學ノ卒業證書ヲ所持スル者ハ騎兵隊、野戰砲兵隊又ハ輜重兵隊ニ於テ前半年間隊列勤務ヲ爲シ後半年ノ初ニ於テ軍醫、藥劑生、獸醫生又ハ軍吏生ト爲リ各専門ノ勤務ヲ練習スルコトヲ得志願ノ者ハ入隊ノ際其卒業證書ヲ添へ出願スヘシ  
 前項ノ獸醫生タラントスル者ハ第二條ノ馬匹ニ關スル納金ヲ要セス  
 第二十二條 前條ノ志願者中勤務勉勵品行方正ニシテ豫備士官タル者得ヘキ志操アル者ハ入隊ノ日ヨリ起算シ四箇月ノ後一等卒ヲ命シ更ニ二箇月ノ後上等兵ヲ命スヘシ之ニ軍醫生、藥劑生、獸醫生、軍吏生ヲ命スルニハ師團監督部長若クハ軍醫長、獸醫長ヨリ師團長ノ認可ヲ受クルモノトス但軍吏生ト爲シタル者ハ下士ノ勤務ヲ爲サシメ上等兵ヲ命シタルトキヨリ更ニ三箇月ノ後三等書記ノ階級ニ進ムヘシ  
 第二十三條 軍醫生ノ教育ハ該隊上級醫官、藥劑生ノ教育ハ衛戍病院長、獸醫生ノ教育ハ該隊上級ノ獸醫官、軍吏生ノ教育ハ師團監督部長各其責ニ任スルモノトス  
 第二十四條 軍醫生、藥劑生、獸醫生ハ曹長同等ノ取扱ヲ受クルモノトス  
 第二十五條 軍醫生、藥劑生、獸醫生及軍吏生ト爲シタル者ハ服役滿期ノ際師團監督部長、軍醫長若クハ獸醫長終末試験委員ヲシテ第二十六條ノ格例ニ從ヒ終末試験ヲ爲サシメ其



及第者ニハ軍醫長、獸醫長ハ其成績ヲ具シ師團長ノ認可ヲ受ケ終末試験及第證書ヲ授與シ軍吏生ニ在テハ二等書記ニ任シ豫備役ニ編入ス

其落第者ニ在テハ軍醫生ハ三等看護長ニ藥劑生ハ二等調劑手ニ獸醫生ハ蹄鐵工下長ニ軍吏生ハ三等書記ニ任シ豫備役ニ編入ス

前二項ニ於ル下士ノ任官ハ軍醫生、藥劑生ニ在テハ軍醫長ヨリ陸軍省醫務局長、獸醫生ニ在テハ當該隊長ヨリ師團長、軍吏生ニ在テハ監督部長ヨリ陸軍省經理局長ノ認可ヲ受クルモノトス

第二十六條 師團長及師團監督部長ハ毎年一年志願兵ノ終末試験格例ヲ定メ豫メ之ヲ告達ス

第二十七條 終末試験委員ハ聯隊長、監督部長之ヲ編成ス

軍醫生、藥劑生、獸醫生ノ終末試験委員ハ師團長之ヲ編成シ軍醫長及獸醫長ノ指揮ニ屬ス

第二十八條 第十八條及第二十二條ニ依リ上等兵ト爲シタル者ハ成ルヘク兵卒ト居室ヲ異ニシ將校ト共ニ會食セシムヘシ

第二十九條 一年志願兵ノ服制ハ別ニ定ムルモノ、外其階級ニ應シ各兵科ノ下士兵卒ト同一トス但軍醫生、藥劑生、獸醫生ハ該隊長(下同一)ニシテ襟ニ特別ノ徽章ヲ附ス同上勅令ヲ以テ但書中(下同一)以下ノ十六字ヲ(軍吏生ニシテ三等書記ノ階級ニ進メタルハ該隊二等軍曹ト同一トス)ニ改ム

軍醫生、藥劑生、獸醫生、軍吏生ハ之ヲ命シタル日ヨリ襟ニ特別ノ徽章ヲ附ス同上勅令ヲ以テ但書中(下同一)以下ノ十六字ヲ(軍吏生ニシテ三等書記ノ階級ニ進メタルハ該隊二等軍曹ト同一トス)ニ改ム

第三十條 戰時若クハ事變ニ際シテハ一年志願兵ト雖モ通常ノ現役勤務ニ服セシムルコトアルヘシ二十八(四)月勅令第四號ヲ以テ(服セシムル)トアルヘシ)ノ下ニ(七)月七(七)日ヲ加フ

第三十一條 一年志願兵入隊前禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ死亡シタルトキハ其親族ヨリ旅團長ニ届出ヘシ

第三十二條 一年志願兵認定證書ヲ所持スル者疾病其他止ヲ得サル事故ニ由リ十二月一日ニ入隊シ難キトキハ證明書類ヲ添へ入隊延期ヲ旅團長ニ出願スヘシ

前項ノ事故アル者十二月三十一日ヲ過ルモ入隊シ難シト認ムルトキハ旅團長之ヲ次年廻シト爲シ聯隊長及本人ニ通知スヘシ

第三十三條 一年志願兵入隊シタルトキ若クハ次年廻シト爲リタルトキハ本籍所管大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ届出ヘシ

第三十四條 一年志願兵認定證書ヲ得タル者正當ノ事由ナクシテ其年十二月一日ニ入隊セサルトキハ一年志願兵タルノ資格ヲ失フモノトス

第三十五條 徵兵事務條例第五十三條(第六十七條及第六十八條)ハ一年志願兵ニモ亦適用ス但其豫備役ニ編入スヘキ者ハ國民兵役ニ編入ス同上勅令ヲ以テ(第六十七條第六十八條)ヲ(第六十五條第六十六條)ニ改ム

附則

第二十六條 明治二十七年以前一年志願兵トシテ服役シタル者ノ豫備役後備役年期ハ第七條ニ依ル但明治二十四年以前一年志願兵トシテ服役シタル者ノ後備役年期ハ豫備役年期ヲ通シテ十二箇年四箇月トス同上勅令ヲ以テ本條ヲ改正ス

○四百七 陸軍一年志願兵條例施行細則明治二十六年七月二十二日陸軍省令第十號

陸軍一年志願兵條例施行細則

- 第一條 條例第三條ノ所屬隊ヨリ給スル被服裝具ノ現品左ノ如シ
  - 一 第一種帽前立共
  - 二 第二種帽
  - 三 第一種衣袴
  - 四 第二種衣袴
  - 五 夏衣袴二者
  - 六 日履
  - 七 外套
  - 八 脚絆
  - 九 第一種手蹠
  - 十 背囊
  - 十一 被服手入具
  - 十二 飯盒
  - 十三 水筒
  - 十四 寢具
- 第二條 糧食費自辨ノ者ハ行軍若クハ野外演習中ノ糧食費亦自辨トス
- 第三條 條例第八條ノ願書ハ附錄第一第二樣式ニ承認書ハ第三樣式ニ證明書ハ第四樣式ニ依リ之ヲ作ル可シ

第四條 條例第十三條ノ身體検査終レハ軍醫ハ其成績ヲ陸軍將校生徒試験臨時委員ニ通知シ條例第十條ノ人名書ニ不參其他ノ事由ヲ記註シ體格検査表ヲ添ヘ師團長ニ報告シ師團長ハ之ヲ條例第八條ノ旅團長ニ交付ス

旅團長ハ其身體検査ニ不合格ノ者二十歳未満ノ者ヲ除ク體格検査表ヲ本籍地ノ旅管徴兵官ニ送付ス可シ

第五條 條例第十四條第二項ニ依リ身體検査ヲ爲ス可キ者ノ人名ハ旅團長ヨリ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ達シ同官之ヲ島司郡市長ニ通達シ島司郡市長ハ検査ノ時日及場所ヲ告示ス可シ

居住地旅管外ノ衛戍地ニ於テ服役セシコトヲ志願スル者ノ身體検査ハ衛戍地所管ノ旅團長東京衛戍地ニ在テハ步兵第一旅團長ヨリ居住地所管ノ旅團長ニ協議シテ之ヲ行フ可シ

事故アリテ指定ノ検査場ニ出頭シ難キ者ハ願ニ依リ他ノ徴兵署若クハ検査所ニ於テ身體検査ヲ受クルコトヲ得

前項ノ出願者アルトキハ甲乙大隊區司令官又ハ警備隊區司令官協議ノ上検査時日及場所ヲ定メ本人ニ達ス可シ

第六條 前條ノ身體検査終レ後大隊區司令官又ハ警備隊區司令官其人名書ニ不參其他ノ事由ヲ記註シ體格検査表ヲ添ヘ旅團長ニ呈ス

旅團長ハ其身體検査ニ不合格ノ者二十歳未満ノ者ヲ除ク體格検査表ヲ本籍地ノ旅管徴兵官ニ送付ス

可シ

第七條 第四條及第六條ノ身體検査不合格ノ者ハ旅管徴兵官徴集免除又ハ兵役免除ノ處分ヲ爲シ其一時徴集ニ適セサル者ハ大隊區徴兵官又ハ警備隊區徴兵官ヲシテ徴集延期ノ處分ヲ爲サシム可シ

第八條 旅團長ハ條例第十三條及第十四條第二項ノ検査ニ不參セル者並學術試験ニ落第セシ者<sup>二十歳未満者ヲ除ク</sup>本籍地ノ大隊區徴兵官又ハ警備隊區徴兵官ニ通知ス可シ

第九條 條例第十四條ノ一年志願兵認定證書ハ附録第五様式ニ官費服役證書ハ第六様式ニ依リ作ル可シ但條例(第七條)ニ依リ次年廻シト爲ス可キ者ハ官費服役證書ノ餘白ニ其旨ヲ記載ス可シ<sup>二十八年四月省令第五號ヲ以テ(第七條)ヲ(第六條第三項)ニ改ム</sup>

第十條 旅團長ハ同兵種二隊以上アル衛戍地ニ服役セントスル者ノ隊籍ヲ定ムルニハ成ル可ク之ヲ各隊ニ平均ス可シ

官費服役者中醫學、藥學、理財學若クハ商業學卒業證書ヲ所持スル者ハ步兵<sup>理財學、商業學卒業證書ヲ所持スル者ハ師團司令部所在地歩兵隊ニ限ル</sup>ニ獸醫學卒業證書ヲ所持スル者ハ騎兵隊、野戰砲兵隊又ハ輜重兵隊ニ配付ス可シ

第十一條 旅團長ハ一年志願兵認定證書ヲ付與シタル者ヲ自費服役、官費服役、次年廻シ等ニ區別シ其人名書ニ體格検査表ヲ添ヘ當該聯隊長<sup>聯隊長ヲ爲サ、ル隊ニ在</sup>ニ下付シ又其人員ヲ師團長ニ報告ス可シ

第十二條 聯隊長ハ前條ノ一年志願兵ニシテ十二月一日ニ入隊セサル者アルトキハ其人名ヲ旅團長ニ報告ス可シ

第十三條 條例第三十一條第三十二條第二項第三十四條及入隊前第三十五條ニ當ル者アルトキハ旅團長ハ其旨ヲ聯隊長ニ通知シ師團長ニ報告ス可シ但二十歳以上ノ者ニ在テハ本籍地ノ大隊區徴兵官警備隊區徴兵官ニモ亦通知ス可シ

前項ノ者官費服役者ナルトキハ條例第七條ニ依リ次年廻シト爲シタル者ヲ繰上ケ十二月三十一日迄ニ入隊セシムルコトヲ得

第十四條 一年志願兵徵募事務終結後師團長ハ附録第七様式ニ依リ一年志願兵人員表ヲ作り翌年一月十五日迄ニ陸軍大臣ニ報告ス可シ

第十五條 條例第二十一條ニ依リ軍醫生、藥劑生、獸醫生及軍吏生ヲ志願スル者アルトキハ聯隊長其願書及卒業證書寫ヲ師團監督部長若クハ軍醫長若クハ獸醫長ニ送附シ監督部長軍醫長獸醫長ヨリ師團長ノ認可ヲ受ケ後半年ノ初ニ於テ聯隊長ヲ經由シ之ヲ命スルモノトス

藥劑生ハ衛戍病院ニ軍吏生ハ師團監督部ニ派遣シ勤務ヲ練習セシムルモノトス

第十六條 軍醫生、藥劑生、軍吏生ト爲シタル者ハ貸與セシ兵器ヲ返納セシメ更ニ徒歩刀ヲ給ス獸醫生ト爲シタル者ハ軍刀或ハ砲兵刀ヲ除クノ外兵器ヲ返納セシム

第十七條 師團長ハ一年志願兵終末試験終リタルトキ附録第八様式ニ依リ成績表ヲ作り陸

軍大臣ニ報告ス可シ

條十八條 一年志願兵終末試験及第證書ハ附録第九様式ニ依リ各部各隊ニ於テ製ス可シ

第十九條 一年志願兵入隊前轉住其他止ヲ得サル事故ニ依リ隊籍變更ヲ願出ル者アルトキ

ハ旅團長之ヲ許可スルコトヲ得但所轄外ニ係ルモノハ豫メ當該旅團長ト協議スルコトヲ要ス

第二十條 一年志願兵現役ヲ免シ若クハ死亡シタルトキハ資費ヲ精算シ殘金アレハ之ヲ還付ス

第一様式

十八年四月省令第五號ヲ以テ本表中(第十一條)ヲ(第十三條)ニ改ム

一年志願兵服役願

私儀徵兵令(第十一條)ニ依リ服役中ノ費用全額ヲ自辨シ何地何兵隊ニ於テ一年志願兵トシテ服役致度志願ニ候間御認可相成度別紙某學校卒業證書寫相添此段奉願候也

年月日

步兵第何旅團長(爵)氏名殿

府(縣)郡(市)町(村)番地住  
府(縣)郡(市)町(村)番地寄留  
鹽(土)族(平民)

氏

名印  
年月日生

條例第九條ニ當ル者ハ「卒業證書寫」ノ五字ヲ「長證明書」ノ四字ニ換ヘ戸主ニアラサル者及二十歳未滿ノ者ハ「相添」ノ上ニ「戸主(後見人)ノ承認書」ノ字ヲ挿入シ學術試験ヲ受クヘキ者ハ「御認可」以下ヲ「學術試験」ノ上御認可相成度(戸主、後見人)ノ承認書相添此段奉願候也」ニ作ル

第二様式

同上省令ヲ以テ本表中(第十一條)ヲ(第十三條)ニ改ム

一年志願兵官費服役願

私儀徵兵令第十一條ニ依リ一年志願兵トシテ服役致度志願ニ候處志願中ノ費用全額自辨ス可キ資力無之候ニ付糧食費ヲ自辨仕候間其他ハ官費ヲ以テ服役ノ儀御認可相成度別紙某學校卒業證書寫相添此段奉願候也

府(縣)郡(市)町(村)番地住

府(縣)郡(市)町(村)番地寄留

鹽(土)族(平民)

年月日

氏

名印  
年月日生

步兵第何旅團長(爵)氏名殿

第一様式欄外ノ記注ハ本様式ニ適用ス  
第二様式

一年志願兵服役承認書

右者一年志願兵トシテ服役致度志願ニ候處服役中ノ費用金何圓無相違上納可爲致候也

氏名

年月日

府(縣)郡(市)町(村)寄地住  
府(縣)郡(市)町(村)寄地寄留  
月主(後見人)

氏名印

年月日生

條例第四條ニ當ル者ハ本文「金何圓無相違上納」ノ八字ヲ「全額自辨スヘキ資力無之候得共糧食費金三十八圓ハ無相違自辨」ノ字ニ換フ  
第四様式

身元證明書

氏名

一禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナシ  
一何年何月罰金何圓ニ處ヒラル或ハ何年何月何々ノ罰ニ處セラレ等

一戸主或ハ本人何種公債證書或ハ株券金額何千何百圓ヲ所有スル等  
一戸主或ハ本人官廳或ハ會社等ヨリ受クル給料何千何百圓等  
一何々ノ所得年額何千何百圓等  
右相違無之ニ付一年志願兵服役中ノ費用全額ヲ自辨シ得ルコトヲ證明ス  
年 月 日 府(縣)郡(市)町(村)寄地住 氏名 印

條例第四條ニ當ル者ハ「右相違無之」云々ヲ「右相違無之候得共一家ノ生計ヲ立テ餘裕無之付ニ糧食費ノ外自辨シ能ハサルコトヲ證明ス」ニ作ル  
(第五乃至第九様式等)

第二款 陸軍志願兵身體檢查規則

○第四百八 陸軍志願兵身體檢查規則 明治二十五年三月二十六日

明治二十二年三月陸軍第三十九號陸軍志願兵身體檢查規則左ノ通改正ス

陸軍志願兵身體檢查規則

第一條 陸軍志願兵 徵兵事務條例施行細則 身體檢查ハ其身材ノ合格ト不合格トヲ判別スルモノトス而シテ此檢查ハ學術上諸種ノ方法ヲ施スコトヲ得  
此規則ハ陸軍士官候補生並陸軍諸生徒志願者ノ身體檢查ニ適用ス  
第二條 志願者一日ノ檢查人員ハ教官一名ニ付概テ四十名トス

第三條 志願者ノ身長ヲ定ムルコト左ノ如シ但別ニ規定スル所アルモノハ此限ニ非ス

滿十五歲以上 四尺七寸以上

滿十六歲以上 四尺八寸以上

滿十七歲以上 四尺九寸以上

滿十八歲以上 五尺以上

第四條 體格ヲ區別スルコト左ノ如シ

一 合格 徵兵検査規則第三條ノ甲種乙種ニ該當スルモノ身長ノ制限ハ本則第三條ニ據ル

二 不合格 前項ニ該當セザルモノ

第五條 近視ノモノハ合格トナスコトヲ得ス但各兵科士官候補生志願者ニ在テハ二十尺ノ距離ニ於テ眼鏡ヲ用ヒス斯涅兒連氏視力表ノ三十號ヲ視得ルモノ一年志願者ニ在テハ同

百號ヲ視得ルモノヲ採ルコトヲ得衛生部士官候補生志願者ニ在テハ尙高度ノモノヲ採ルモ妨ナシ

第六條 一年志願兵志願者ニ限リ第四條ノ不合格中二十歲未滿ノ者ヲ除ク徵兵検査規則第三條ノ丙種若クハ丁種若クハ戊種ニ當ルヘキモノナルコトヲ區別スヘシ

第七條 醫官ハ検査終了後一週日以内ニ體格表(第一式)ヲ調製シテ所管軍醫長ニ報告シ軍醫長ハ之ヲ陸軍省醫務局長ニ呈スヘシ

第八條 士官候補生並諸生徒志願者ノ體格検査表(第二式)ハ検査終了後士官候補生並諸生徒ノ屬スヘキ部隊各兵科士官候補生及幼年學校生徒志願者ノ検査表ハ師團司令部ヲ送附スヘシ

徒ノ屬スヘキ部隊司令部並諸國生徒志願者ノ検査表ハ大隊區司令部ヲ送附スヘシ

(第一式第二式等)

徒ノ屬スヘキ部隊司令部並諸國生徒志願者ノ検査表ハ大隊區司令部ヲ送附スヘシ

第四款 陸軍下士服役並下士免役出願及身分異動等届出ノ件

○第四百九 陸軍下士服役規則明治十七年四月十八日陸軍省通甲第十七號府廳

陸軍下士服役規則左之通改正候條此旨相達候事

陸軍下士服役規則

第一條 凡陸軍下士ト稱スルモノハ陸軍武官官等表ニ揭示スル所ノ各兵各部ノ下士ヲ併セ稱スルモノトス

第二條 歩騎砲工輜重兵下士服役年限ハ初メテ下士ニ任スル日ヨリ滿十二ケ年トス其前七ケ年ハ常備役現役五ケ年ニ服シ後五ケ年ハ後備役ニ服セシム

第三條 騎兵蹄鐵工長騎兵蹄鐵工下長砲兵監護砲兵監守砲兵監查砲兵諸工長砲兵諸工下長工兵監護會計書記看護長馬醫衛生軍樂次長軍樂手ノ服役年限ハ初メテ下士ニ任スル日ヨリ滿十二ケ年トス其前九ケ年ハ常備役現役七ケ年ニ服シ後三ケ年ハ後備役ニ服セシム但騎兵蹄鐵工長騎兵蹄鐵工下長軍樂次長軍樂手ノ服役年限ハ騎兵蹄鐵工又ハ樂生ヲ命スル日ヨリ起算ス

憲兵下士ノ服役年限ハ憲兵下士ニ任スル日ヨリ更ニ七ケ年間現役ニ服セシム其役終ルノ後ハ舊兵科ニ復シ初メテ下士ニ任スル日ヨリ算シ十二ケ年ニ滿タサル者ハ後備役ニ服セ

第四條 豫備役中ノ兵卒ヨリ豫備役ノ下士ニ任ズル者ハ兵卒中豫備服役ノ日數ヲ通算シテ四ヶ年間服役ノ後尙ホ五ヶ年間後備役ニ服セシム

後備役中ノ兵卒ヨリ後備役ノ下士ニ任ズル者ハ兵卒中後備服役ノ日數ヲ通算シテ五ヶ年間後備役ニ服セシム

第五條 常備現役満期ノ後尙ホ現役ニ服セシコトヲ請フ者ハ詮議ノ上再ヒ服役スルヲ許ス

第六條 前條再服役ハ第二條ノ下士ニ在テハ四ヶ年第三條ノ下士ニ在テハ三ヶ年ヲ以テ一期トス其再服役満期ノ後尙ホ現役ニ服役セシコトヲ請フ者ハ更ニ詮議ノ上之ヲ許ス

但再服役志願ノ者第二條ノ下士ニ在テハ四ヶ年未滿第三條ノ下士ニ在テハ三ヶ年未滿ニシテ年齢制限ニ至ル者ハ其年限ニ至ル迄服役セシム

第七條 第二條ノ下士ニ在テハ七ヶ年第三條ノ下士ニ在テハ五ヶ年再服役ノ後其役ヲ免除スル者ハ後備役ニ服セサルヲ法トス然レトモ後備軍(艦員)タラントヲ請フ者其年限ヲ定メ願出ルトキハ詮議ノ上之ヲ許ス

第八條 常備現役中(疾病ノ故ニアラサシテ)其役ヲ免除スル者ハ第二條ノ下士ニ在テハ服役五ヶ年未滿第三條ノ下士ニ在テハ服役七ヶ年未滿ナシハ直ニ豫備役ヲ命シ其現役ニ服セシ日數ト通算シ第二條ノ下士ニ在テハ七ヶ年第三條ノ下士ニ在テハ九ヶ年間服役ノ後尙ホ第二條ノ下士ニ在テハ五ヶ年間第三條ノ下士ニ在テハ三ヶ年間後備役ニ服セシム

十九年五月廿五日令甲第二十三號ヲ以テ(疾病ノ故ニアラサシテ)ナ  
(備前現役ニ服シ現役ニ在テハ難ク或ハ第十四條ニ依リ)ニ改ム

第九條 再服役中(疾病ノ故ニアラサシテ)其役ヲ免除スル者服役ニヶ年未滿ナレハ直ニ豫備役ヲ命シ其現役ニ服セシ日數ト通算シ第二條ノ下士ニ在テハ七ヶ年第三條ノ下士ニ在テハ五ヶ年間服役ノ後尙ホ第二條ノ下士ニ在テハ三ヶ年間後備役ニ服セシム

第十條 再服役中(疾病ノ故ニアラサシテ)其役ヲ免除スル者服役ニヶ年以上ナレハ直ニ後備役ヲ命シ其再役ニ服セシ日數ト通算シ第二條ノ下士ニ在テハ七ヶ年第三條ノ下士ニ在テハ五ヶ年間服役ニ服セシム

第十一條 禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中ノ日數及ヒ逃亡中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス

但官職ヲ失ヒ兵卒トナル者及兵卒トナリタル者行政ノ處分ヲ以テ原官ニ復シタル者ノ前役ノ日數ハ之ヲ除クハ之ヲ算入ス

第十二條 第二條ノ下士ニシテ第三條ノ下士ニシテ第三條ノ下士ニシテ第二條ノ下士ニ轉スル者ハ前後ヲ通算シ其服役年期ニ應シ常備或ハ後備役ニ服セシム

第十三條 常備現役中ハ自己ノ望ニ依リテ他ノ仕官ヲ求ムルヲ得サルノミナラス假令疾病ニ罹ルト雖モ陸軍軍醫官ノ診断ニ依ラスシテ自ラ免除ヲ請フヲ得ス

第十四條 常備現役中ハ家事ノ故障ヲ以テ免除ヲ請フコトヲ許サス然レモ父兄又ハ家事擔

當ノ者死亡シ或ハ廢疾老羸又ハ重罪ノ刑ニ處セラレ在役者ヲ要スルニ非アレハ一家ノ生計ヲ失フカ如キ已ムヲ得サル事故ヲ生スル者ハ詮議ノ上免除スルコトアルヘシ  
但常備現役中養子分家又ハ他家相續人トナリ本條ノ事故ヲ生スル者ハ免除ノ詮議ニ及ハス

第十五條 前條ノ如キ已ムヲ得サル事故ヲ生シ免除ヲ願フ者ハ本人親族二名連署ノ願書ニ其事由ヲ詳記シ戶長並ニ郡區長及ヒ管轄廳ノ與書證印ニ尙ホ府縣郡區駐在官ノ與書證印ヲ要シ家族書廢疾ノ者ハ外ニ地方醫師診斷書又重罪ヲ添ヘ本人ノ所管ヘ願出ツヘシ

第十六條 豫備役並ニ後備役中ノ下士ハ本籍ニ歸住シ地方所管鎮臺ノ統轄ニ屬シ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス又平常ニ在テハ復習ノ爲メ召集スル者トス

第十七條 下士各服役ノ期限已ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアルヘシ  
但本條ニ據リ延期シタル後豫備役或ハ後備役ヲ命スル者其服役ハ前役滿期ノ日ヨリ之ヲ起算スヘシ

第四百十 陸軍各兵下士補充條例ニ據リ現役免除出願ノ件明治二十一年五月二十四日陸軍省訓令甲第三號北海道府縣本年勅令第十七號陸軍各兵科現役下士補充條例第八條ニ據リ現役免除ヲ願フ者其事故父兄ノ死亡處刑若クハ失踪等ハ戶長ノ證明書廢疾不具等ハ醫師ノ診斷書ヲ其親族ヨリ本人ヘ送付セシムヘシ

●陸軍各兵科現役下士補充條例明治二十一年三月三十日(三月三十一日)公布

第八條 現役中本人ヲ要スルニアラサレハ一家ノ生計ヲ營ミ難キ事故ヲ生スルトキハ本人ノ願ニ依リ現役ヲ免スルコトヲ得

第四百十一 陸軍下士服役規則ニ據リ現役免除出願方ノ件明治二十一年八月十八日陸軍省訓令甲第七號北海道府縣

明治十七年當省達申第十七號達陸軍下士服役規則第十四條ニ依リ現役免除ヲ願フ者ハ本年當省訓令甲第三號ノ手續ヲ爲シ本人ヨリ所管長官ニ出願セシムヘシ

第四百十二 各兵隊下士徵兵令ニ照シ召集ノ者ノ外身分異動等届出方ノ件明治二十一年十二月二十日陸軍省達申第二十六號府縣

各兵隊下士兵卒徵兵令ニ照シ召集スル者ヲ除ノ外府縣貫屬替或ハ養子及離縁并族籍變換改姓名等有之節ハ其管轄廳ヨリ本人所管廳ヘ准士官以上並文官ハ本省ヘ可届出旨去ル明治六年布第二百二十六號同九年達第六十九號ヲ以テ相達置候處右ハ本人ヨリ夫々其所管ヘ直ニ可届出旨ニ付自今府縣廳ヨリ別段届出ニ不及候條此旨相達候事

第五款 歸休兵並豫備後備役ニ關スル件  
第一節 陸軍歸休兵條例及憲兵卒概則

第四百十三 陸軍歸休兵條例明治二十二年十二月二十八日(十二月三十日)公布  
陸軍歸休兵條例明治二十二年十二月二十八日(十二月三十日)公布



陸軍歸休兵條例

- 第一條 陸軍現役兵中徵兵令第十二條ニ依リ歸休ヲ命ス可キ者ハ二箇年以上服役シタル者ニ限リ警備隊諸兵ハ八箇月以上在營シタル者ニ限ル
- 第二條 歸休ヲ命ス可キ人員ハ其都度陸軍大臣上裁ヲ經テ之ヲ定ム
- 第三條 歸休兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ召集ス平常ト雖モ演習ノ爲メ又ハ原隊ニ於テ臨時兵員ノ補缺ヲ要スルトキハ之ヲ召集ス
- 第四條 歸休兵在郷中ハ「本籍」大隊區司令官ノ監視ニ屬ス二十七年十月勅令第百八十二號ヲ以テ(本籍)ノ二字ヲ加フ
- 第五條 歸休兵在郷中現役滿期ニ至リタルトキハ別ニ命ナクシテ豫備役ニ入ルモノトス
- 第六條 歸休兵ハ官廳ニ奉職スルコトヲ得但奉職ノ故ヲ以テ召集ヲ猶豫若クハ免除スルコトナシ
- 第七條 休歸兵ハ退營後七日以内ニ衛戍地ヲ出發シ一日行程十里詰ヨリ勘ナカラサル日數間ニ歸郷シ著後七日以内ニ市町村長東京京都大阪ノ三市ニ在テハ區長以下之ニ依リヲ經テ監視區長ニ届出可シ退營後衛戍地若クハ其他ノ地ニ八日以上滞在若クハ寄留セント欲スルトキハ本條ノ出發期日内ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報ス可キ者ヲ定メ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ但歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲ス可シ
- 前項ノ滞在地若クハ寄留地本籍地外ノ大隊區ニ係ルトキハ其ノ地ノ市町村長ヲ經テ同地監視區長ニモ届出ヘシ但本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲ストキ亦同シ同上勅令ヲ以テ本項ヲ追加ス

- 第八條 歸休兵在郷中傷疾若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ
- 第九條 歸休兵在郷中兵籍上異動ヲ生シタルトキハ七日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ但監視區外ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ監視區長ニ届出可シ
- 第十條 歸休兵在郷中七日以上ノ旅行又ハ寄留セント欲スルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報ス可キ者ヲ定メ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ但歸郷シタルトキハ七日以内ニ市町村長ヲ經テ其由ヲ監視區長ニ届出可シ
- 前項ノ寄留地本籍地外ノ大隊區ニ係ルトキハ寄留地市町村長ヲ經テ同地監視區長ニモ届出ヘシ但本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲ストキ亦同シ同上勅令ヲ以テ本項ヲ追加ス
- 第十一條 歸休兵ハ外國ニ旅行又ハ寄留スルヲ許サス
- 對馬警備隊區ニ在テハ朝鮮國釜山ニ旅行又ハ寄留スルコトヲ得但此場合ニ於テハ第十條「第一項」ノ例ニ依ル可シ同上勅令ヲ以テ(第十條)ノ下ニ(第一項)ノ三字ヲ加フ
- 第十二條 歸休兵在郷中死亡又ハ失踪シタル者「アルトキ及失踪中戶籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戶主本人戶主ナレハ家族」ヨリ七日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ失踪ノ者歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但監視區外ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ監視區長ニ届出ヘシ同上勅令ヲ以テ(アルトキ)ノ下ニ(ハ親族)トアルヲ「アルトキ」及「以下割註トモ二十八字ニ改メ末文ニ(但)以下三十一字ヲ加フ
- 家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ監視區長ニ通知スヘシ

第十三條 歸休兵在郷中重罪輕罪<sup>刑罰法</sup>ノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其ノ戶

主<sup>本ノ戸主ナリ</sup>ヨリ七日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ<sup>同上勅令ヲ以テ(記シ)ノ下(其親族)トアルヲ(其ノ戸主)以下割書ノ一項ヲ追加ス</sup>

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ監視區長ニ通知スヘシ

第十四條 歸休兵演習又ハ臨時兵員補缺ノ爲メ召集ノ命ヲ受ケタルトキ傷痰疾病其他ノ事故ニテ歸營シ難キトキハ傷痰疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書其他ノ事故ハ證明書ヲ添ヘ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ監視區長ニ届出可シ<sup>同上勅令ヲ以テ(歸休兵)ノ下(演習又ハ臨時兵員補缺)ノ十三字ヲ加フ</sup>

第十五條 本條例中兵ト稱スルハ徵兵令ニ依リ徵集セタル雜卒職工ヲ包含ス

第十六條 警備隊諸兵ニシテ定期退營シ又ハ輜重輸卒ニシテ退營シ尙ホ現役中ニ在ル者ハ總テ本條例ニ依ル

第十七條 第七條第一項及第二項第十條第一項及第十一條第二項第十二條第十三條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス<sup>同上勅令ヲ以テ(第七條)ノ下(第一項)ノ三字(第十一條第二項)ノ下(第十二條第十三條)ノ八字ヲ加フ</sup>

第十八條 第七條第十條ノ通報人ニシテ正當ノ事由ナク召集ノ命ヲ通報セス若クハ其通報ヲ遲緩シタル者及第十一條第一項ニ違背シタル者ハ一日以上十日以下ノ勾留ニ處ス

第十九條 本條例中大隊區司令官トアルハ警備隊區ニ於テハ警備隊區司令官監視區長トアルハ警備隊區副官監視區トアルハ警備隊區トス

附 則

第二十條 市制町村制ヲ實施セサル地方ニ在テ本條例中市町村長ノ職務ハ戶長ニ於テ之ヲ行フ可シ

○第四百十四 憲兵卒概則<sup>明治十八年一月六日陸軍省發第一號府縣</sup>

憲兵卒概則左ノ通相定候條此旨相違候事但憲兵下士卒選舉概則ハ廢止ス

憲兵卒概則 第一條 憲兵卒ハ憲兵條例第十八條ニ基ツキ近衛及ヒ鎮臺ノ常備並ニ後備服役ノ兵卒<sup>二箇年以テ</sup>

ニ依リ外宿ヲ許スコトヲ得 第二條 憲兵卒ハ其入隊ノ日ヨリ管區内ノ合宿所ニ居住セシム但憲兵隊長ハ大隊長ノ具申

テ兵卒トナリタル日ヨリ算シ<sup>服役早期ノ計算ハ徵兵令第十二條ニ依ル以下之ニ同シ</sup>十二箇年ニ滿タサル者ハ舊兵科ニ復シ

近衛若クハ鎮臺ノ後備兵役ニ服セシム 第四條 現役滿期ノ後尙ホ現役ニ服センコトヲ請フ者ハ證議ノ上再ヒ服役スルヲ許ス

第五條 前條再服役ハ三ヶ年ヲ以テ一期トス其再願者滿期ノ後尙ホ現役ニ服センコトヲ請フ者ハ更ニ證議ノ上之ヲ許ス但再服役志願ノ者三ヶ年未滿ニシテ年齡定限ニ至ル者ハ其定限ニ至ル迄服役セシム

第六條 憲兵卒ノ品行不正又ハ任務不治等ノ者アルトキハ憲兵隊ヲ除キ初メテ兵卒トナリタル日ヨリ算シ十二箇年ニ滿タサル者ハ舊兵科ニ復シ其服役年限ニ應シ鎮臺ノ常備或ハ後備兵役ニ服セシム

第七條 服役中ハ家事ノ故障ヲ以テ免除ヲ請フコトヲ許サス然レモ戸主若クハ父兄等死歿シ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレ或ハ痲疾不具等トナリ本人ヲ要スルニアラサレハ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルトキハ詮議ノ上免除スルコトアル可シ但服役中養子分家又ハ他家相續人トナリタル者ハ本條ノ事故ヲ生スルモ免除ノ詮議ニ及ハス

第八條 前條ニ依リ免除シタルトキハ初メテ兵卒トナリタル日ヨリ算シ十二箇年ニ滿タサル者ハ舊兵科ニ復シ其服役年限ニ應シ近衛若クハ鎮臺ノ常備或ハ後備兵役ニ服セシム但常備兵役ニ服ス可キ者ノ内未タ定期ノ服役ヲ終ヘサル者ハ其年限内郷里ニ歸休セシム

第九條 第七條ノ事故ヲ生シ免除ヲ願フ者ハ本人親屬以上連署ノ願書ニ其事由ヲ詳記シハ長並ニ郡區長及ヒ管轄廳ノ與書證印ニ尙ホ郡區及ヒ府(縣)駐在官ノ與書證印ヲ受ケ家族書癩疾ノ者ハ外ニ地方醫師診斷書又重罪ノ者ハ刑名實告ノ書ヲ添ヘ憲兵本部ニ願出ツ可シ

第十條 憲兵卒ノ召募ハ陸軍卿其人員及ヒ檢査格例ヲ定メ近衛都督又ハ鎮臺司令官ニ牒告シ各軍管ニ檢査官ヲ派出シ格例ニ準據シテ檢査ヲ爲シ選舉セシムルヲ例トス故ニ憲兵本部長ハ之ヲ要スルニ當リ召募ノ事ヲ上申ス可シ但時宜ニ依リ近衛又ハ某鎮臺ヲ限リ召募セシムルヲアル可シ

第十一條 近衛都督ハ憲兵卒召募ノ牒告ヲ受レハ各隊長ニ達シ現役在營中ノ志願者ニシテ第一條ニ適當ノ者ヲ調査セシム

鎮臺司令官ハ憲兵卒召募ノ牒告ヲ受レハ各隊長及ヒ後備軍司令官ニ達シ常備並ニ後備近衛兵及ヒ後備兵モ包含ス 服役中ノ志願者ニシテ第一條ニ適當ノ者ヲ調査セシム但時宜ニ依リ現役在營中ノ志願者ノミ調査セシムルモ妨ケナシ

第十二條 隊長ハ憲兵卒調査ノ達アレハ該隊中ノ志願者ヲ調査シ第一條ニ適當ノ者ト認ムルトキハ其人名簿ヲ製シ近衛都督若クハ鎮臺司令官ニ呈ス可シ

第十三條 後備軍司令官ハ憲兵卒調査ノ達アレハ府縣駐在官ニ達シ豫備後備兵及ヒ歸休兵中ノ志願者ヲ調査セシム駐在官ハ其志願者ヲ調査シ第一條ニ適當ノ者ト認ムルトキハ其人名簿ヲ製シ後備軍司令官ニ呈ス可シ

第十四條 後備軍司令官ハ前條駐在官ヨリ出ス所ノ人名簿ヲ審査シ意見アレハ之ヲ取捨シ近衛鎮臺ノ豫備後備兵及ヒ歸休者ヲ區別シ更ニ志願者ノ人名簿ヲ製シ鎮臺司令官ニ呈ス可シ

第十五條 近衛都督鎮臺司令官ハ隊長又ハ後備軍司令官ヨリ憲兵卒志願者ノ人名簿ヲ出ストキハ點檢ノ上之ヲ憲兵本部ニ送付ス可シ

第十六條 憲兵本部長ハ憲兵卒志願者ノ人名簿ヲ受領スルトキハ之ヲ檢査官ニ付ス可シ檢査官ハ其人名簿ニ依リ檢査格例ニ準據シ檢査ヲ爲シ合格ノ者ハ其優等順序ニ從ヒ一連ノ番號ヲ附シ憲兵卒合格名簿ヲ製シ檢査ニ係ル一切ノ書類ト共ニ之ヲ憲兵本部長ニ呈ス可シ

第十七條 憲兵本部長ハ憲兵卒合格名簿ニ就キ優等ノ者ヨリ順次ニ定員ヲ選抜シ其採用ス可キ者ノ姓名及ヒ所屬隊號ヲ記載シ(陸軍卿ニ上申シ許可ヲ得)所管ニ照會シテ入隊セシ

同甲第三十號ヲ以テ(陸軍卿ニ  
上申シ許可ヲ得)ノ十一字ヲ削除ス  
第十八條 豫備兵後備兵及ヒ歸休兵中ノ志願者ニシテ検査ノ爲メ鎮臺或ハ營所等ニ往復ス  
ル旅費ハ總テ自辨タルヘシ

第二節 陸軍豫備後備將校下士兵卒服役條例及後備役服役中  
養子分家相續等届出方並豫備役兵卒豫備徵員滿期後名簿  
保存方ノ件

○第四百十五 陸軍豫備後備將校服役條例 明治二十二年十二月二十八日(十二月三十日公布)  
陸軍豫備後備將校服役條例 勅令第四十三號

陸軍豫備後備將校服役條例

第一條 陸軍豫備後備將校ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ師團長ノ管轄ニ屬ス

(北海道徵兵令未行地在籍ノ豫備後備將校ハ北海道ノ兵籍ニ編入シ屯田兵司令官ノ管轄ニ  
屬ス) 二十三年八月勅令第八十號ヲ以テ本項ヲ追加  
シ二十七年十月勅令第八十號ニ依リ削除ス

第二條 豫備後備將校ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ勤務演習ノ爲メ召  
集スルコトアル可シ

第三條 豫備後備將校ハ召集ニ應スルトキ及朝拜參賀公私ノ儀式祭典其他廉アル(宴會ニ  
列スル時ニ限リ)陸軍ノ制服ヲ著スルモノトス但文官ニ任セラレタル者ハ召集ノ場合ニ

除クノ外文官ノ制服ヲ著スルモ妨ケナシ (同上勅令ヲ以テ(宴會ニ列スル時ニ限リ)  
(宴會等ノ場所ニ列スルトキハ)ニ改メ)  
第四條 豫備後備將校ニシテ文官ニ任セラレ餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル者及  
市町村長助役收入役ト爲ル者ハ勤務演習ノ爲メ召集スルコトナシ

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲ル者其開會中亦同シ

餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル者ハ豫メ當該官廳ヨリ内閣ニ具狀シ認可ヲ請ケ  
本人所管ノ師團長ニ通達ス可シ其事故止ミタルトキ亦同シ

第五條 豫備後備將校ハ現役將校同等官ノ次席トス

第六條 豫備後備將校服役滿期ニ至リタルトキハ辭令ヲ用キズシテ豫備ハ後備ニ後備ハ退  
役ニ入ル者トス

豫備後備滿期後引續キ服役セント欲スルトキハ年數ヲ定メ陸軍大臣ニ申請ス可シ

第七條 豫備後備將校傷疾若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官  
ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ退役ヲ陸軍大臣ニ申請ス可シ

第八條 豫備後備將校ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召集ノ猶豫ヲ願フ者ハ其事實  
ヲ證明シ師團長ノ許可ヲ請フ可シ

第九條 豫備後備將校ニシテ他ノ師管ニ寄留シ該師管ニ於テ勤務演習ヲ爲サント欲スル者  
ハ所轄師團長ノ許可ヲ請フ可シ但許可ヲ受ケタルトキハ「豫備後備ノ編入年、現官ニ任セ  
ラレタル年月及當テ勤務演習ヲ爲シタル年月ヲ記シ其ノ由ヲ」寄留地ノ師團長ニ届出可  
シ (同上勅令ヲ以テ(タルトキハ)ノ下(豫  
備後備ノ編入)以下四十字ヲ加フ)

第十條 現役ヨリ豫備若クハ後備ニ入ル將校歸郷シタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出  
可シ

從前ノ在職地若クハ其他ノ地ニ一箇月以上滞在若クハ寄留セント欲スルトキ若クハ歸郷  
旅行日數一箇月以上ヲ要スルトキハ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報ス可キ

者ヲ定メ師團長ニ届出可シ但歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲ス可シ  
 前項ノ滞在地若クハ寄留地本籍地外ノ師管ニ係ルトキハ其ノ地ノ師團長ニモ届出ヘシ但  
 本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲ストキ亦同シ同上勅令ヲ以テ本項ヲ加フ  
 第十一條 豫備後備將校兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出可シ但師  
 管外ニ戸籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ師團長ニ届出可シ  
 第十二條 豫備後備將校十四日以上ノ旅行或ハ寄留セントスルトキハ召集ノ命アルトキ之  
 ヲ通報ス可キ者ヲ定メ師團長ニ届出可シ但歸郷シタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出  
 可シ  
 第十三條 寄留地本籍地外ノ師管ニ係ルトキハ其ノ地ノ師團長ニモ届出ヘシ但本籍ニ復歸シ  
 若クハ寄留替ヲ爲ストキ亦同シ同上勅令ヲ以テ本項ヲ加フ  
 外國ニ旅行中又ハ寄留中ハ勤務演習ノ爲メ召集スルコトナシ  
 外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受ケ又ハ其ノ他ノ手續ニ由リ充員若クハ後備軍召集ノ舉アル  
 コトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到着後二十四時以内ニ師團長ニ届出ヘシ同上  
 第十三條 豫備後備將校ニシテ市町村長、助役、收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議  
 會ノ議員ト爲リタルトキ並ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出可シ  
 第十四條 豫備後備將校ニシテ死亡又ハ失踪シタル者アルトキ及失踪中戸籍ヲ轉換シタル  
 トキハ其ノ戸主本人戸主ヲ指スヨリ十四日以内ニ師團長ニ届出可シ失踪ノ者歸郷シタルトキ若  
 クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但師管外ニ戸籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ師團  
 長長ニ届出ヘシ同上勅令ヲ以テ本項ヲ加フ  
(アルトキ)以下別註共三十二字ニ改メ(亦同シ)ノ下ニ附帶ヲ加フ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ大隊區司令官ニ通知スヘシ  
同上勅令ヲ以テ本項ヲ加フ  
 第十五條 豫備後備將校重罪輕罪罰金ヲノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其ノ  
 戸主本人戸主ヲ指スヨリ十四日以内ニ師團長ニ届出可シ同上勅令ヲ以テ本項ヲ加フ  
(其ノ戸主)及別註共三十三字ニ改ム  
 家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ大隊區司令官ニ通知スヘシ  
同上勅令ヲ以テ本項ヲ加フ  
 第十六條 豫備後備將官ヨリ陸軍大臣ニ差出ス願書ハ師團長ヲ經由シ佐官以下ノ將校ヨリ  
 師團長ニ差出ス願書ハ大隊區司令官豫備隊區ニ在テハ及旅團長ヲ經由シ陸軍大臣ニ差出ス  
 願書ハ大隊區司令官旅團長及師團長ヲ經由ス可シ  
 第十七條 本條例ハ豫備後備ノ將校相當官ニ適用ス  
 第十八條 本條例中師團長若クハ旅團長ノ職務ハ第七師管ニ在テハ師團旅團設置迄屯田兵  
 司令官之ヲ行フ二十三年八月勅令第九十號ヲ以テ本條ヲ追加シ  
 第十九條 第十條第一項及第二項「第十一條第十二條」第一項及第四項「第十三條」第十四  
 條第一項及第五條「ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス」二十三年八月勅令第九十號  
ヲ以テ(元第十八條)ヲ(元第十九條)ニ改メ二十三年十月勅令第八十號ヲ以テ(第十條)ノ下ニ(第  
一項及第二項(第十二條)ノ下ニ(第一項及第四項(第十三條)ノ下ニ(第十四條第十五條)ヲ加フ  
遅緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ勾留ニ處ス二十三年八月勅令第九十號ヲ以テ(元  
第二十條)第十條第十二條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其通報  
ヲ遅緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ勾留ニ處ス二十三年八月勅令第九十號ヲ以テ(元  
附則)二十八十月勅令第九十號ヲ以テ本則ヲ追加ス

第二十一條 市制町村制ヲ實施セサル地方ニ在テ本條例中市町村長ノ職務ハ戶長ニ於テ之ヲ行フ可シ

○第四百十六 豫備後備下士兵卒服役條例 明治二十二年十二月二十八日(十二月三十日公布)勅令第四百四號  
朕陸軍豫備後備下士兵卒服役條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍豫備後備下士兵卒服役條例

第一條 陸軍豫備後備下士兵卒ハ本籍師管ノ兵籍ニ編入シ大隊區司令官ノ管轄ニ屬ス

(北海道徵兵令未行地在籍ノ豫備後備兵卒ハ屯田兵司令官ノ管轄ニ屬ス)二十三年八月勅令第九加シ二十七年十月勅令第百八十一號ヲ以テ削除ス

第二條 豫備後備下士ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度簡閱點呼ヲ爲シ又勤務演習ノ爲メ召集スルコトアル可シ

第三條 豫備後備下士ニシテ文官ニ任セラレ餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル者及市町村長、助役、收入役ト爲ル者ハ勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲ル者其開會中亦同シ  
餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル者ハ豫メ當該官廳ヨリ内閣ニ具狀シ認可ヲ請ケ本人所管ノ大隊區司令官ニ通達ス可シ其事故止ミタルトキ亦同シ

第四條 豫備後備下士兵卒服役滿期ニ至リタルトキハ辭令ヲ用キスシテ豫備ハ後備ニ後備ハ國民兵役ニ入ルモノトス但下士ニ在テ後備滿期ニ至リタルトキハ其官消滅スルモノトス

第五條 豫備後備下士及下士適任證書ヲ有スル者滿期後引續キ服役セント欲スルトキハ年數ヲ定メ市町村長東京都大阪ノ三市ニ在テハ區長以下之ニ依リ及監視區長ヲ經テ大隊區司令官ニ願出可シ

第六條 豫備後備下士兵卒ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召集ノ猶豫若クハ簡閱點呼免除ヲ願ハント欲スルトキハ其願書ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ監視區長ヲ經テ大隊區司令官ニ差出ス可シ

第七條 豫備後備下士兵卒ニシテ監視區外ニ寄留スル者ハ願ニ由リ其地ニ於テ簡閱點呼ヲ受クルコトヲ得

一箇年以上師管歩兵ニ在テハ旅管外ニ寄留スル者ハ願ニ由リ寄留地師管又ハ旅管ニ於テ勤務演習ヲ爲スコトヲ得

第二項ニ依リ願出ル者ハ本籍市町村長ノ與書證印ヲ受ケ監視區長ヲ經テ大隊區司令官ニ差出ス可シ但許可ヲ受ケタルトキハ寄留地到着後寄留後出願ノ者三日以内ニ(其由ヲ寄留地ノ)豫備後備ノ編入年ヲ記シ其ノ由ヲ寄留地市町村長ヲ經テ同地ニ監視區長ニ届出可シ

第八條 現役ヨリ豫備後備若クハ後備役ニ入ル下士兵卒ハ十四日以内ニ衛戍地又ハ從前ノ在職地ヲ出發シ一日行程十里詰ヨリ勘ナカラサル日數間ニ歸郷シ著後十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ

衛戍地又ハ從前ノ在職地若クハ其他ノ地ニ二十五日以上滞在若クハ寄留セント欲スルトキ

ハ本條ノ出發期日內ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報ス可キ者ヲ定メ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ但歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲ス可シ  
 前項ノ滞在在地若クハ寄留地本籍地外ノ大隊區ニ係ルトキハ其ノ他ノ市町村長ヲ經テ同地監視區長ニモ届出ヘシ但本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲ストキ亦同シ同上勅令ヲ以テ  
 第九條 豫備後備下士兵卒傷疾若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ  
 第十條 豫備後備下士兵卒兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ但監視區外ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ監視區長ニ届出可シ  
 第十一條 豫備後備下士兵卒十四日以上ノ旅行或ハ寄留セント欲スルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報ス可キ者ヲ定メ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ但歸郷シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ  
 前項ノ寄留地本籍地外ノ大隊區ニ係ルトキハ寄留地市町村長ヲ經テ同地監視區長ニモ届出ヘシ但本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲ストキ亦同シ同上勅令ヲ以テ  
 外國ニ旅行中又ハ寄留中ハ勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ但對馬警備隊區ニ在テ朝鮮國釜山ニ旅行又ハ寄留スル者ハ此限ニアラス  
 外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受ケ又ハ其ノ他ノ手續ニ由リ充員若クハ後備軍召集ノ舉アルコトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到着後二十四時以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出ヘシ

長ニ届出ヘシ同上勅令ヲ以テ

第十二條 豫備後備下士兵卒ニシテ市町村長、助役、收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルトキ並ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ

第十三條 豫備後備下士兵卒ニシテ死亡又ハ失踪シタル者(アルトキハ親族)「アルトキ及失踪中戶籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戶主本人戶主ナラバ本人戶主ナラバ本人戶主ナラバ」ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ失踪ノ者歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ「但監視區外ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ監視區長ニ届出可シ(アルトキ並ニ之ヲ罷メタルトキハ)」  
同上勅令ヲ以テ  
 家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ監視區長ニ通知スヘシ同上勅令ヲ以テ

第十四條 豫備後備下士兵卒重罪罰金ヲノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ(其親族)「其ノ戶主本人戶主ナラバ本人戶主ナラバ本人戶主ナラバ」ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ同上勅令ヲ以テ  
下別番トモ十三字ニ改メ  
 家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ監視區長ニ通知スヘシ同上勅令ヲ以テ

第十五條 本條例中兵卒ト稱スルハ雜卒職工ヲ包含ス

第十六條 第七條第三項但書第八條第一項及第二項第十條第十一條第一項及第四項第

十二條第十三條第十四條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處

ス同上勅令ヲ以テ(第八條)ノ下(第一項及第三項)(第十一條)ノ下(第一項及第四項)(第十二條)ノ下(第十三條第十四條)ヲ加フ

第十七條 第八條第十一條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其通報

ヲ遅緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ勾留ニ處ス

第十八條 豫備後備下士兵卒正當ノ事由ナクシテ簡閱點呼ニ會セサル者ハ五十錢以上一圓

九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十九條 警備隊區ニ於テハ本條例中大隊區司令官ノ職務ハ警備隊區司令官之ヲ行ヒ監視

區長ノ職務ハ警備隊區副官之ヲ行フ又大隊區監視區トアルハ同警備隊區トス同上勅令ヲ以テ本條ヲ修正ス

第二十條 屯田兵條例ニ依リ服役スル豫備後備下士兵卒ノ取扱ハ別ニ定ムル所ニ依ル同上勅令ヲ以テ本條ヲ加フ

第二十一條 第七師管ニ大隊區司令部設置迄ハ大隊區司令官ノ職務ハ屯田兵司令官之ヲ行

ヒ監視區長ノ職務ハ屯田兵副官之ヲ行フ同上勅令ヲ以テ本條ヲ加フ

附則

第二十二條 市制町村制ヲ實施セザル地方ニ在テ本條例中市町村長ノ職務ハ戶長ニ於テ之

ヲ行フ可シ同上勅令ヲ以テ元(第二十條)ヲ(第二十二條)ニ改ム

○第四百十七條 後備軍服役中他家ノ養子トナリ分家相續等ニ取極ノ者届出方ノ件明治九年

九月二十三日 陸軍省達第四百十六號

後備軍服役中他家ノ養子トナリ或ハ分家相續人等ニ取極度者ハ復習並非常ノ際無故障召募

ニ應スヘキ後證ヲ以テ其管轄廳ニ願出其廳ニ於テ篤ト事實ヲ取札シ無相違者ハ聞届直ニ所

管廳臺へ届出候様可致此旨相違候事

○第四百十八條 陸軍後備役兵卒及陸海軍豫備徵員滿期ノトキ其名簿ヲ島廳那衛ニ送付

シ島廳那衛ニ於テ保存ノ件明治二十五年四月十五日 陸軍省訓令第六號北海道廳府縣(神戶縣ヲ除ク)

陸軍後備役兵卒及陸海軍豫備徵員滿期ノトキハ其名簿後備役滿期ノヲ大隊區司令部ヨリ北海

道廳府縣廳ニ送付セシメ候條之ヲ國民兵名簿トシ年齢四十歳迄保存ス可シ但警備隊區ニ在

テ後備役滿期トナル者ノ戰時名簿ハ警備隊區司令部ヨリ島廳又ハ郡役所ニ送付セシメ候條

島廳又ハ郡役所ニ於テ保存セシムヘシ

●同指令

●陸軍豫備後備下士兵卒身上異動届等取扱ノ件明治二十五年四月二十一日 陸軍省訓令

郡役所ハ陸軍召集條例第四百十八條同第四百十九條ニ示シタル如ク陸軍豫備後備將校下士

兵員名簿ヲ備へ異動アルトキハ必ス筆削ヲ加フベキ處明治二十二年陸軍豫備後備服役條例

竝ニ歸休兵條例被相定身上異動等ハ總テ町村長ヲ經テ監視區長へ届出ツヘキ筈ニテ郡役所

ハ其異動ヲ知ルニ由ナク依テ右異動届ノ際ハ町村長ヨリ郡長へ報告ノ手續ニ致シ來候得共

動モスレハ報告疎漏ヲ生シ實際差問モ有之候間今般陸軍召集旅費支出規程被相定就テハ郡



役所名簿ノ儀一層精確ヲ要シ候間前文條例中身上異動届等町村長ヲ經ヘキ分ハ總テ郡役所  
ヲ經由候様致度於然ハ町村役場ハ勿論郡役所監視區共取扱上便宜ニシテ郡役所名簿確實ト  
可相成候條御許可相成度

陸軍省指令 明治二十五年四月二十九日

伺ノ通

(附言) 歸休兵豫備後備將校下士兵卒服役者召集ニ關スル條規ハ陸軍召集條例等ニ於テ  
詳記スル處アルヲ以テ參看スヘシ

### 第六款 屯田兵

#### 第一節 屯田兵條例及召集規則

第四百十九 屯田兵條例明治二十三年八月二十九日(八月三十日公布)  
勅令第百八十一號

朕屯田兵條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 屯田兵條例

第一條 屯田兵ハ屯田歩兵屯田騎兵屯田砲兵屯田工兵ヲ以テ編成シ北海道樞要ノ地ニ配置

シテ其警備ニ充ツ

第二條 屯田兵ハ兵農相兼ヌルノ制トス平常ハ給與イ兵屋ニ居住シ軍事上ノ訓練及開墾耕

稼ニ従事セシム

第三條 屯田兵ハ府縣ヨリ志願者ヲ召集シ本籍ヲ北海道ニ移シ家族ト共ニ移住セシム

第四條 屯田兵服役ノ期限ハ二十箇年トシテ現役八箇年後備役十二箇年トス

豫備後備服役中ハ戰時若クハ事變ニ際シ召集ス又平時ニ在テハ勤務演習ノ爲メ召集シ簡

閱點呼ヲ爲ス二十七年七月勅令第九十四號

服役期限中滿四十歳ニ至リ又ハ死亡若クハ事故ニ由リ免役シタルトキハ其家族中適當ノ

男子ヲシテ兵役ノ殘期ヲ相續セシム若シ適當ノ男子ナキトキハ兵役ヲ免ス

後備服役中ハ戰時若クハ事變ニ際シ召集ス又平時ニ在テハ勤務演習ノ爲メ召集シ及簡閱

點呼ヲ爲ス同上勅令ヲ以テ

第五條 後備役滿期後十箇年間補充兵役ニ服セシメ戰時若クハ事變ニ際シ召集ス

第六條 第四條第五條ノ各兵役年期ハ編入年ノ四月一日ヨリ起算ス

第七條 各兵役ノ期限既ニ滿ツルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ

艦兵ノ擧アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期限ヲ延スルコトアル可シ

附則

第八條 (此條例實施)以前ニ召集シタル屯田兵ハ左ノ區別ニ依リ服役セシム同上勅令ヲ以テ(此

二十七年)

一 明治八年ヨリ明治十六年迄ニ召集シタル者ハ明治二十四年ヨリ四箇年間豫備役ニ服

セシメ滿期後九箇年間後備役ニ服セシム

一 明治十七年ヨリ明治二十年迄ニ召集シタル者ハ明治二十四年ヨリ四箇年間豫備役ニ

服セシメ滿期後召募ノ年ヨリ起算シ二十年ニ滿ツル迄後備役ニ服セシム

一 明治二十一年ニ召募シタル者ハ明治二十五年ヨリ四箇年豫備役ニ服セシメ滿期後召募ノ年ヨリ起算シ二十年ニ滿ツル迄後備役ニ服セシム

一 (明治二十二年以後ニ召募シタル者ハ此條例ニ依ル) 同上勅令ヲ以テ削除ス

一 明治二十二年以後明治二十四年以前ニ召募シタル者及明治二十五年以後明治二十七年以前ニ召募シタル騎兵、砲兵、工兵ハ三箇年間現役ニ四箇年間豫備役ニ二十三箇年間後備役ニ服セシム 同上勅令ヲ以テ本項以下ヲ追加ス

一 明治二十五年以後明治二十七年以前ニ召募シタル歩兵ハ七箇年間現役ニ十三箇年間後備役ニ服セシム

第九條 (明治二十一年以前ニ召募シタル屯田兵)ノ各兵役年期ノ起算方ハ本條例第六條ニ依ル 同上勅令ヲ以テ(明治二十一年以前ニ召募シタル屯田兵)ヲ(前條)ニ改ム

(明治二十二年及明治二十三年ニ於テ召募シタル者ノ現役年期ハ屯田兵編入ノ當日ヨリ起算シ豫備役後備役年期ハ前役滿期ノ翌日ヨリ起算ス) 同上勅令ヲ以テ本項ヲ削リ

第十條 豫備役中ハ戰時若クハ事變ニ際シ召集ス又平時ニ在テハ勤務演習其他ノ時ニ公務ニ服セシムル爲メ召集ス 同上勅令ヲ以テ本條ヲ改正ス

○第四百二十 屯田兵召募規則 明治二十七年五月二十一日 陸軍省令第六號

明治二十三年陸軍省令第三十號屯田兵召募規則左ノ通改正ス

屯田兵召募規則

第一條 屯田兵ハ志願者中召募検査ニ合格シタル者ヨリ採用シ 廿年四月ニ於テ移住セシム

第二條 屯田兵召募検査ハ其年ノ召募區域内ニ於ケル大隊區司令官又ハ警備隊區司令官之ヲ行フ

第三條 屯田兵召募區域及其人員ハ召募スヘキ前年ニ於テ之ヲ告示ス

第四條 屯田兵志願者ハ前條ノ告示ニ依リ其年ノ八月三十一日迄ニ第一書式ノ願書ニ第二第三第四書式ノ履歷書、戶籍明細書、家族身體證明書ヲ添ヘ市町村長 東京京都大阪ノ三市ニ在ニ差出スヘシ

第五條 市町村長前條ノ願書ヲ受領シタルトキハ第五書式ニ依リ志願者ノ身元證明書ヲ作リ願書ニ添ヘ府縣廳(市町村長ハ島司)ニ差出シ府縣廳ニ於テハ之ヲ審査シ更ニ第六書式ノ連名簿ヲ作り九月三十日迄ニ當該大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ニ送附シ願書、履歷書、戶籍明細書及家族身體證明書ハ同時ニ屯田兵司令部ニ發送スヘシ

第六條 大隊區司令官又ハ警備隊區司令官前條ノ連名簿ヲ受領シタルトキハ島司郡市長ニ協議シ検査場ヲ定メ検査日割ヲ島司郡市長ニ通知シ島司郡市長ハ之ヲ町村長ニ達シ其當日ニ至レハ市町村吏員ヲシテ志願者ヲ引纏メ検査場ニ出頭セシムヘシ但志願者ニハ第一書式履歷書ノ寫ヲ携帶セシムヘシ

志願者検査場ヘノ往復旅費並滞在日當ハ之ヲ給セス

第七條 屯田兵志願者願書ヲ差出シタル後自己及家族ノ身上ニ異動ヲ生シタルトキハ書面ヲ以テ志願者ノ死亡失踪廢刑市町村長及島司郡長ヲ經テ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ届出ヘシ

大隊區司令官又ハ警備隊區司令官前項ノ届書ヲ受領シタルトキハ之ヲ屯田兵司令官ニ通報スヘシ

第八條 屯田兵召募検査終レハ大隊區司令官警備隊區司令官ハ第八書式ノ検査成績表不合格者ヲ除ク及第九書式ノ里程表ヲ作り十二月三十一日迄ニ到達ノ時日ヲ測リ之ヲ屯田兵司令官ニ送付スヘシ但里程表ノ調製ハ第十附表屯田兵集合地名表ニ基クヘシ

屯田兵司令官ハ検査成績表及第五條ノ書類ヲ審査シ採用スヘキ者ト豫備員トヲ定メ其人名簿竝採用スヘキ者ノ集合地ヘ參集期日ヲ大隊區司令官警備隊區司令官ニ通知シ同官ハ第六條ノ手續ニ依リ之ヲ本人ニ告達シ又府縣廳ニ通知スヘシ

第九條 屯田兵移住ノ際ハ府縣知事吏員ヲ其集合地ニ派遣シ屯田兵受領員ニ引渡サシメ且其宿泊乘車乘船等ニ係ル取扱ヲ補助セシムヘシ

第十條 屯田兵ニ採用スヘキ者ノ資格ハ左ノ如シ

- 一 年齢 滿十七年以上三十五年以下召募年ノ四月一ノ者日ヲ以テ算ス
- 二 身長 五尺以上ノ者

但年齢二十年未滿ニシテ發育ノ見込アル者ハ四尺九寸以上

三 體質 強健ニシテ兵農ノ動作ニ堪ユル者

第十一條 前條ノ資格アル者ト雖モ左ノ事項ニ該ル者ハ採用セス

- 一 陸海軍現役兵及海軍豫備兵後備兵
  - 二 一家中耕稼ノ勞働ニ堪ユル強壯者養子ニシテ入籍後第四條ノ出願時期迄ニ一箇年ニ滿タサル者ハ除ク本人ヲ併セテ三人ニ滿タサルモノ
  - 三 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ未タ復權ヲ得サル者竝其處分ヲ受ケスト雖モ移住迄ニ負債ヲ辨償シ得サル者
  - 四 素行修マラサル者
  - 五 禁錮ノ刑ニ處セラレタル者
  - 六 養子ニシテ入籍後第四條ノ出願時期迄ニ一箇年ニ滿タサル者
  - 七 召募區域内ニ本籍ヲ定メ第四條ノ出願時期迄ニ一箇年ニ滿タサル者
- 第十二條 屯田兵志願者ノ身體検査ハ陸軍志願兵身體検査規則ニ依ル
- 屯田兵志願者身體検査醫官ハ検査場最寄衛戍地在職ノ軍醫ヲ派シテ之ニ任セシム之カ爲メ大隊區司令官ハ豫メ検査日割及検査場ヲ師團長ニ上申シ軍醫ノ派遣ヲ申請スヘシ但警備隊區ニ在テハ警備隊區司令官ヨリ警備隊司令官ニ軍醫ノ派遣ヲ請求スルモノトス
- 前項ノ軍醫ハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ノ指揮ヲ受クルモノトス

第十三條 屯田兵ニ採用ノ違ヲ受ケタル者ハ直ニ家族<sup>成年以上ノ者ト共ニ</sup>第七誓式ノ誓文書ヲ作り市町村長及島司郡長ヲ經テ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ差出スヘシ  
前項ノ誓文書ハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官之ヲ取經メ屯田兵司令官ニ送附スルモノトス

第十四條 屯田兵ニ採用スヘキ者ノ支度料旅費日當及運搬料ハ屯田兵司令部ヨリ大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ニ送附スヘシ  
大隊區司令部又ハ警備隊區司令部前項諸費ノ送附ヲ受ケタルトキハ之ヲ本人ニ支給スヘシ

第十五條 屯田兵ニ採用ノ違ヲ受ケタル者ニシテ移住前戸主トナラサル者若クハ第十一條ニ該當シ又ハ失踪死亡等ノ事故ヲ生シタルトキハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官其採用ヲ取消シ豫備員ヲ以テ之ヲ補充シ其旨ヲ屯田兵司令官ニ通報スヘシ但其採用ヲ取消シタル者既ニ支度料旅費日當及運搬料支給後ニ係ルトキハ之ヲ返納セシムヘシ

第十六條 疾病其他正當ノ事故ニ由リ指定ノ期日ニ移住シ難キ者アルトキハ期日ヲ定メ疾病ニ罹ル者ハ醫師ノ診斷書其他ノ事故ニ係ル者ハ憲兵警察官若クハ市町村長ノ證明書ヲ添ヘ戸主ヨリ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ移住ノ猶豫ヲ願出ヘシ但本文ノ事故止ミタルトキハ大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ニ就キ旅費日當ヲ受領シ直ニ出發スヘシ  
大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ於テ前項ノ許可ヲナストキハ其旨ヲ屯田兵受領員ニ

通報スヘシ

第十七條 臨時屯田兵ノ缺員ヲ補充スルノ必要アルトキハ屯田兵服役者ノ家族中男子ニシテ分籍ヲ志願スル者ノ内ヨリ採用スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ在テハ本規則第十條乃至第十三條ノ例ニ準據ス

第十八條 移住者ノ荷物ハ一戸ニ付八箇以内トシ一箇ノ重量ハ九貫目以内トス但左ニ掲クル物件ハ携帶スルヲ許サス

- 一 長持若クハ之ニ等シキ體積ノモノ
- 二 大形ノ箆筒若クハ之ニ類スルモノ
- 三 漬物若クハ流動物ヲ入レタル樽ノ類
- 四 甕若クハ臼類
- 五 危險物
- 六 以上掲クルモノ、外取扱ノ困難ナルモノ

附則

第十九條 本令施行期限以前從前ノ規定ニ依リ願書ヲ府縣廳ニ差出シタルモノハ之ヲ受理ス

第二十條 市制町村制實施セサル地方ニ在テハ本規則中市町村長ノ職務ハ區戸長ニ於テ之ヲ行フヘシ